

全国地震動予測地図 2018 年版  
地図編

震源断層を特定した地震動予測地図  
(シナリオ地震動予測地図)  
(2019年1月修正版)

## 震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）について

主要活断層帯の「震源断層を特定した地震の地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）」として新規追加されたものをまとめて示す。各断層の記述内容は次の通りである。

- ・断層帯名
- ・震源パラメータ
- ・断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）
- ・地表震度分布（詳細法全ケース・簡便法）
- ・震度曝露人口分布の例（ケース1・ケース2）

詳細法ケースの地表震度分布図中には、断層の端部から水平距離約 50km の範囲内で、断層との位置関係や人口を参考に選んだ各 10 都市も示す。

主要活断層帯のうち、震源パラメータ、断層モデル、破壊開始点は、「震源断層を特定した地震の強震動予測手法（「レシピ」）」のうち「長期評価された地表の活断層長さ等から地震規模を設定し震源断層モデルを設定する場合」に相当する（イ）の方法、および次頁に示す「断層モデル作成の基本方針」に従って設定した。

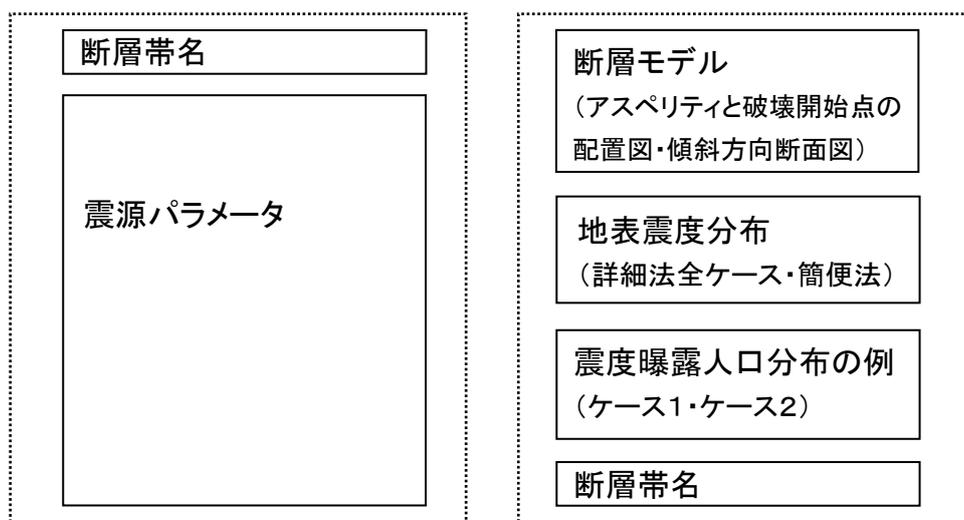
なお、中央構造線断層帯全体が同時に破壊するケースについては、震源パラメータを設定する際に、震源断層長さがおおむね 80km を超えることにより（イ）の方法で用いられる松田（1975）の適用範囲を逸脱するおそれがあるため、上記「レシピ」のうち、「過去の地震記録や調査結果などの諸知見を吟味・判断して震源断層モデルを設定する場合」に相当する（ア）の方法を適用した。これについては、付録 1 で後述する。

また、海溝型地震について、「千島海溝沿いの地震活動の長期評価（第三版）」の領域区分の組み合わせにより震源断層モデルを設定した。

### 各断層の記述内容(基本的な場合)

左頁

右頁



※ 本書に掲載した地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000（空間データ基盤）及び基盤地図情報を使用した。（承認番号 平 30 情使、第 78 号）

※ 日本領土のうち、南鳥島と沖ノ鳥島では、計算に必要な基データが整備されていないため、地図を作成していない。

※ 本書では、世界測地系を使用している。

## 断層モデル作成の基本方針

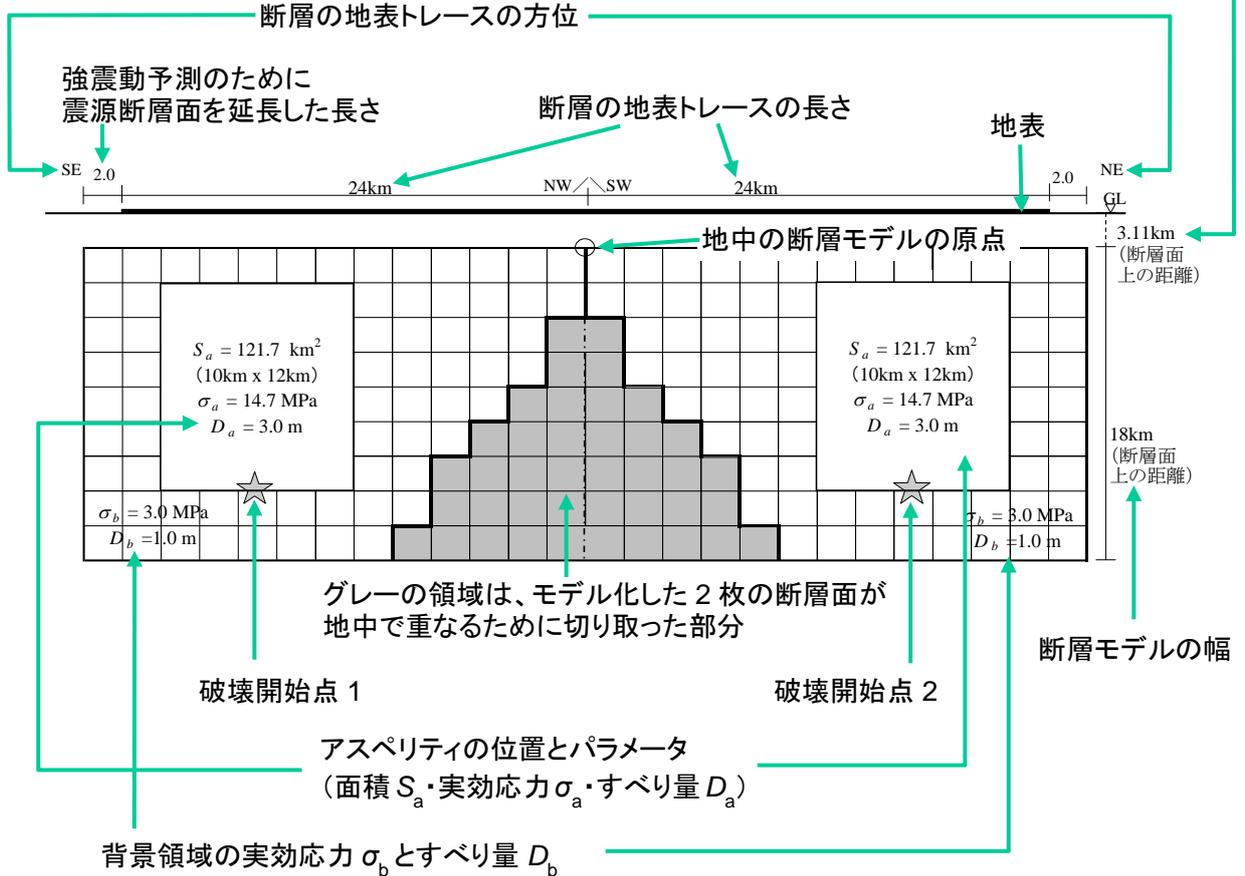
- ・ 強震動評価が既に行われている断層帯については、できる限り強震動評価の際の断層パラメータを用いる。
- ・ 長期評価による長さが 15km 未満の活断層については、「確率論的地震動予測地図」のための巨視的断層パラメータは設定するが、「震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）」のための詳細法を用いた強震動計算は行わない。ただし、発生確率が高い等、作成が必要と判断した際には、個別に検討する。
- ・ 複数の断層モデルが重なる場合、実際に断層面が交差するか、交差しないか、現状で明らかでない場合は、断層モデルが交差することを許す。
- ・ 長期評価において複数の断層が同時に活動するケースの地震発生確率が求められていない場合でも、同時に活動する可能性を否定できない区間については、同時に活動するケースを検討する場合がある。
- ・ アスペリティの個数は、原則として、断層の長さが 25km 以下の場合は 1 つ、25km を上回り 30km に満たない場合は 1 つまたは 2 つ、30km 以上の場合は 2 つ配置する。断層帯付近から得られた諸情報に基づいてアスペリティの配置が推定できる場合は、それに従う。
- ・ 破壊開始点の位置は、根拠となる情報が無い場合、縦ずれ断層の場合は、アスペリティの下端中央に、横ずれ断層の場合は、アスペリティ下端の左右端に設定する。
- ・ 震源パラメータの設定において、アスペクト比（断層長さ／幅）が大きい場合には、断層総面積に対するアスペリティ総面積の割合が、「レシピ」に示した値（平均 22% (Somerville *et al.*, 1999)、または 15%～27% (宮腰・他, 2001)) を超える場合がある。本報告では、アスペクト比（断層長さ／幅）が 2 を超える場合の震源断層について、アスペリティ面積の震源断層全体に対する比率 ( $S_a/S$ ) を 22%、震源断層全体の静的平均応力降下量 ( $\Delta\sigma$ ) を 3.1MPa と仮定したモデルの震源パラメータも試算する（表中に赤字があるモデル）。断層モデル図および計算結果については、本報告では取り扱わないこととする。

微視的断層モデルとその直交断面の見方の例

**微視的断層モデル**（地表トレースの方位に合わせて上から見た断層面図）

（断層のメッシュサイズは 2km×2km）

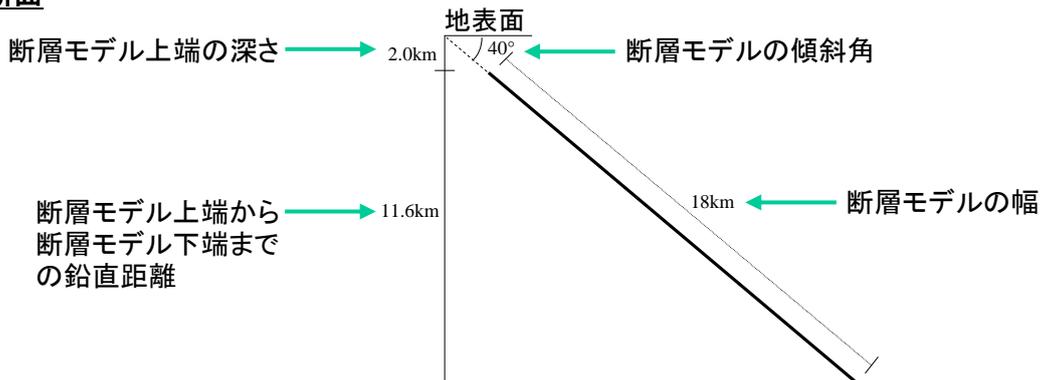
断層面上で傾斜方向に測られた地表から断層上端までの距離



※ ☆が複数ある場合には、破壊開始点が異なる複数ケースを想定して計算している。

※ アスペリティの枠線が実線の場合は、長期評価による空間的なすべりの大小の情報から位置を推定したもの。点線の場合は、情報が無いため、レシピに従い配置したもの。

**直交断面**



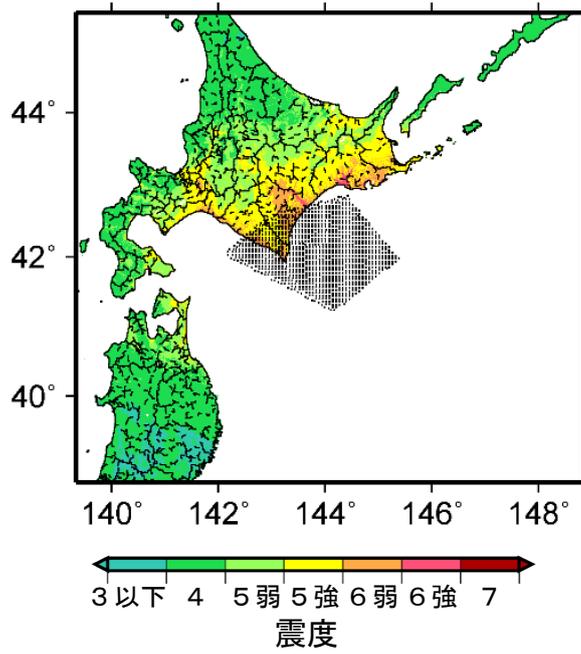


千島海溝沿いの地域(簡便法のみ)

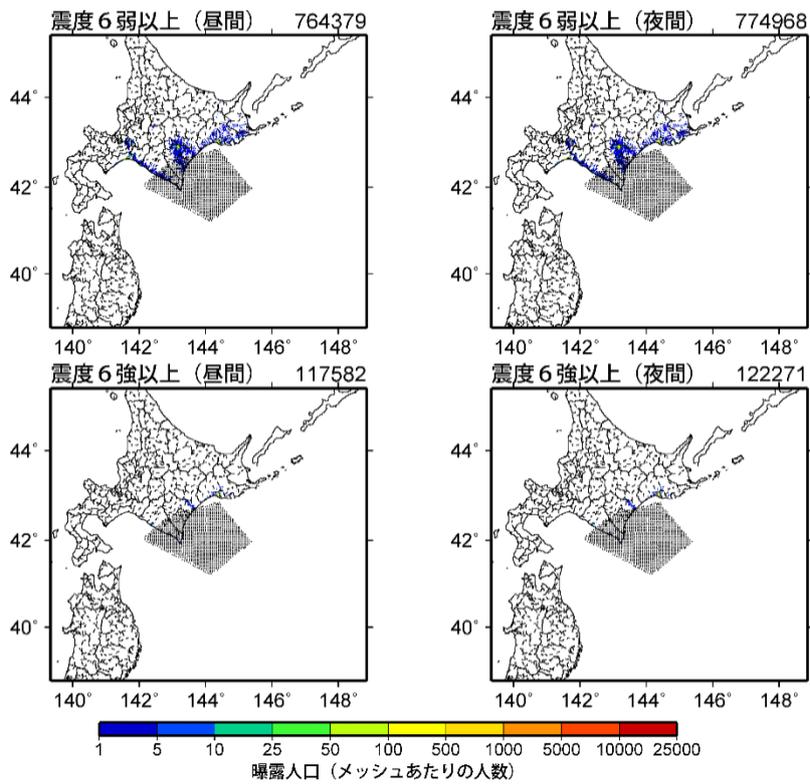
**震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)**  
**十勝沖のプレート間巨大地震**

十勝沖のプレート間巨大地震の震源パラメータ

震源域	断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]	地震モーメント $M_0$ [Nm]	モーメントマグ ニチュード $M_w$
[モデル1] 十勝沖	27,680	5.67E+21	8.4
[モデル2] 十勝沖～境界領域(十勝沖から根室沖)	35,020	8.07E+21	8.5
[モデル3] 十勝沖, 海溝寄りを含む	33,860	7.67E+21	8.5
[モデル4] 十勝沖～境界領域(十勝沖から根室沖), 海溝寄りを含む	44,860	1.17E+22	8.6



地表震度分布



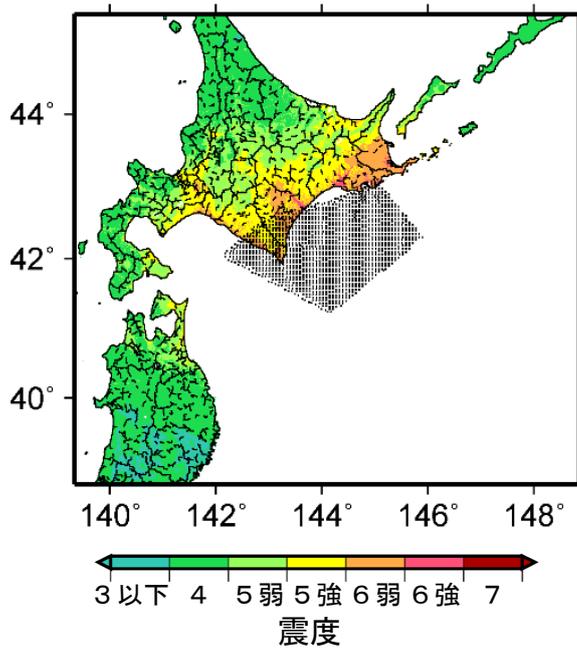
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

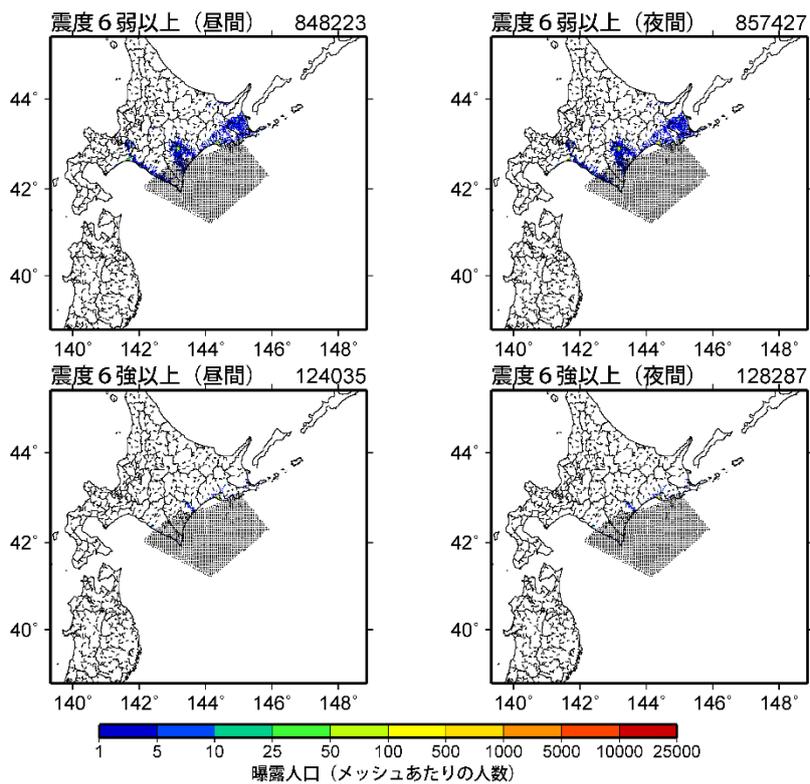
簡便法モデル 1

十勝沖のプレート間巨大地震

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)



地表震度分布



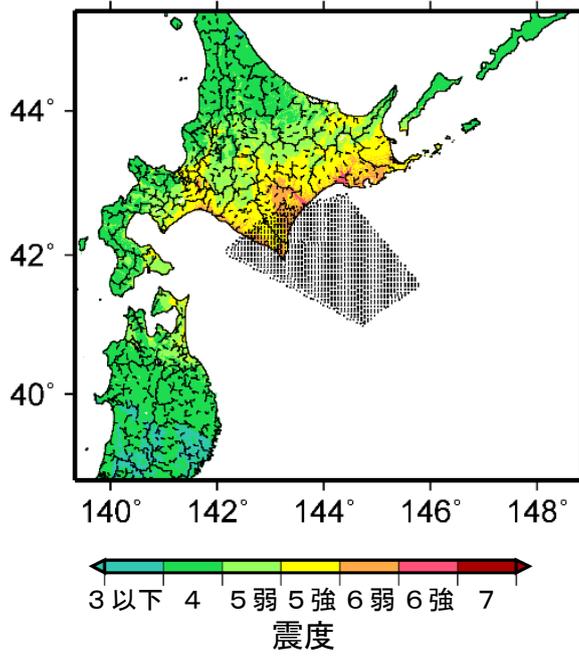
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

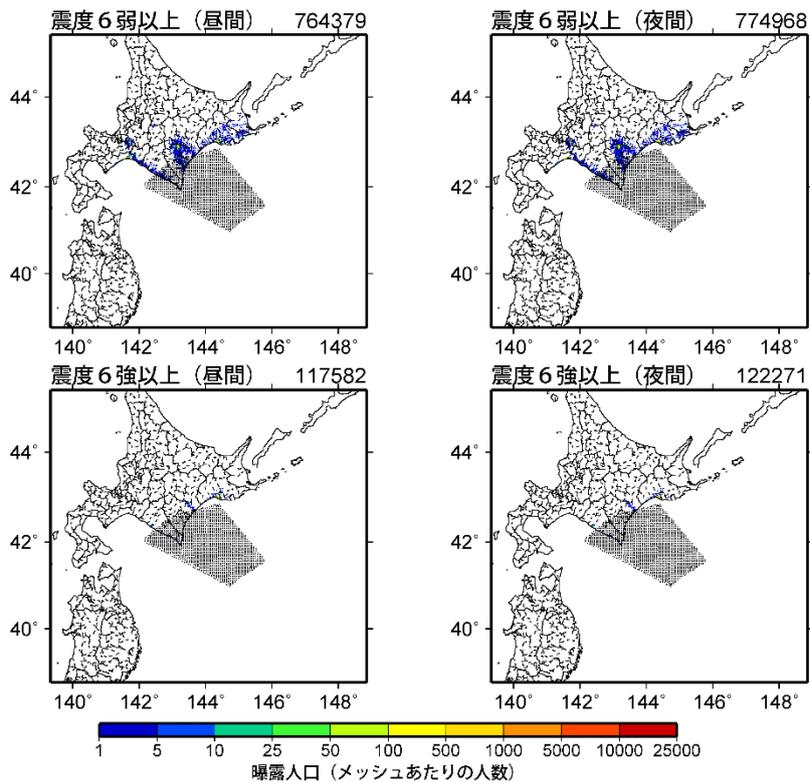
簡便法モデル2

十勝沖のプレート間巨大地震

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)



地表震度分布



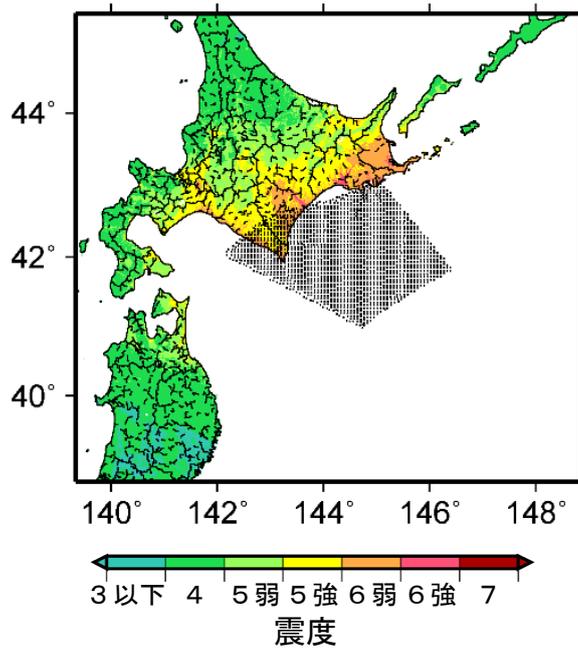
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

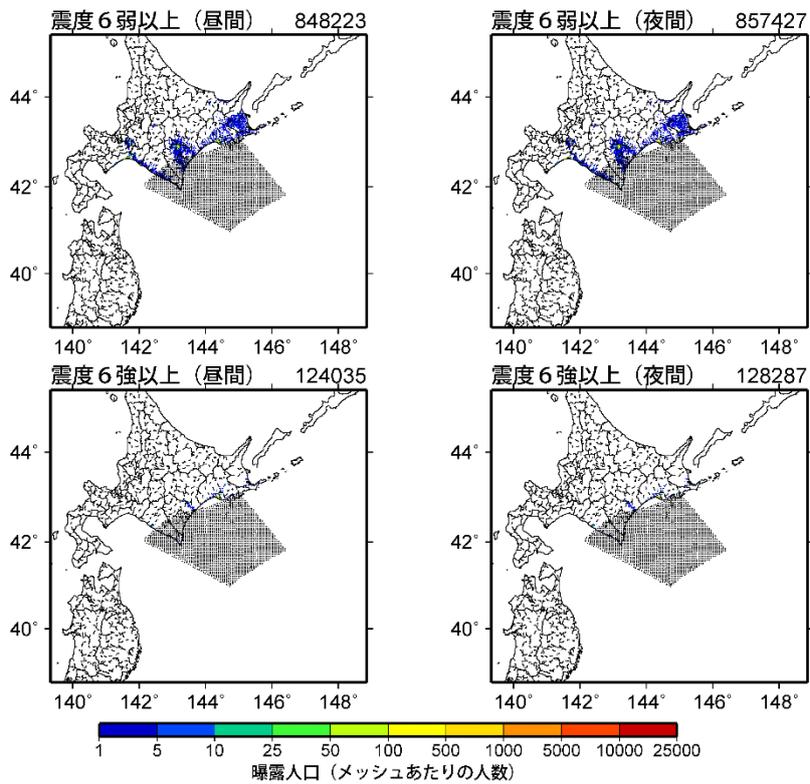
簡便法モデル 3

十勝沖のプレート間巨大地震

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)



地表震度分布



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

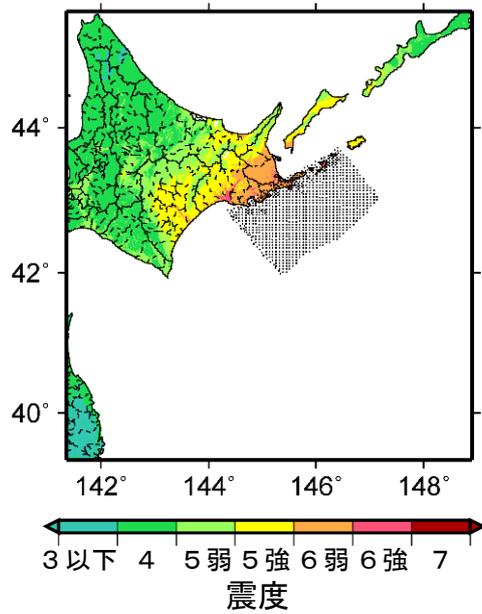
簡便法モデル4

十勝沖のプレート間巨大地震  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

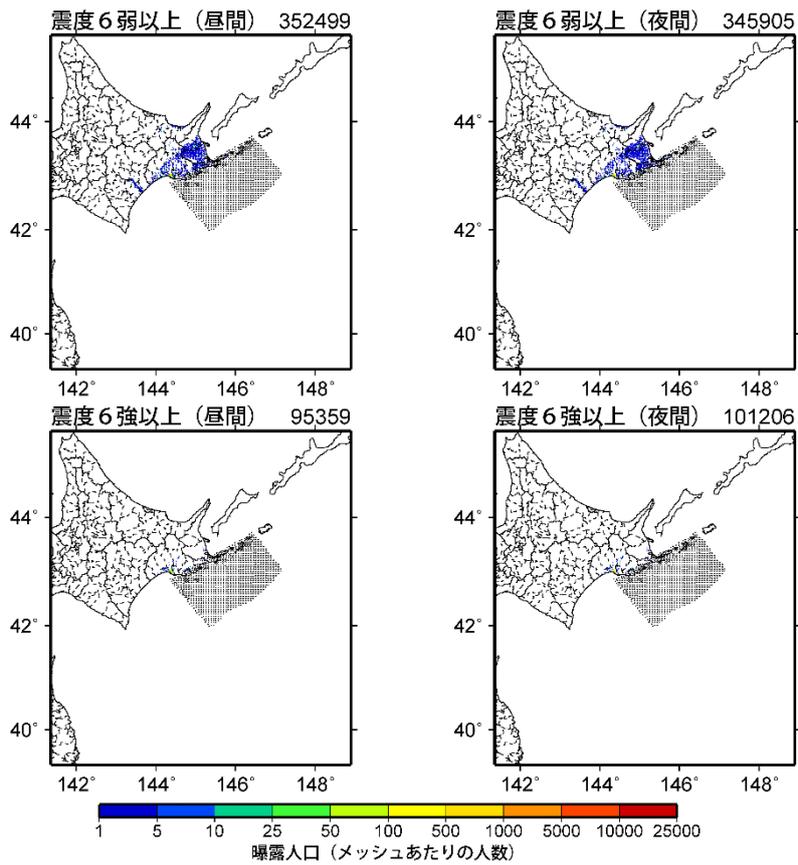
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**根室沖のプレート間巨大地震**

根室沖のプレート間巨大地震の震源パラメータ

震源域	断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]	地震モーメント $M_0$ [Nm]	モーメントマグニチュード $M_w$
[ケース1] 境界領域（十勝沖から根室沖）～境界領域（根室沖から色丹島沖）	23,130	4.33E+21	8.4
[ケース2] 境界領域（十勝沖から根室沖）～根室沖，海溝寄りを含む	26,820	5.41E+21	8.4
[ケース3] 根室沖～境界領域（根室沖から色丹島沖），海溝寄りを含む	24,560	4.74E+21	8.4
[ケース4] 境界領域（十勝沖から根室沖）～境界領域（根室沖から色丹島沖），海溝寄りを含む	35,560	8.26E+21	8.5



地表震度分布



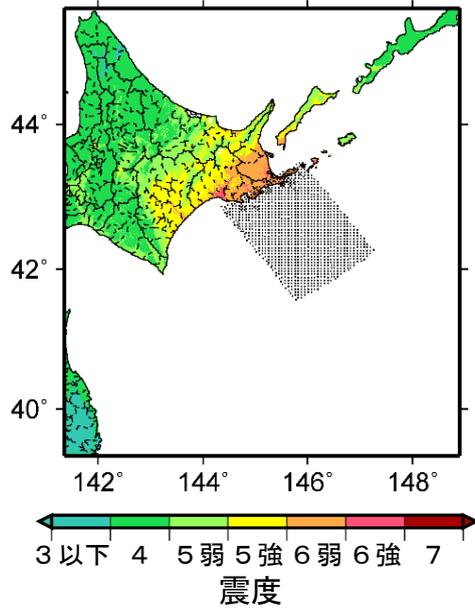
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

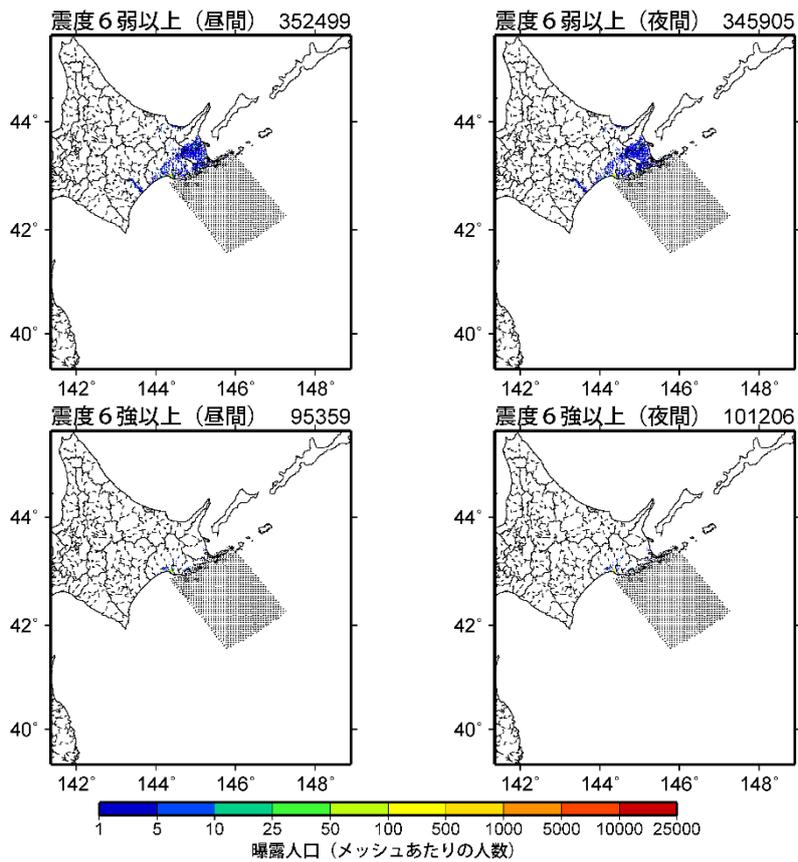
簡便法モデル1

根室沖のプレート間巨大地震

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)



地表震度分布



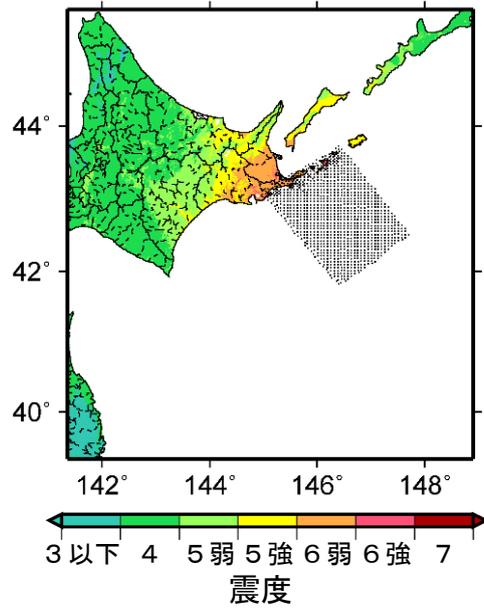
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

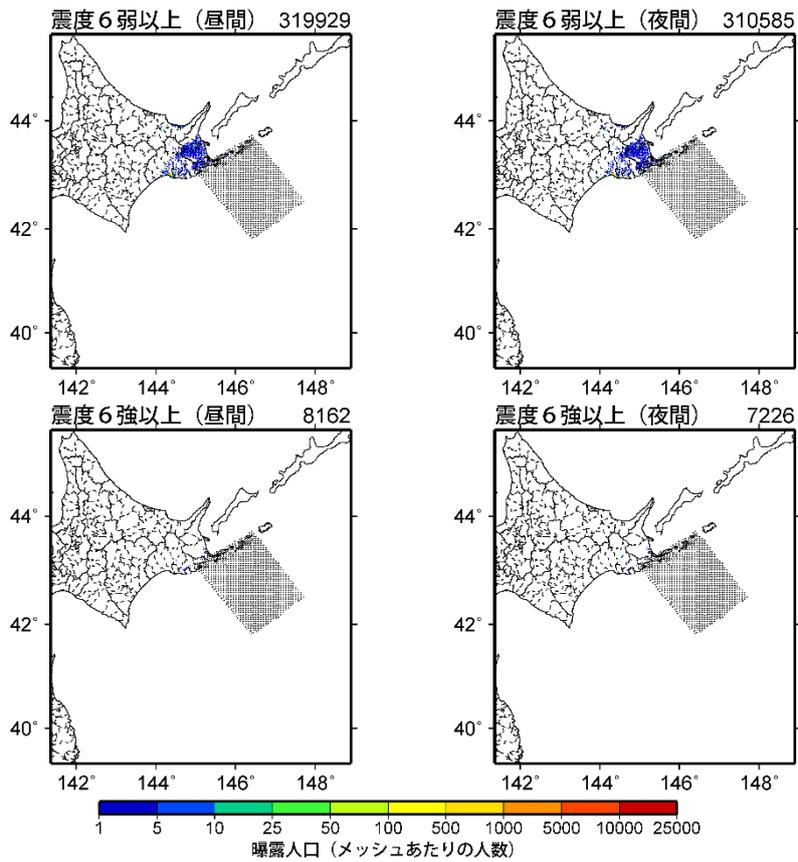
簡便法モデル2

根室沖のプレート間巨大地震

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)



地表震度分布



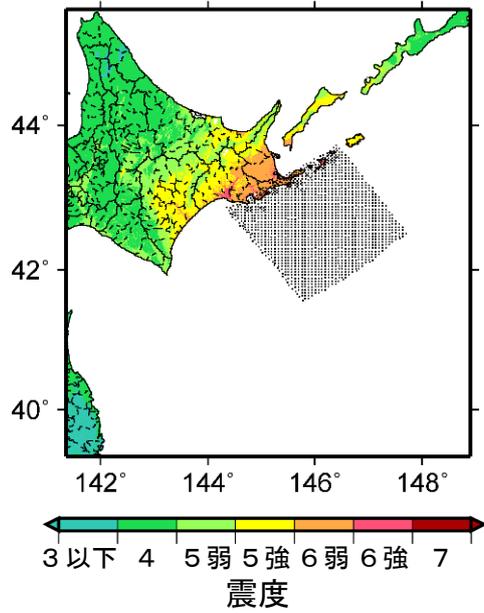
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

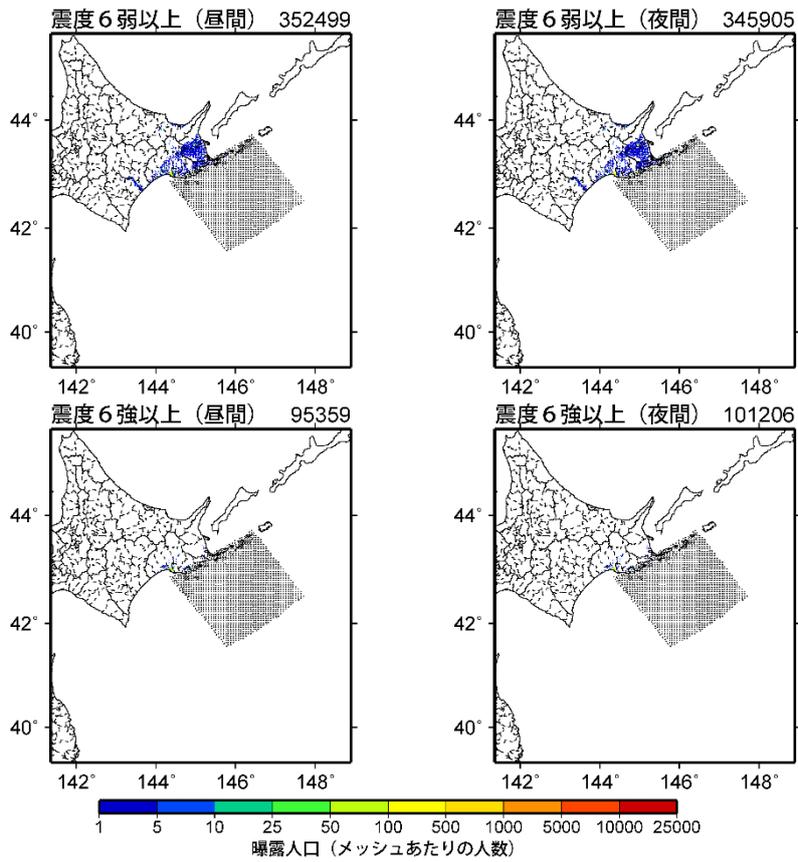
簡便法モデル3

根室沖のプレート間巨大地震

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)



地表震度分布



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

簡便法モデル4

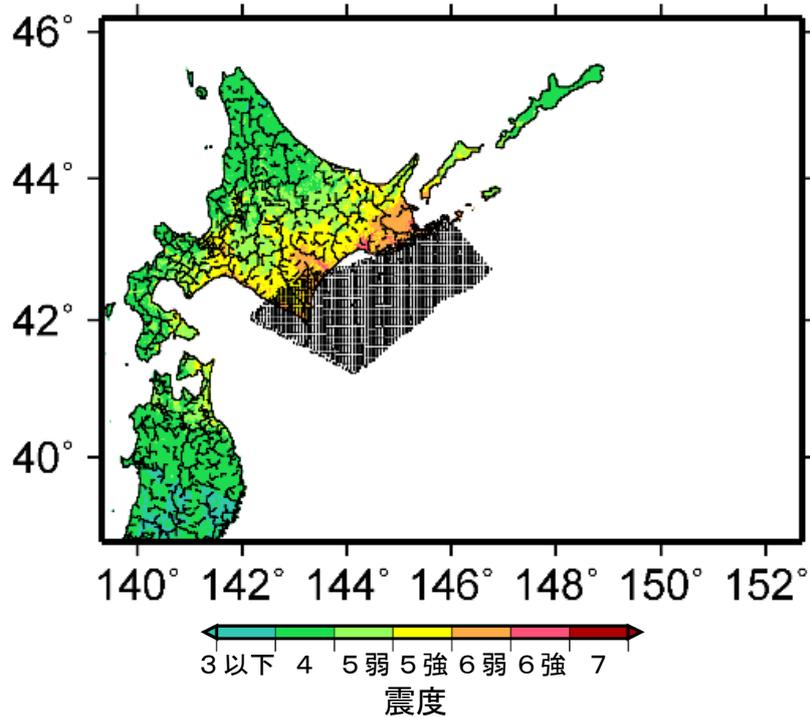
根室沖のプレート間巨大地震

震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

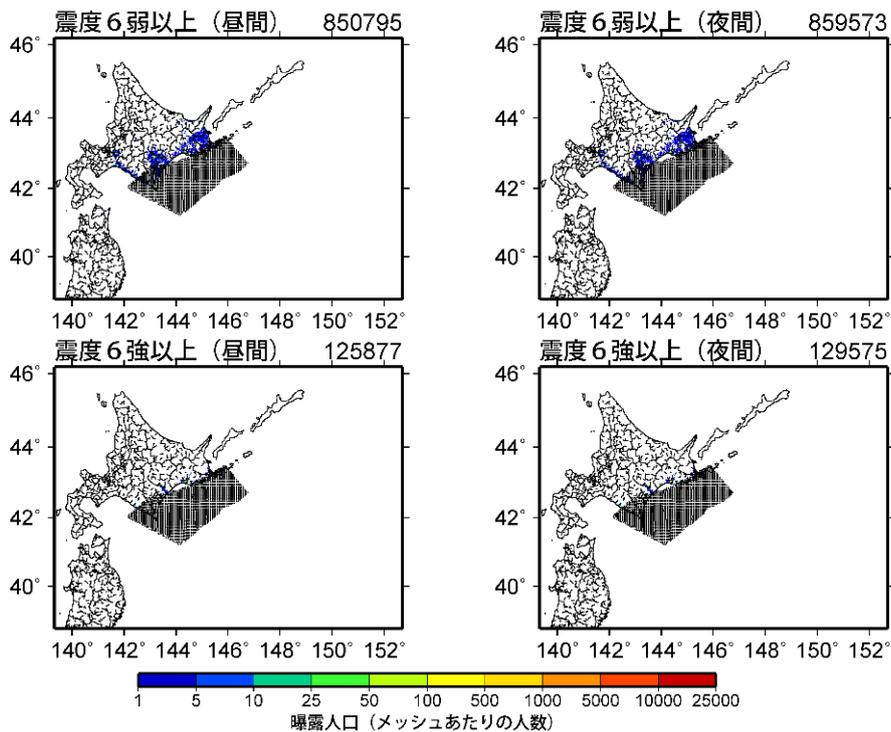
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**超巨大地震（17世紀型）**

超巨大地震（17世紀型）の震源パラメータ

震源域	断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]	地震モーメント $M_0$ [Nm]	モーメントマグニチュード $M_w$
[モデル1] 十勝沖～根室沖	45,330	1.19E+22	8.7
[モデル2] 十勝沖～境界領域（根室沖から色丹島沖）	50,810	1.41E+22	8.7
[モデル3] 根室沖～色丹島沖及び択捉島沖	57,870	1.71E+22	8.8
[モデル4] 境界領域（十勝沖から根室沖）～色丹島沖及び択捉島沖	65,210	2.05E+22	8.8
[モデル5] 十勝沖～根室沖，海溝寄りを含む	60,680	1.84E+22	8.8
[モデル6] 十勝沖～境界領域（根室沖から色丹島沖），海溝寄りを含む	69,420	2.25E+22	8.8
[モデル7] 根室沖～色丹島沖及び択捉島沖，海溝寄りを含む	102,130	4.02E+22	9.0
[モデル8] 境界領域（十勝沖から根室沖）～色丹島沖及び択捉島沖，海溝寄りを含む	113,130	4.69E+22	9.0
[モデル9] 十勝沖～色丹島沖及び択捉島沖	92,880	3.49E+22	9.0
[モデル10] 十勝沖～色丹島沖及び択捉島沖，海溝寄りを含む	146,980	6.94E+22	9.2



地表震度分布

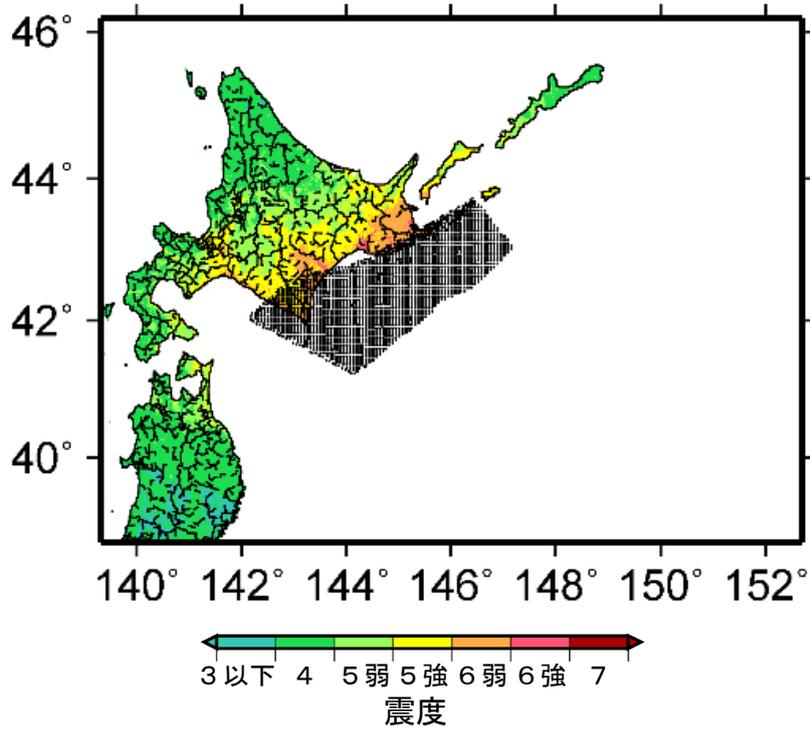


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

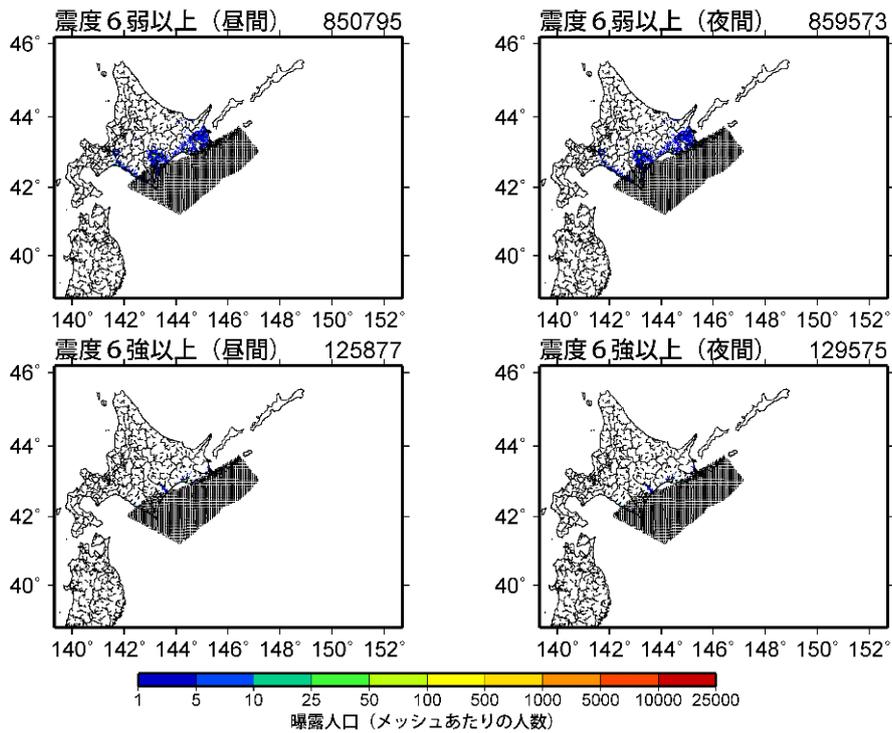
震度曝露人口分布の例

簡便法モデル1

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震 (17世紀型)



地表震度分布

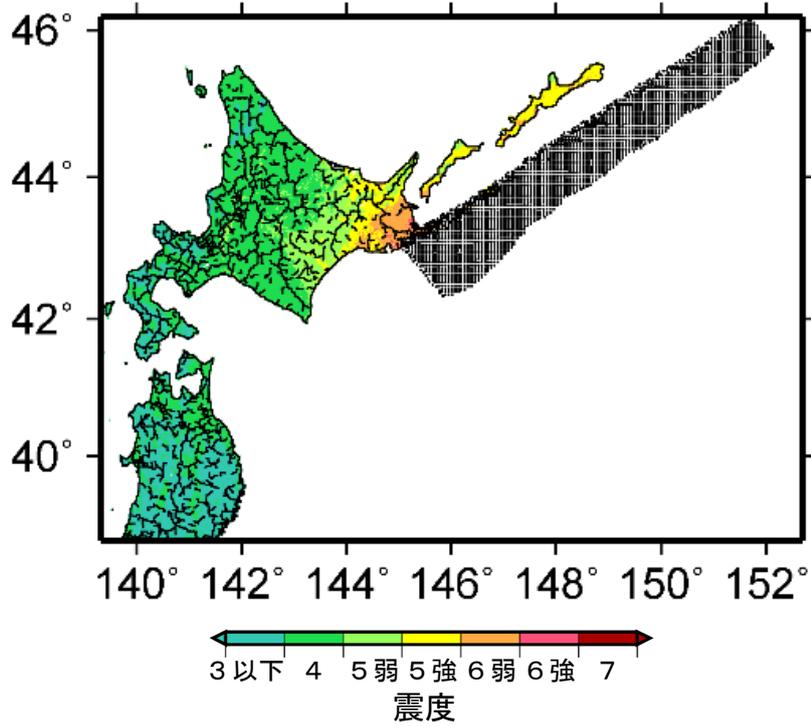


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

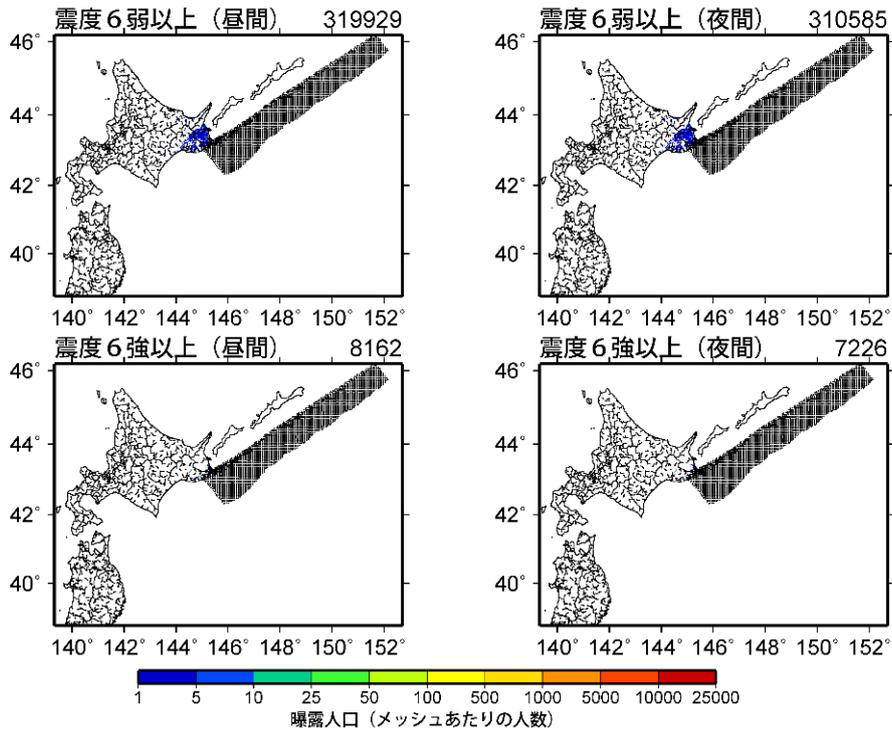
震度曝露人口分布の例

簡便法モデル2

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震 (17世紀型)



地表震度分布

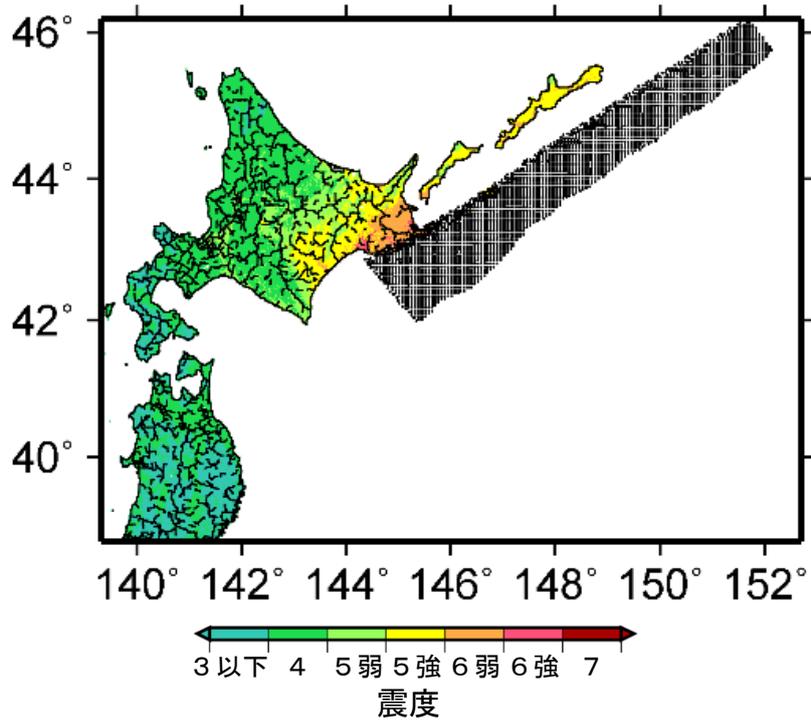


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

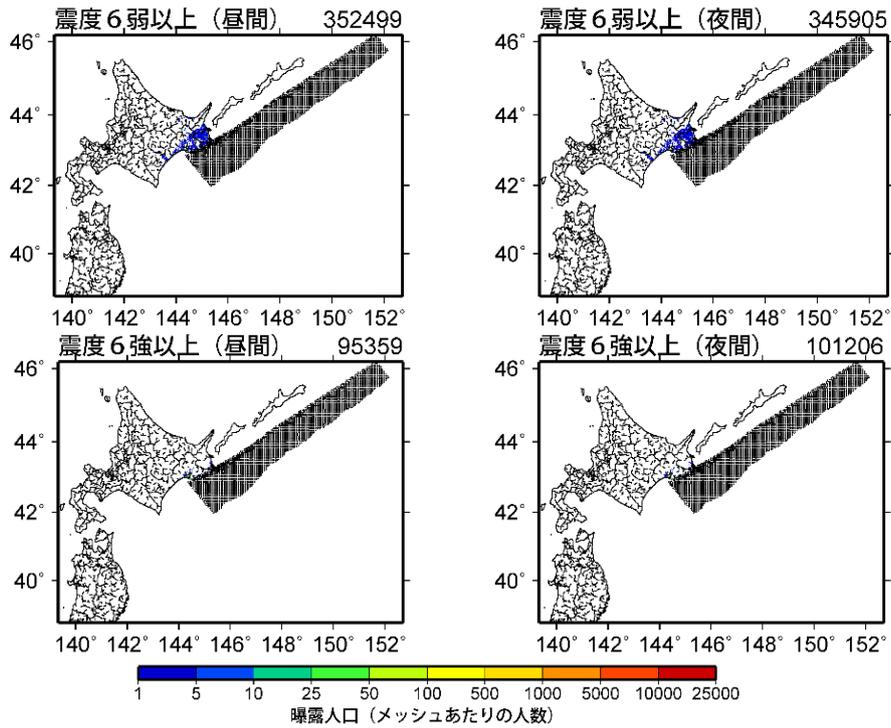
震度曝露人口分布の例

簡便法モデル3

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震 (17世紀型)



地表震度分布

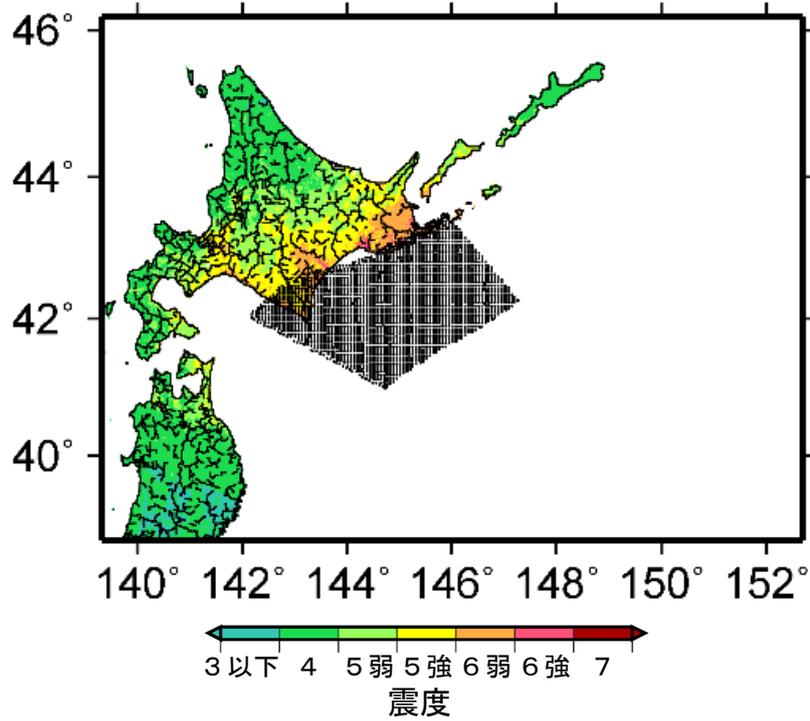


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

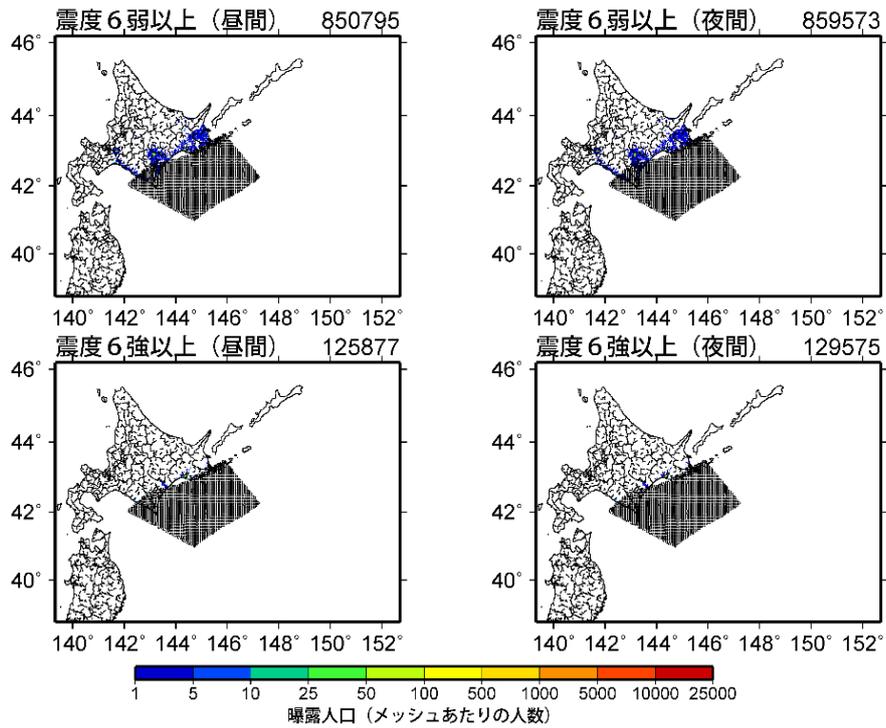
震度曝露人口分布の例

簡便法モデル4

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震 (17世紀型)



地表震度分布

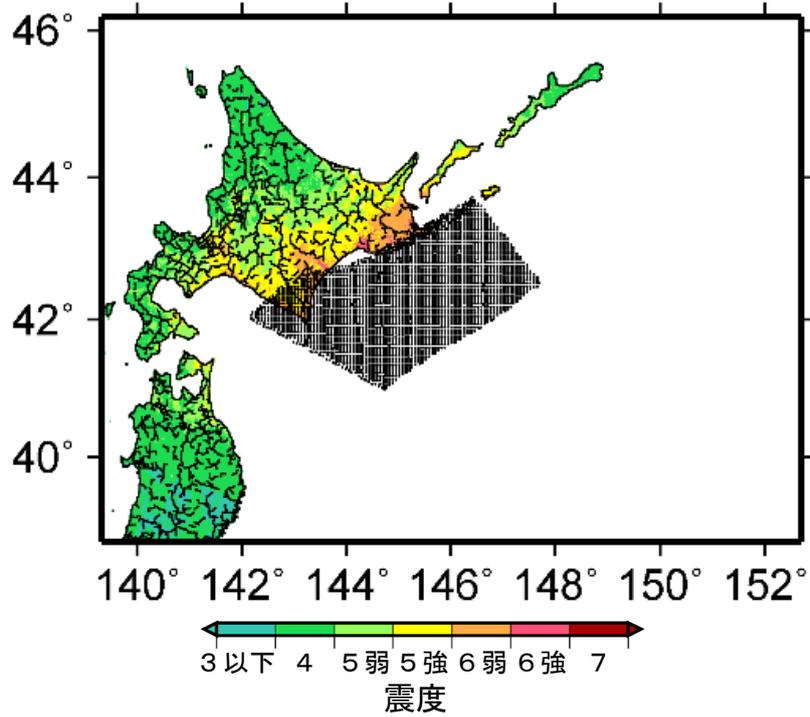


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

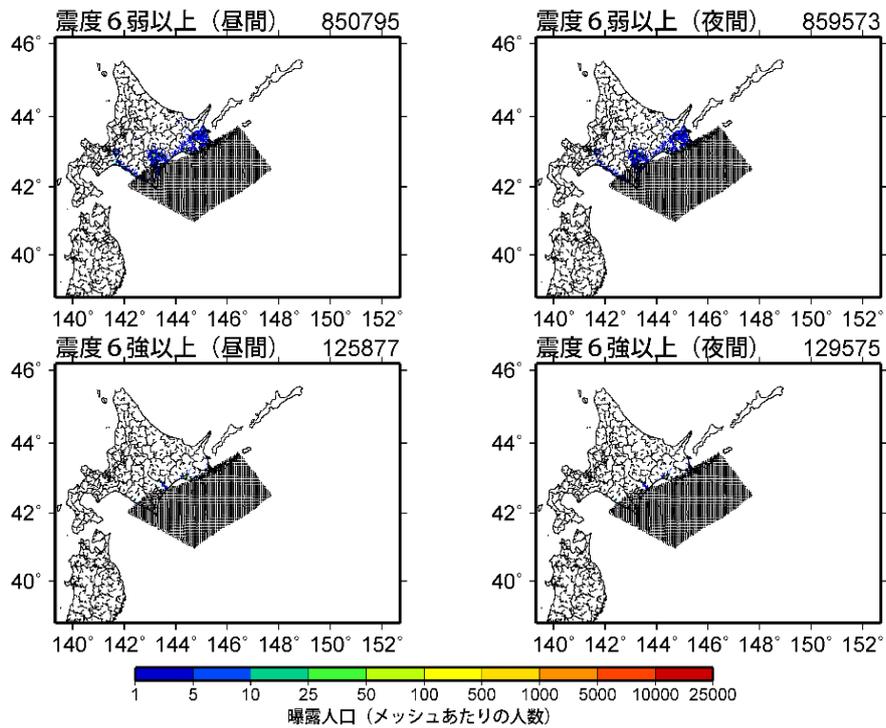
震度曝露人口分布の例

簡便法モデル5

震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震(17世紀型)



地表震度分布

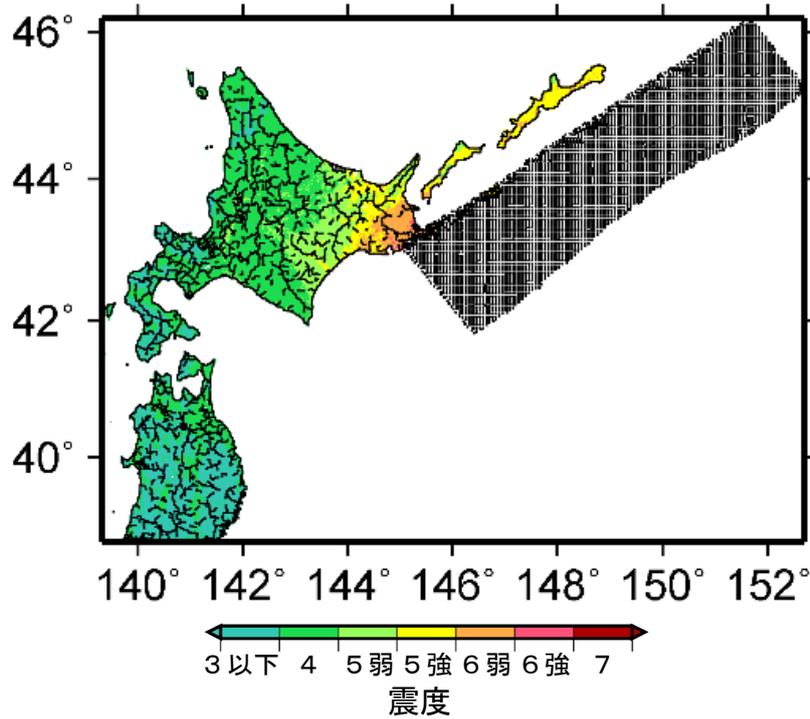


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

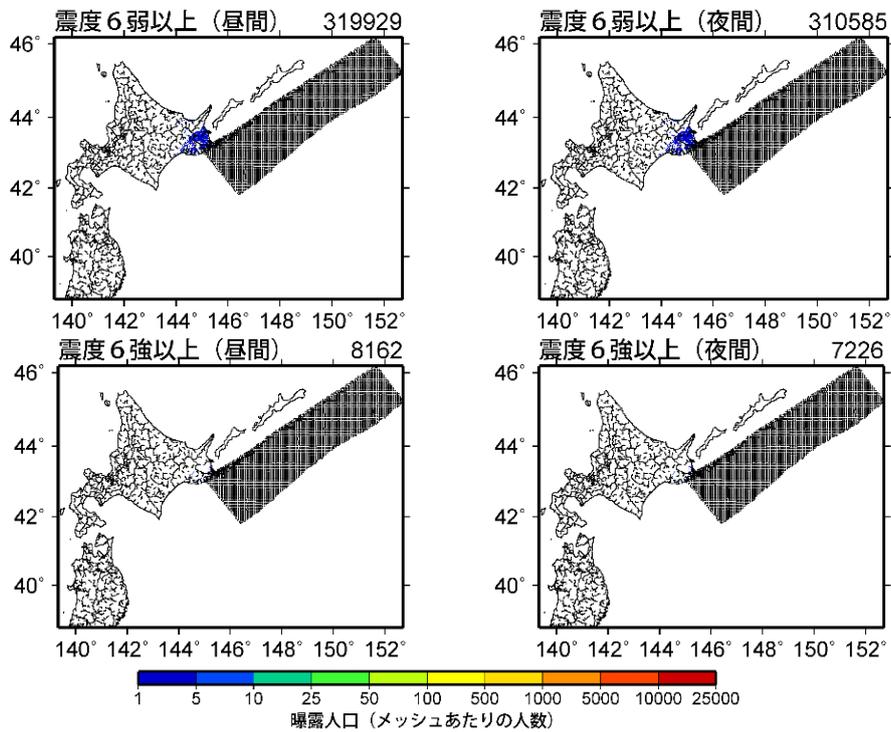
震度曝露人口分布の例

簡便法モデル6

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震 (17世紀型)



地表震度分布

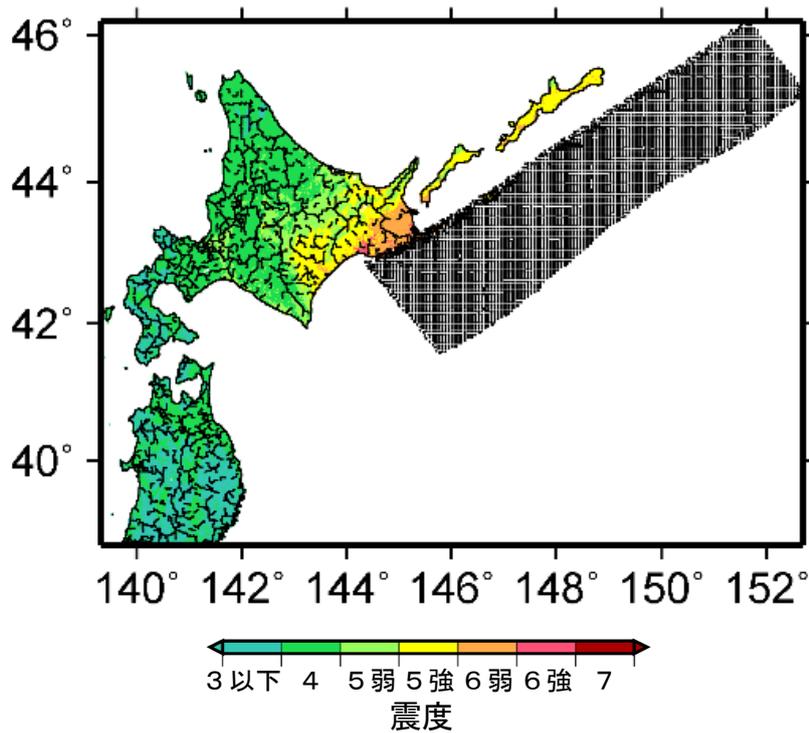


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

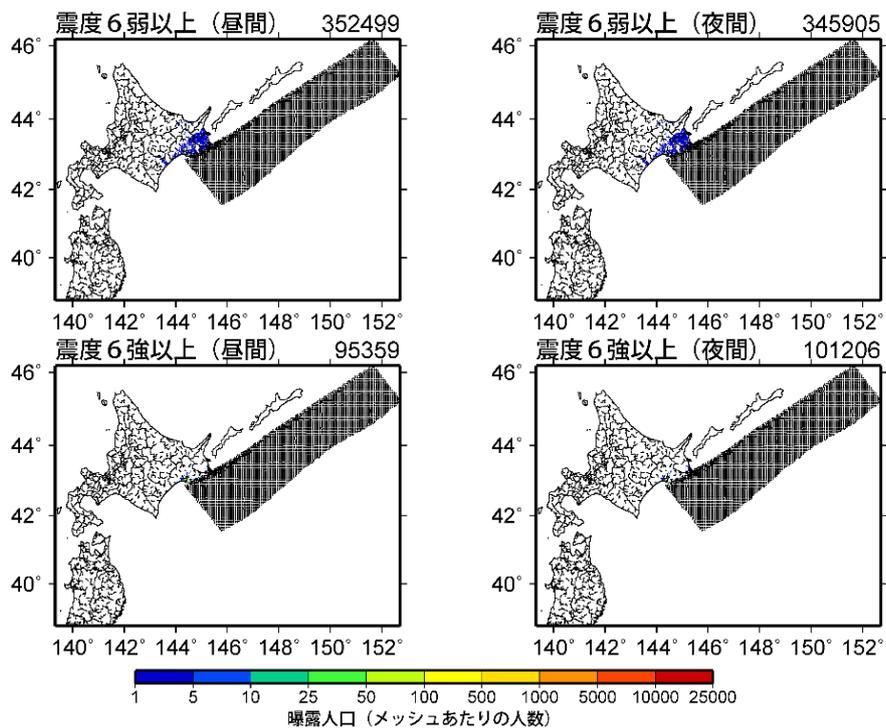
震度曝露人口分布の例

簡便法モデル7

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震 (17世紀型)



地表震度分布

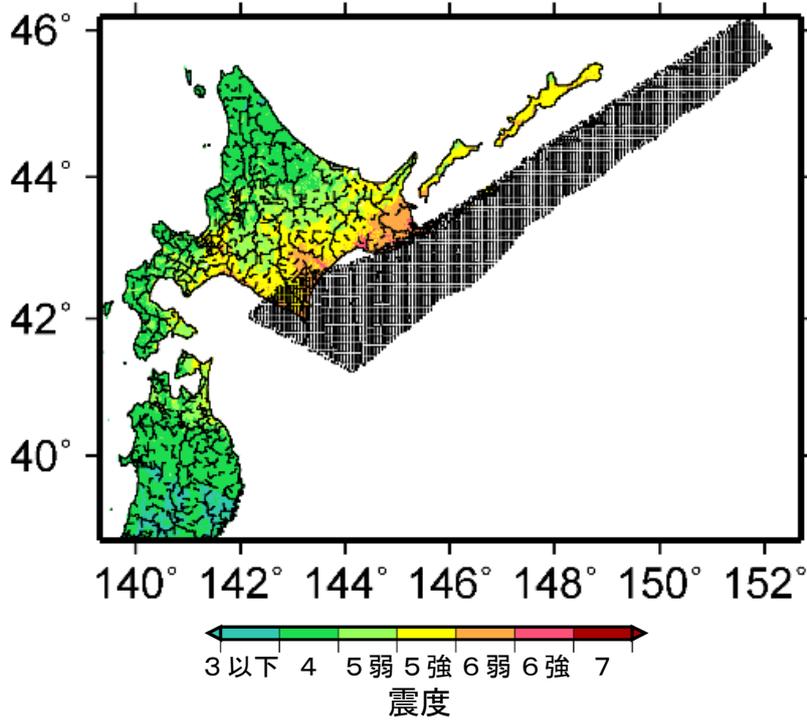


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

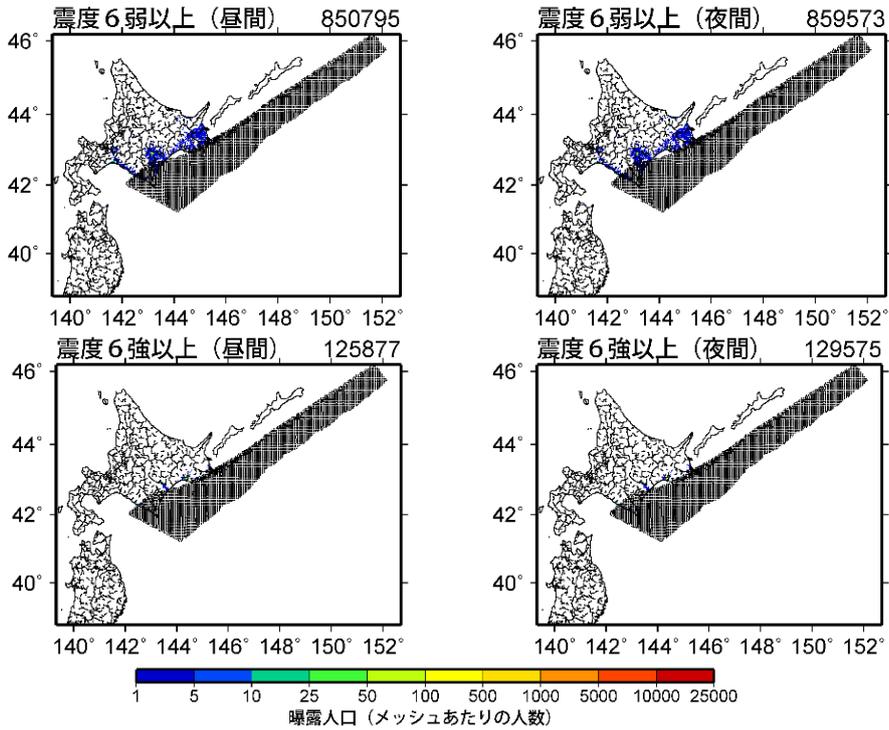
震度曝露人口分布の例

簡便法モデル8

震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震(17世紀型)



地表震度分布

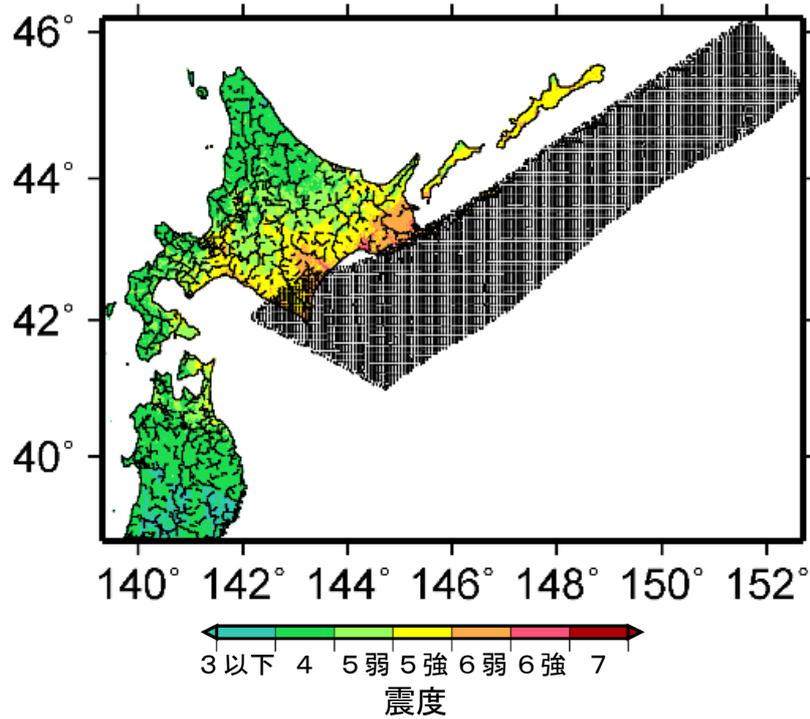


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

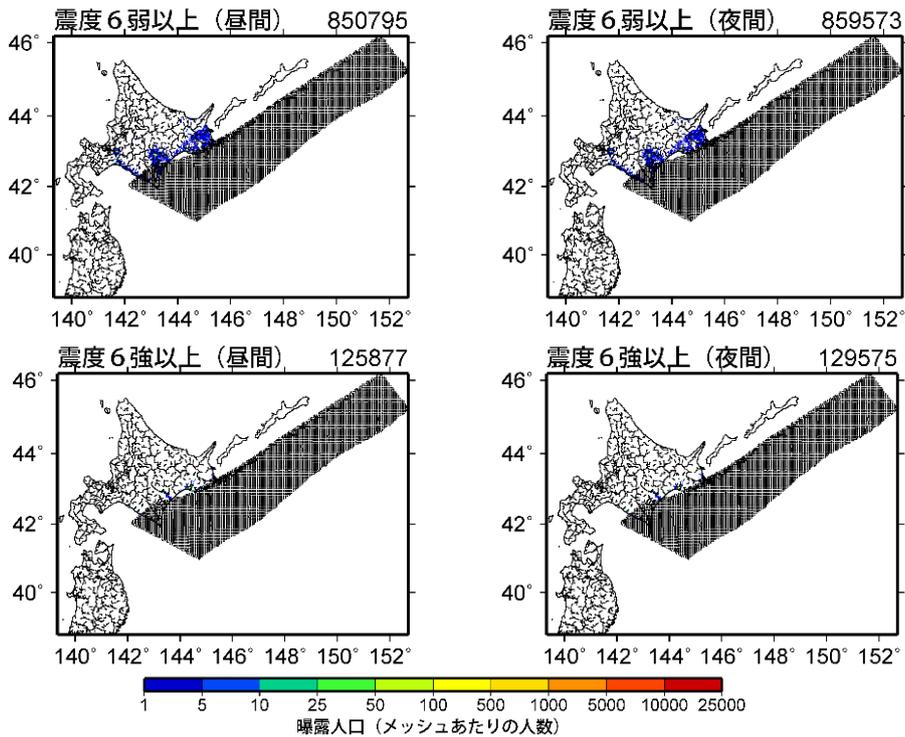
震度曝露人口分布の例

簡便法モデル9

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震 (17世紀型)



地表震度分布



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

簡便法モデル10

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)  
超巨大地震 (17世紀型)





断層帯 番号	断層帯名称	断層 番号	区間名
	<b>中央構造線断層帯</b>	<b>20011</b>	金剛山地東縁区間
		<b>20012</b>	五条谷区間
		<b>20013</b>	根来区間
		<b>20014</b>	紀淡海峡－鳴門海峡区間
		<b>20015</b>	讃岐山脈南縁東部区間
		<b>20016</b>	讃岐山脈南縁西部区間
		<b>20017</b>	石鎚山脈北縁区間
		<b>20018</b>	石鎚山脈北縁西部区間
		<b>20019</b>	伊予灘区間
		<b>20020</b>	豊予海峡－由布院区間
	<b>長尾断層帯</b>	<b>22131</b>	
	上法軍寺断層	22231	
	上浦－西月ノ宮断層	22331	
	綱附森断層	22431	
	<b>日出生断層帯</b>	<b>21711</b>	
	<b>万年山－崩平山断層帯</b>	<b>21811</b>	

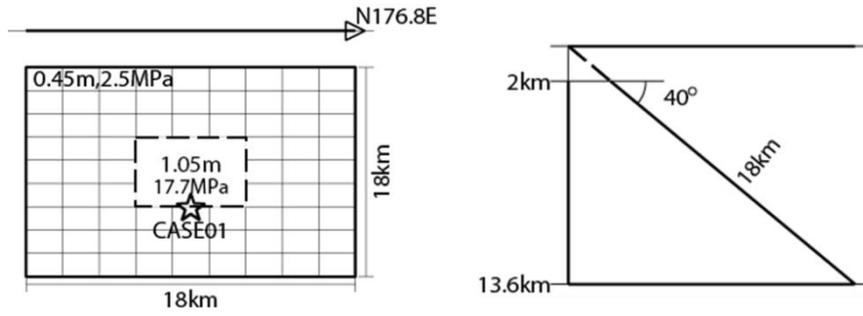
**黒太字**：シナリオ地震地図を更新する断層帯のうち詳細法計算も実施（長さ 15km 以上）

灰色字：シナリオ地震地図を更新する断層帯のうち簡便法計算のみ実施（長さ 15km 未満）

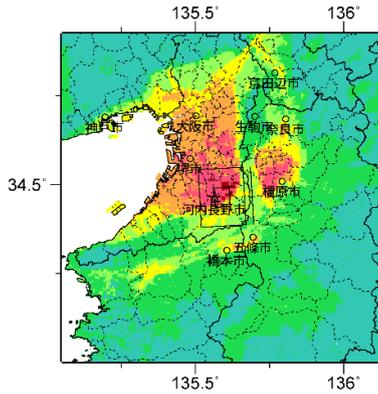
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯金剛山地東縁区間**

中央構造線断層帯金剛山地東縁区間（F020011）の震源パラメータ

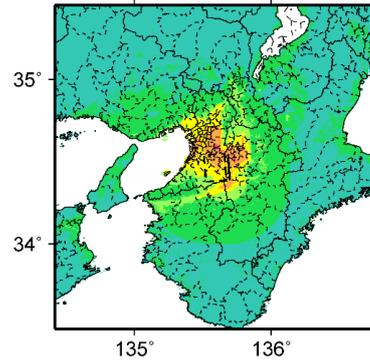
巨視的震源パラメータ		
断層長さ $L$ [km]		16
地震規模 $M$		6.8
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15
設定手順		(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		5.28E+18
モーメントマグニチュード $M_w$		6.4
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		324
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		2.2
平均すべり量 $D$ [m]		0.52
走向 $\theta$ [度]		176.8
傾斜角 $\delta$ [度]		40
すべり角 $\lambda$ [度]		180
断層モデル原点緯度 [°N]		35.5491
断層モデル原点経度 [°E]		135.6597
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		2
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		18
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18
微視的震源パラメータ		
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		9.23E+18
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		9.23E+18
全 ア ス ペ ィ テ ィ ス ペ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	40.3
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	17.7
	すべり量 $D_a$ [m]	1.05
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.32E+18
ア ス ペ ィ テ ィ ス ペ 1	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	40.3
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	17.7
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	1.05
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	1.32E+18
	計算用面積 [km×km]	6 × 6
ア ス ペ ィ テ ィ ス ペ 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	—
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	—
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	—
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	—
	計算用面積 [km×km]	—
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	283.7
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.5
	すべり量 $D_b$ [m]	0.45
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	3.97E+18



断層モデル (アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図)

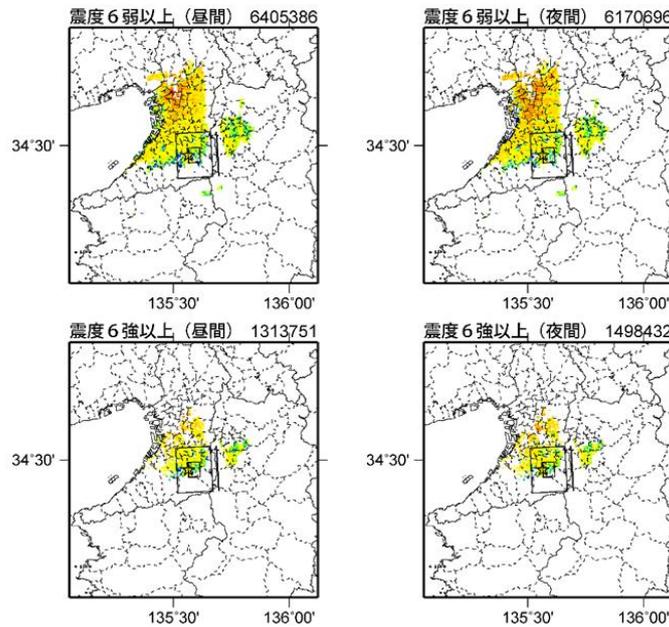
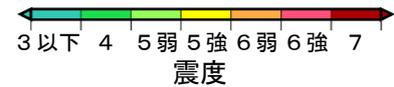


詳細法ケース 1



簡便法

地表震度分布



詳細法ケース 1



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯金剛山地東縁区間

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯五条谷区間**

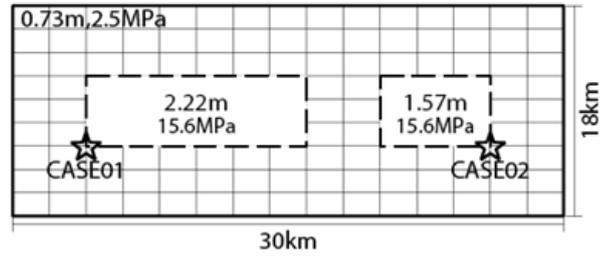
中央構造線断層帯五条谷区間（F020012）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		中角度		高角度		
断層長さ $L$ [km]		29		29		
地震規模 $M$		7.3		7.3		
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4		4		
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15		
設定手順		(イ)		(イ)	(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.69E+19		1.69E+19		1.69E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		6.8		6.8		6.8
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]		540		408		408
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.3		5.0		<b>3.1</b>
平均すべり量 $D$ [m]		1.00		1.32		1.32
走向 $\theta$ [度]		249.5		249.5		249.5
傾斜角 $\delta$ [度]		40		90		90
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180		180
断層モデル原点緯度 [°N]		34.4101		34.3962		34.3962
断層モデル原点経度 [°E]		135.6928		135.7222		135.7222
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]		4		4		4
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]		30		34		34
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]		18		12		12
微視的震源パラメータ						
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.36E+19		1.36E+19		1.09E+19
短周期レベル（参照） $A_{\text{Dan}}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.36E+19		1.36E+19		1.36E+19
全 リ テ ィ ス ペ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	113.6		150.3		<b>89.8</b>
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	15.6		13.5		14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	2.00		2.65		2.65
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	7.09E+18		1.24E+19		7.42E+18
ア ス ペ ィ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	75.7	113.6	100.2	150.3	59.8
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	15.6	15.6	13.5	13.5	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	2.22	2.00	2.93	2.65	2.93
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	5.24E+18	7.09E+18	9.17E+18	1.24E+19	5.48E+18
	計算用面積 [km×km]	12 × 6	14 × 8	10 × 10	16 × 10	10 × 6
ア ス ペ ィ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	37.9	—	50.1	—	29.9
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	15.6	—	13.5	—	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	1.57	—	2.07	—	2.07
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.85E+18	—	3.24E+18	—	1.94E+18
	計算用面積 [km×km]	6 × 6	—	8 × 6	—	8 × 4
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	426.4	426.4	257.7	257.7	318.2
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.5	2.5	2.1	2.3	2.9
	すべり量 $D_b$ [m]	0.73	0.73	0.55	0.55	0.95
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	9.76E+18	9.76E+18	4.44E+18	4.44E+18	9.44E+18

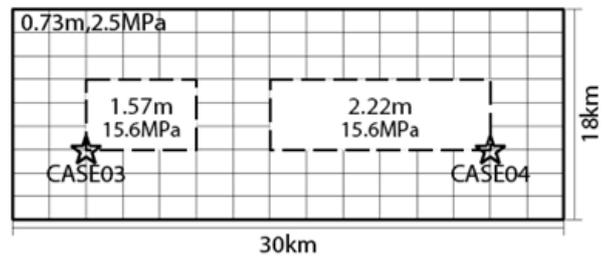
※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

中角度

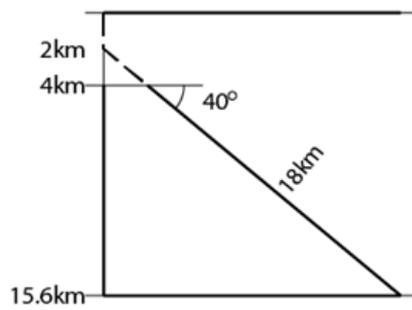
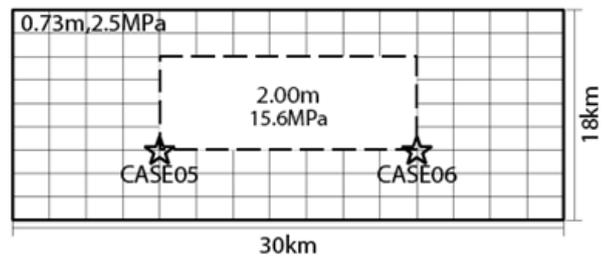
N249.5E



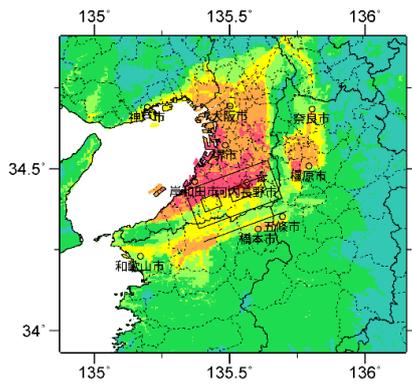
N249.5E



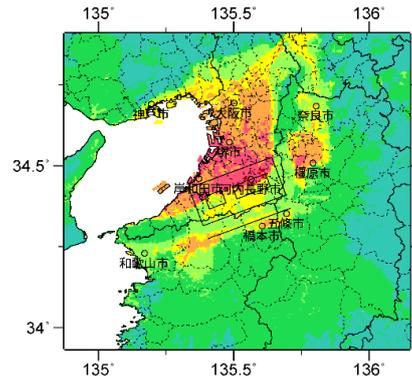
N249.5E



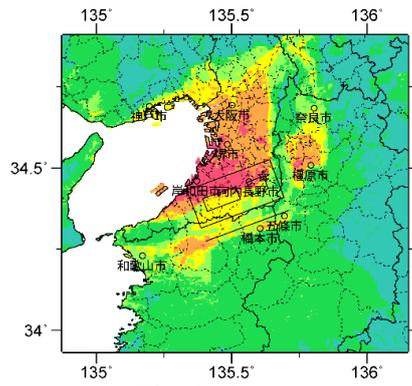
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



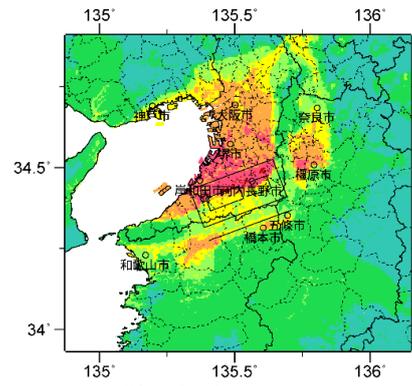
詳細法ケース 1



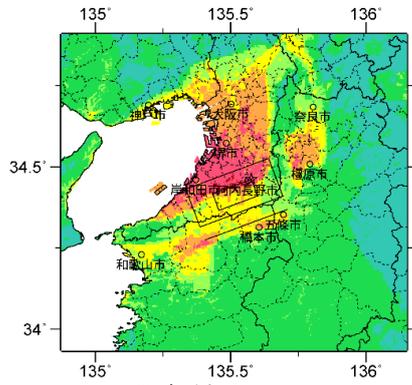
詳細法ケース 2



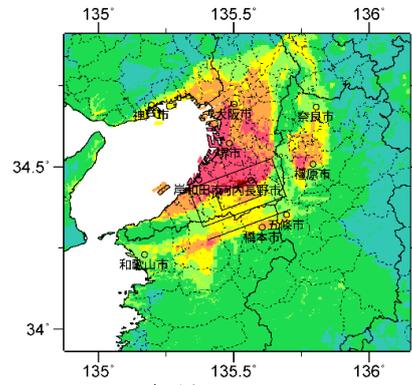
詳細法ケース 3



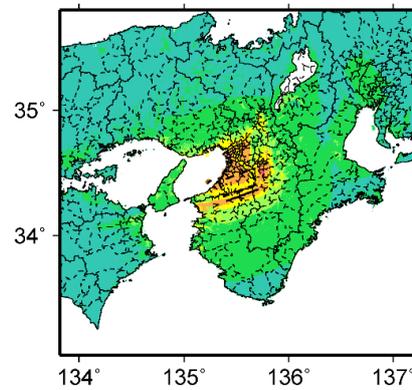
詳細法ケース 4



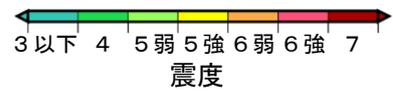
詳細法ケース 5

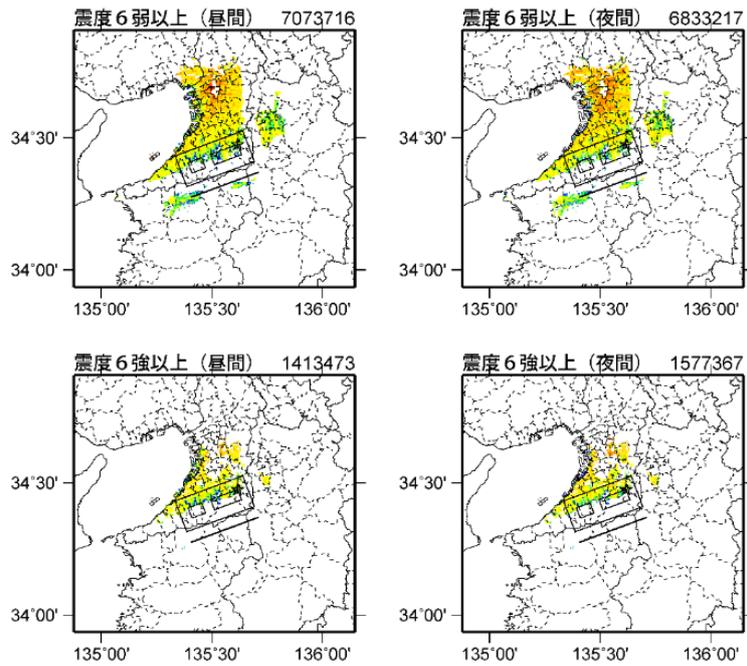


詳細法ケース 6

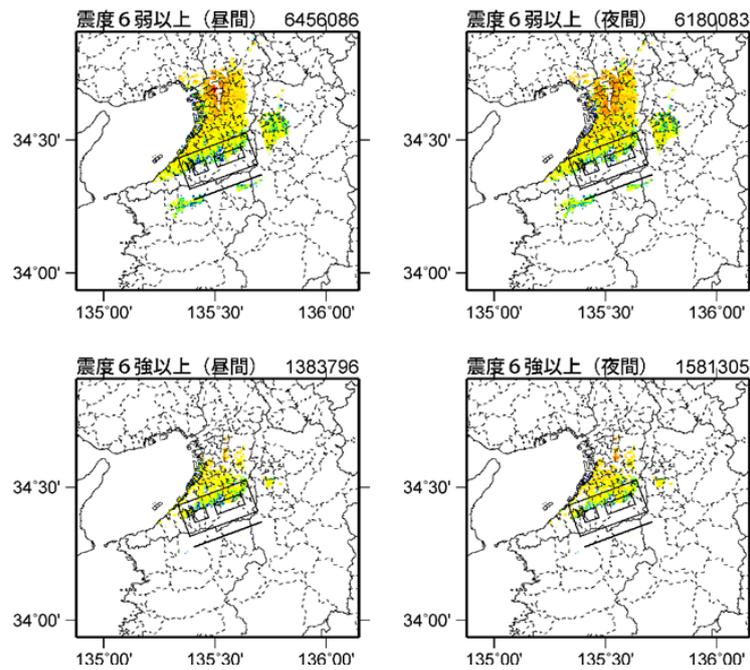


簡便法  
地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



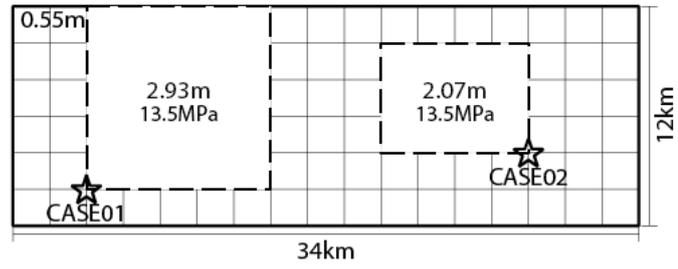
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

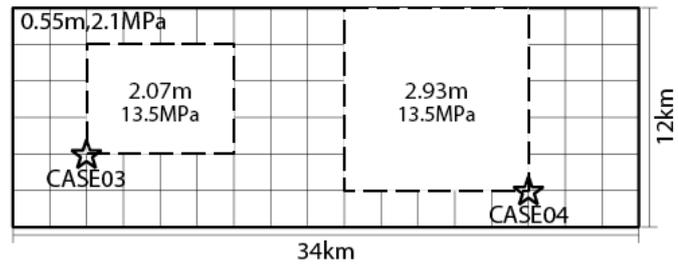
中央構造線断層帯五条谷区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

高角度

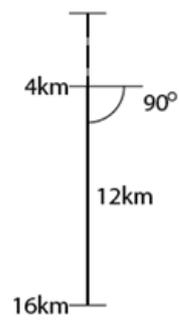
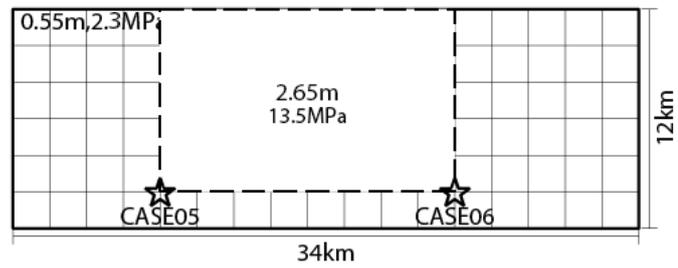
N249.5E



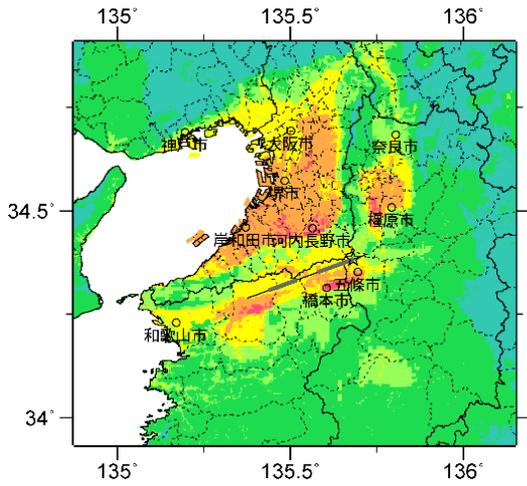
N249.5E



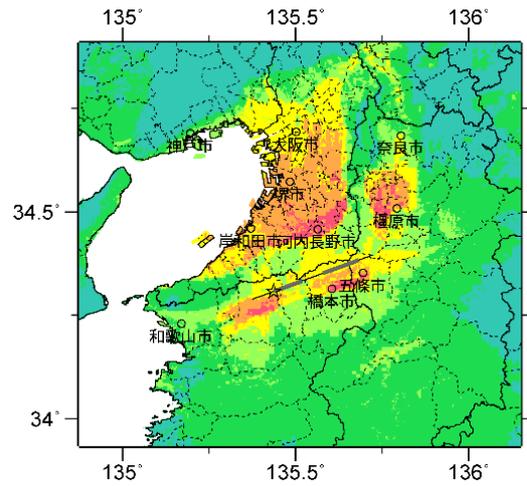
N249.5E



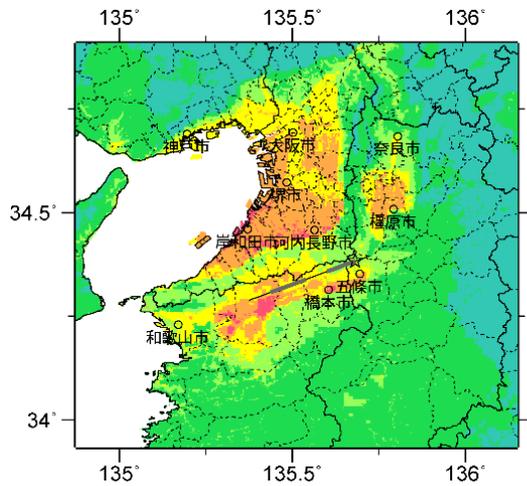
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



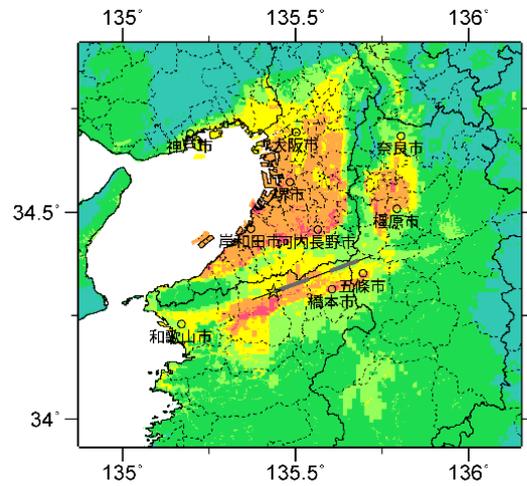
詳細法ケース 1



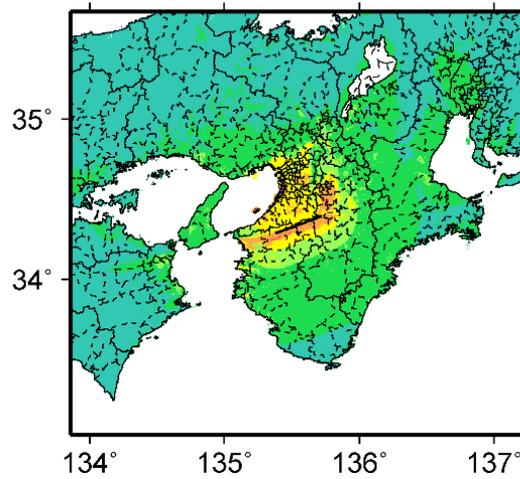
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

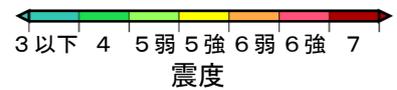


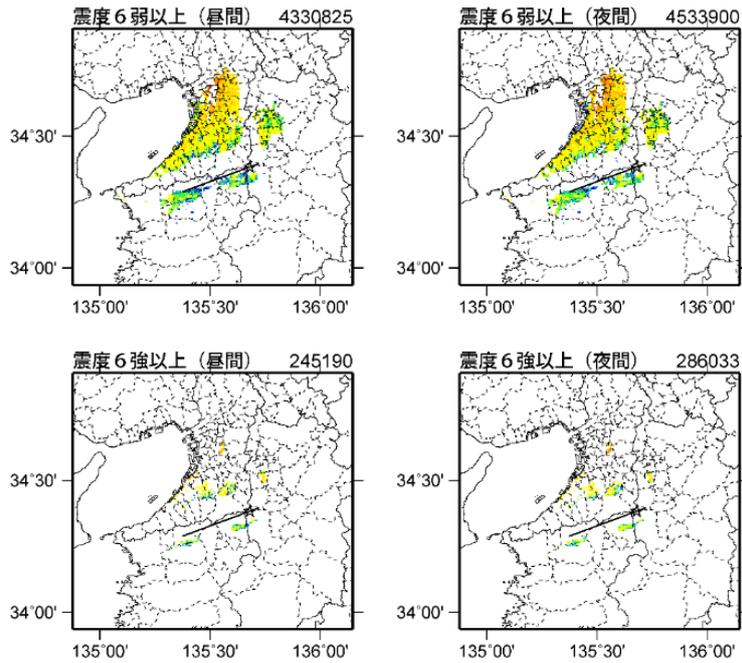
詳細法ケース 4



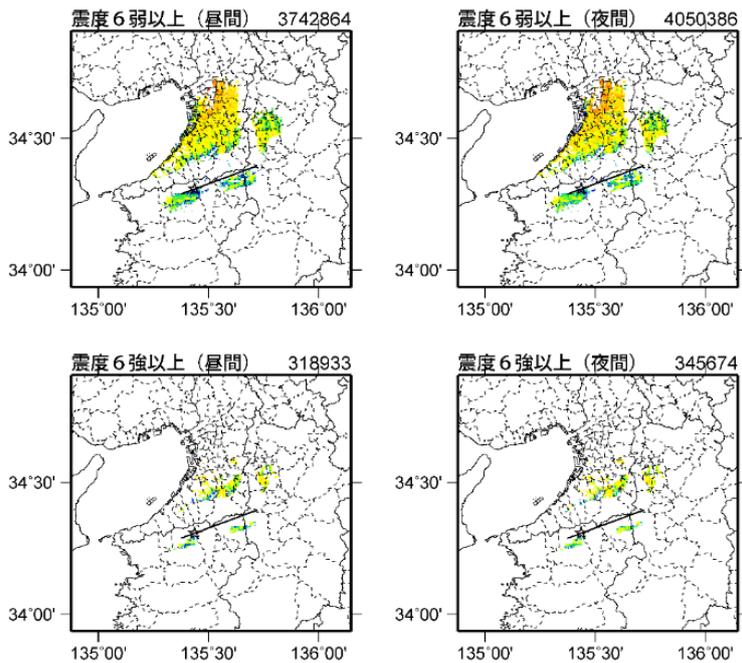
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯五条谷区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯根来区間**

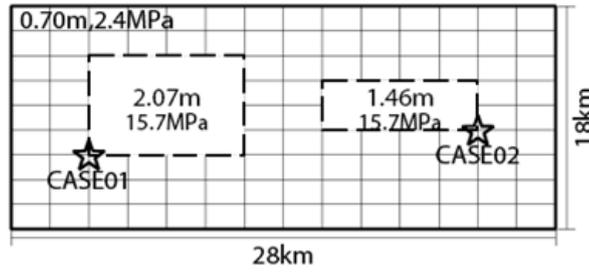
中央構造線断層帯根来区間（F020013）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ		中角度		高角度		
断層長さ $L$ [km]		27		27		
地震規模 $M$		7.2		7.2		
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4		4		
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15		
設定手順		(イ)		(イ)	(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.47E+19		1.47E+19		1.47E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		6.7		6.7		6.7
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		504		384		384
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.2		4.7		<b>3.1</b>
平均すべり量 $D$ [m]		0.93		1.22		1.22
走向 $\theta$ [度]		258.1		258.1		258.1
傾斜角 $\delta$ [度]		40		90		90
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180		180
断層モデル原点緯度 [°N]		34.3398		34.3015		34.3015
断層モデル原点経度 [°E]		135.3973		135.4292		135.4292
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4		4		4
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		28		32		32
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18		12		12
微視的震源パラメータ						
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.30E+19		1.30E+19		1.06E+19
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.30E+19		1.30E+19		1.30E+19
全 ア ス ペ リ テ ィ ペ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	101.0		132.6		<b>84.5</b>
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	15.7		13.7		14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	1.86		2.45		2.45
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	5.88E+18		1.01E+19		6.45E+18
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	67.4	101.0	88.4	132.6	56.3
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	15.7	15.7	13.7	13.7	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	2.07	1.86	2.71	2.45	2.71
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	4.34E+18	5.88E+18	7.48E+18	1.01E+19	4.77E+18
	計算用面積 [km×km]	8 × 8	10 × 10	12 × 8	14 × 10	10 × 6
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	33.7	—	44.2	—	28.2
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	15.7	—	13.7	—	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	1.46	—	1.92	—	1.92
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.54E+18	—	2.65E+18	—	1.68E+18
	計算用面積 [km×km]	8 × 4	—	8 × 6	—	8 × 4
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	403.0	403.0	251.4	251.4	299.5
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.4	3.3	2.3	2.7	2.9
	すべり量 $D_b$ [m]	0.70	0.70	0.58	0.58	0.88
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	8.78E+18	8.78E+18	4.53E+18	4.53E+18	8.21E+18

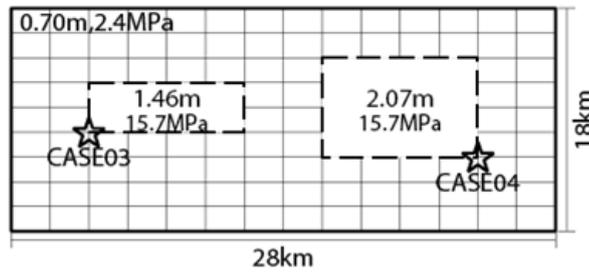
※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

中角度

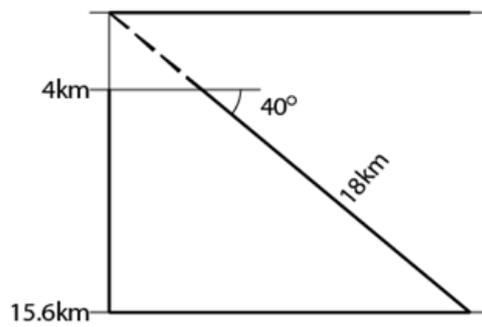
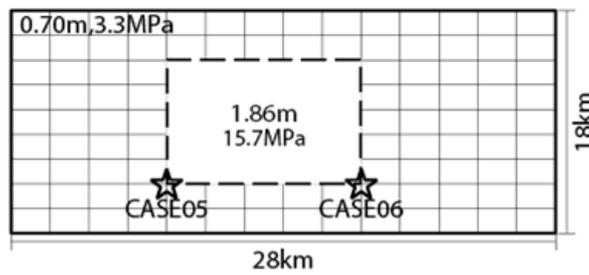
N258.1E



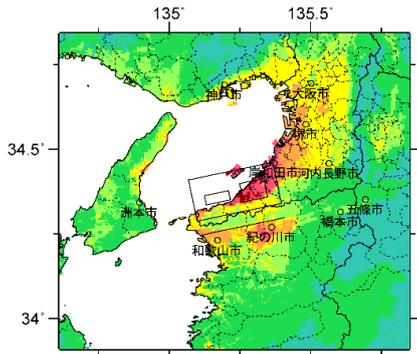
N258.1E



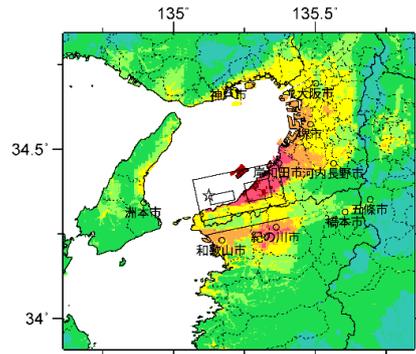
N258.1E



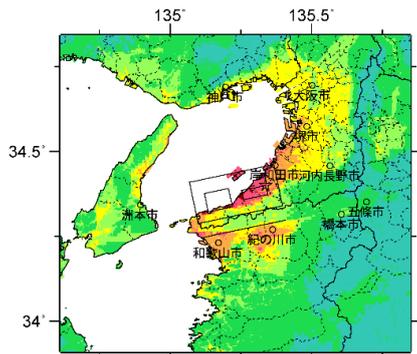
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



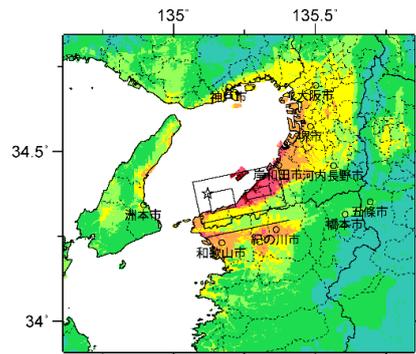
詳細法ケース 1



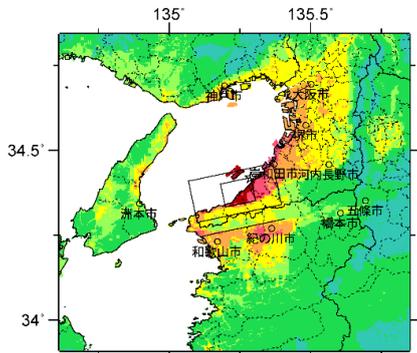
詳細法ケース 2



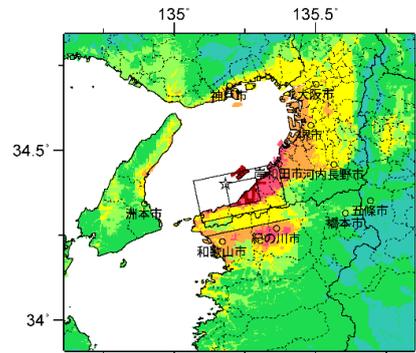
詳細法ケース 3



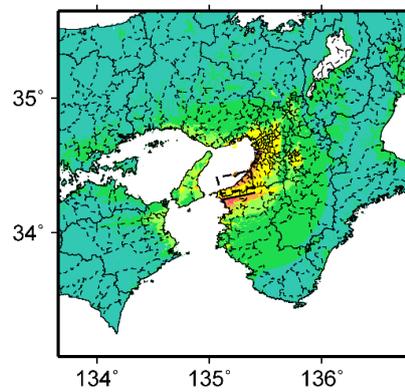
詳細法ケース 4



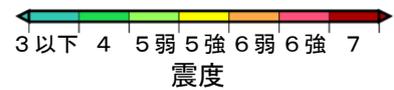
詳細法ケース 5

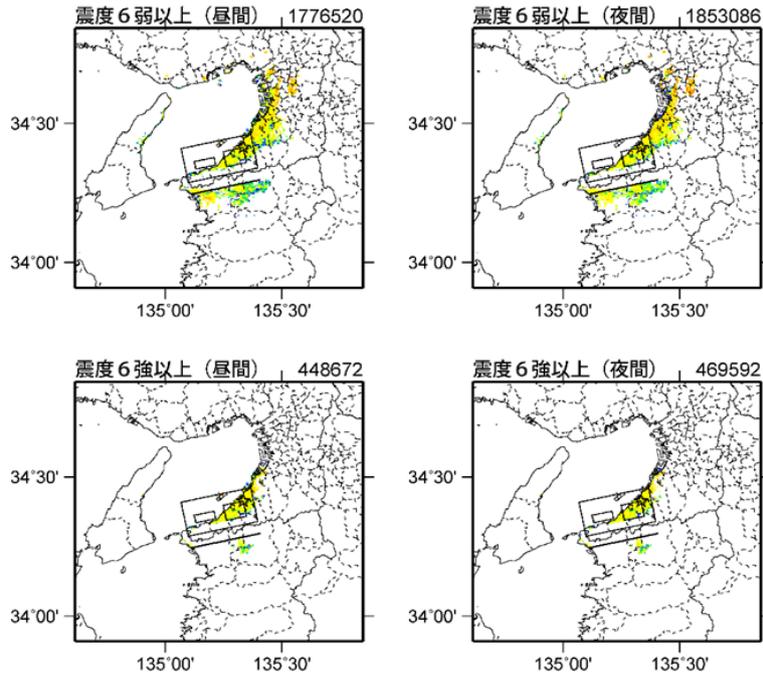


詳細法ケース 6

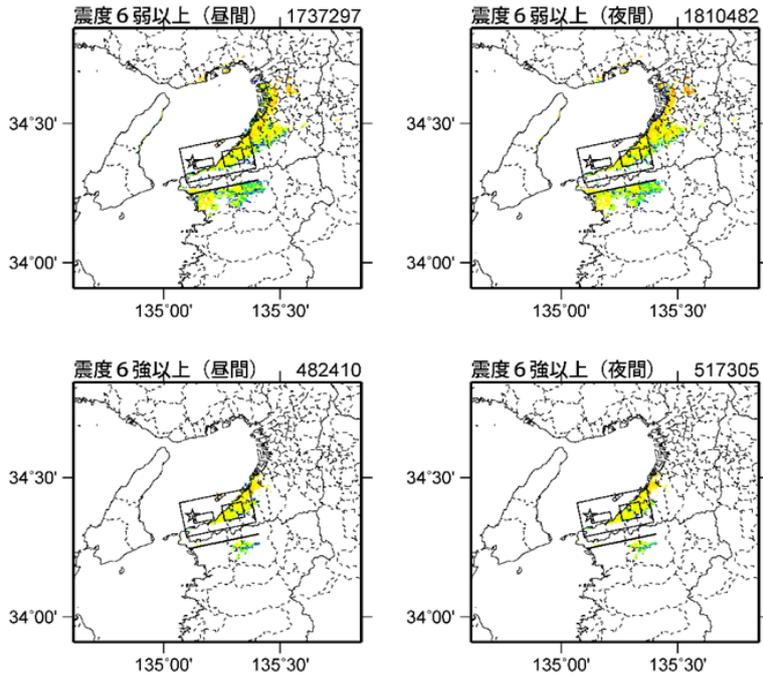


簡便法  
地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

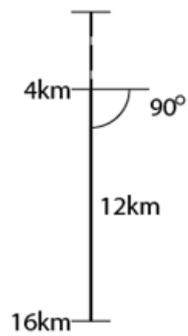
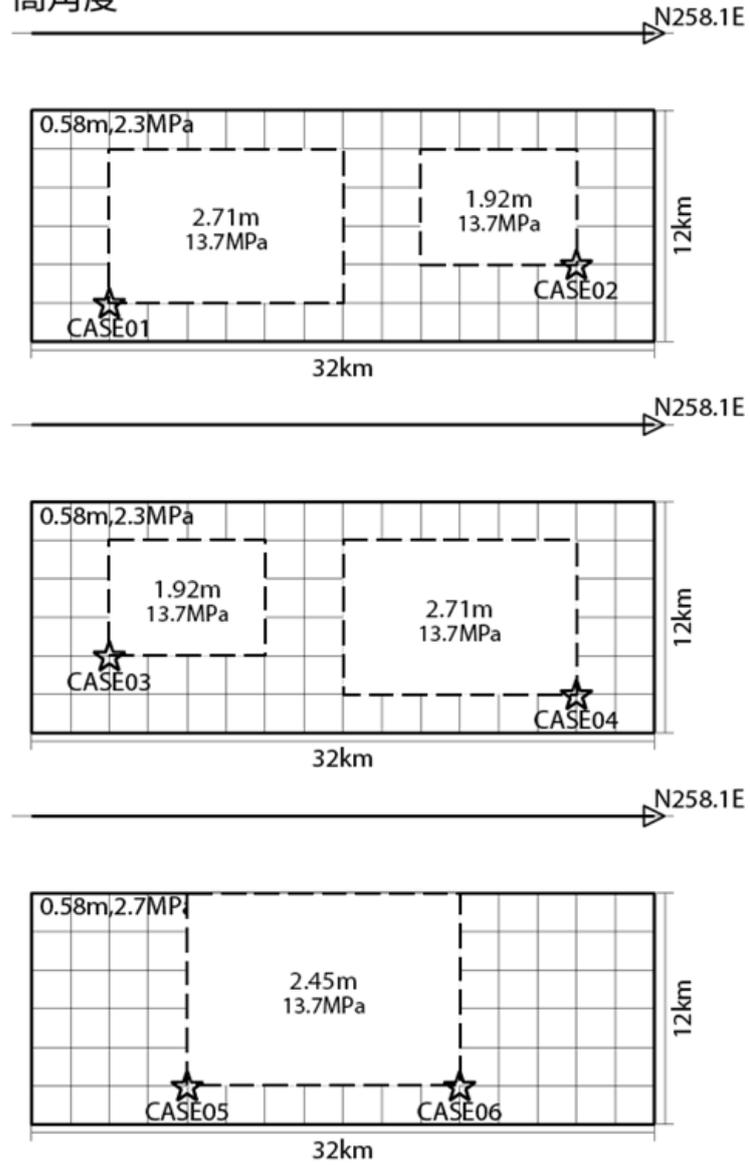


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

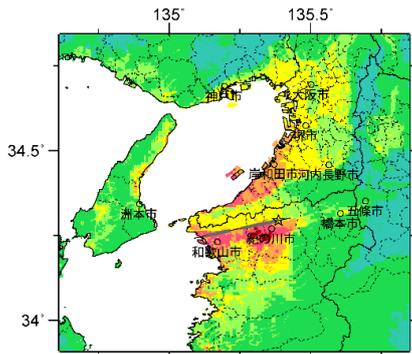
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯根来区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

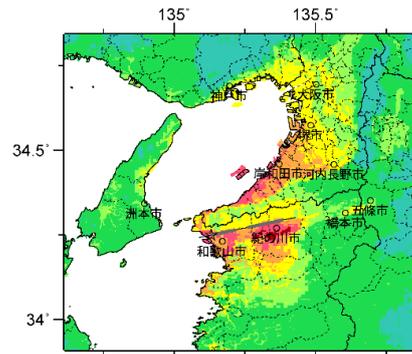
高角度



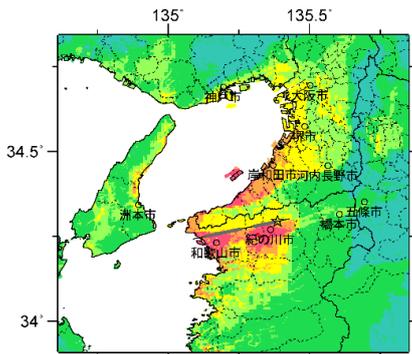
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



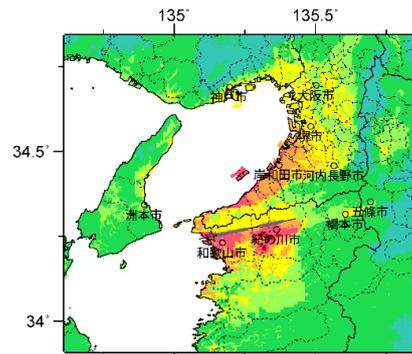
詳細法ケース 1



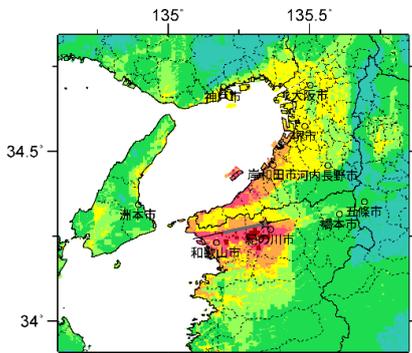
詳細法ケース 2



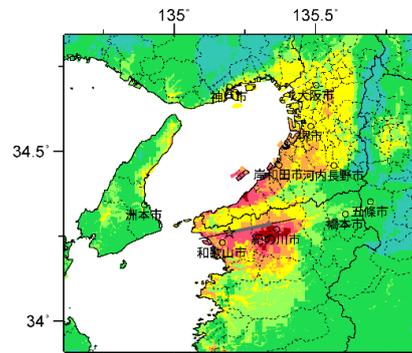
詳細法ケース 3



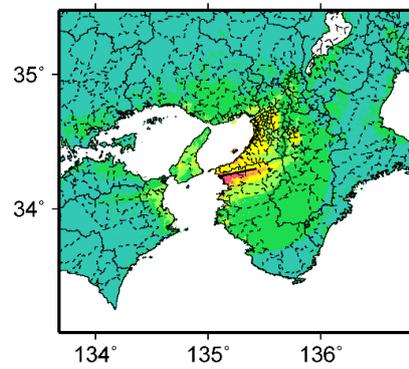
詳細法ケース 4



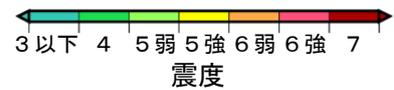
詳細法ケース 5

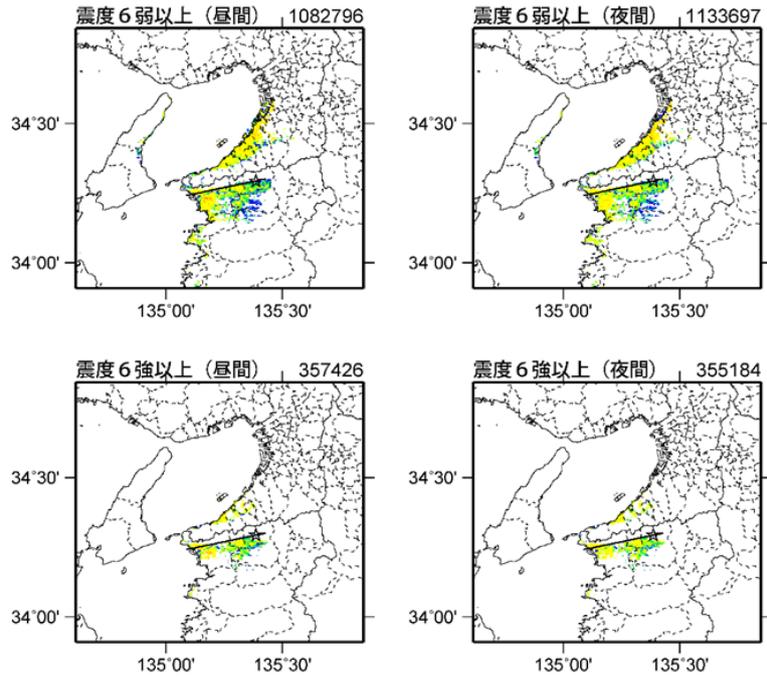


詳細法ケース 6

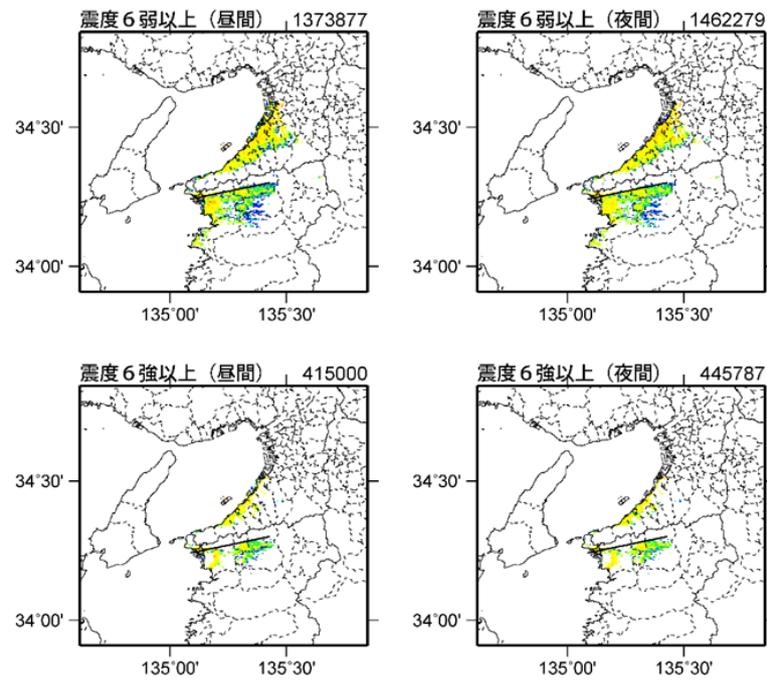


簡便法  
地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯根来区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

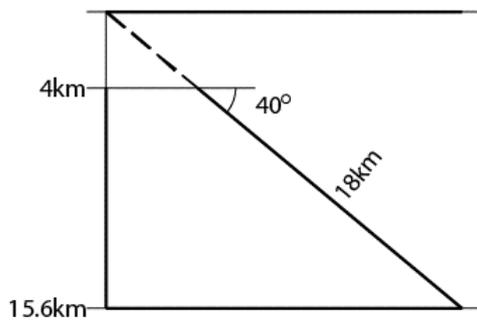
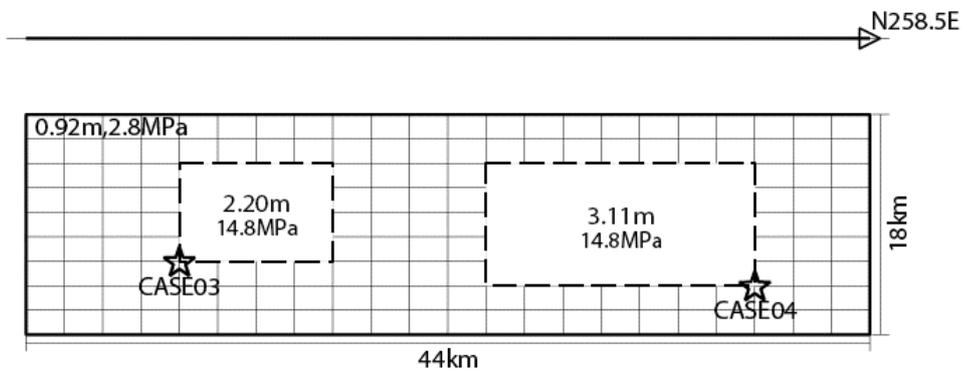
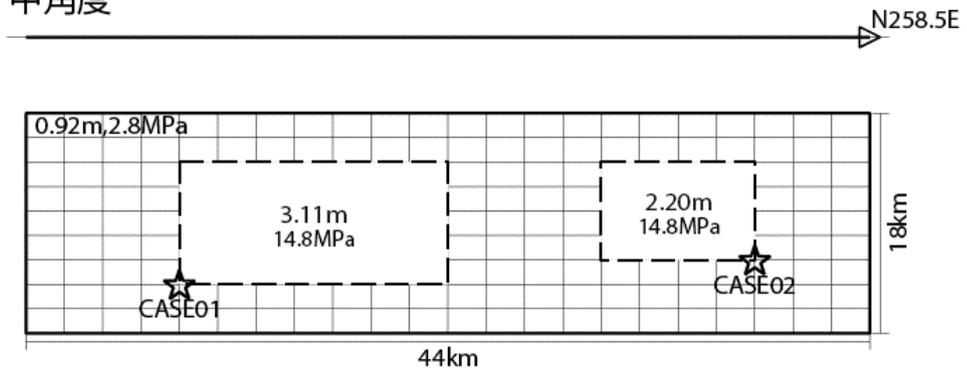
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯紀淡海峡－鳴門海峡区間**

中央構造線断層帯紀淡海峡－鳴門海峡区間（F020014）の震源パラメータ

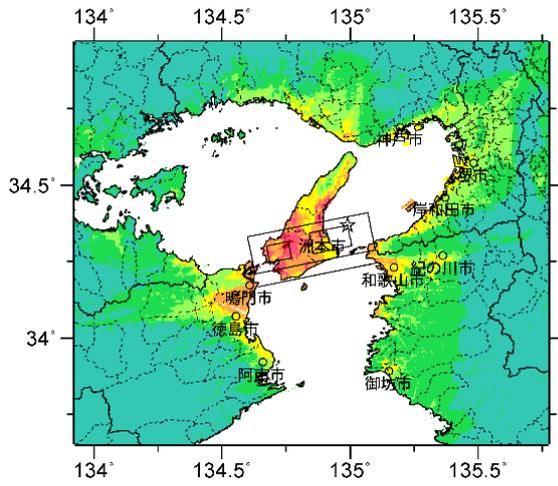
巨視的震源パラメータ		中角度		高角度
断層長さ $L$ [km]		42		42
地震規模 $M$		7.5		7.5
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4		4
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15
設定手順		(イ)	(イ)	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		3.47E+19	3.47E+19	3.47E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		7.0	7.0	7.0
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		792	792	552
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.8	<b>3.1</b>	3.1
平均すべり量 $D$ [m]		1.40	1.40	2.01
走向 $\theta$ [度]		258.5	258.5	258.5
傾斜角 $\delta$ [度]		40	40	90
すべり角 $\lambda$ [度]		180	180	180
断層モデル原点緯度 [°N]		34.2886	34.2886	34.2483
断層モデル原点経度 [°E]		135.0986	135.0986	135.1195
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4	4	4
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		44	44	46
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18	18	12
微視的震源パラメータ				
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.73E+19	1.52E+19	1.27E+19
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.73E+19	1.73E+19	1.73E+19
リア テイ ペ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	202.8	<b>174.2</b>	121.4
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.8	14.1	14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	2.81	2.81	4.03
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.78E+19	1.53E+19	1.53E+19
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	135.2	116.2	81.0
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	14.8	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	3.11	3.11	4.46
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	1.31E+19	1.13E+19	1.13E+19
計算用面積 [km×km]		14 × 10	12 × 10	10 × 8
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	67.6	58.1	40.5
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	14.8	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	2.20	2.20	3.16
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	4.64E+18	3.99E+18	3.99E+18
計算用面積 [km×km]		8 × 8	10 × 6	6 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	589.2	617.8	430.6
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.8	2.7	3.4
	すべり量 $D_b$ [m]	0.92	1.01	1.45
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	1.69E+19	1.94E+19	1.94E+19

※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリテイ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

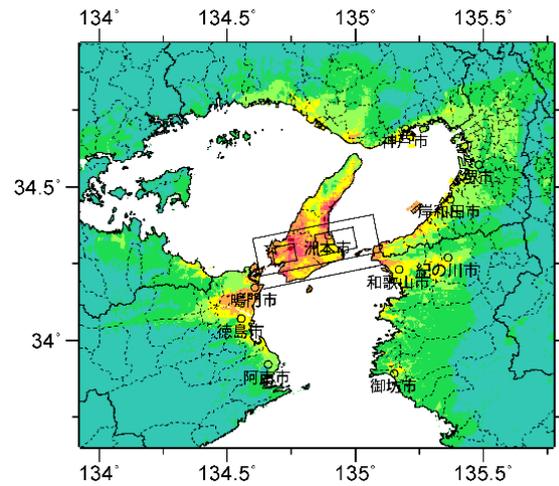
中角度



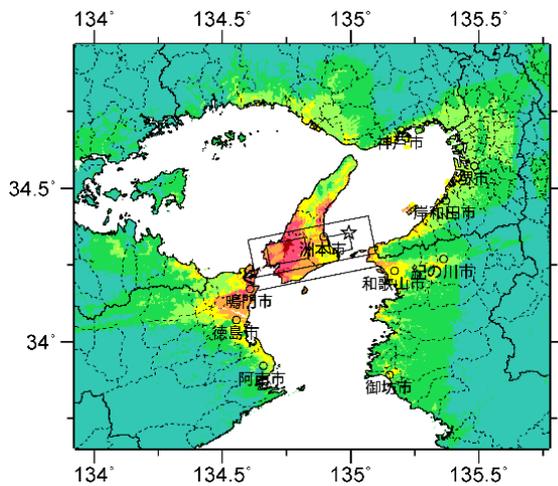
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



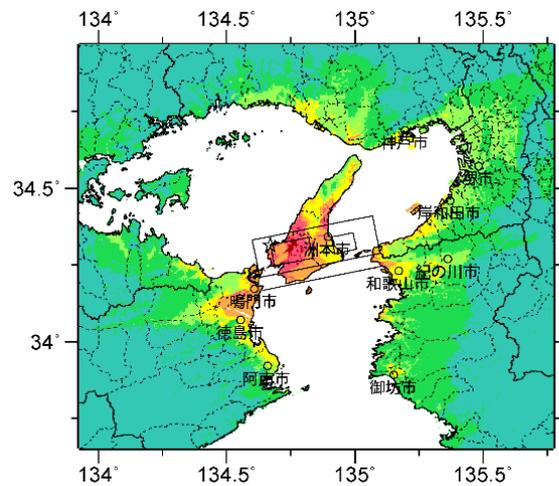
詳細法ケース 1



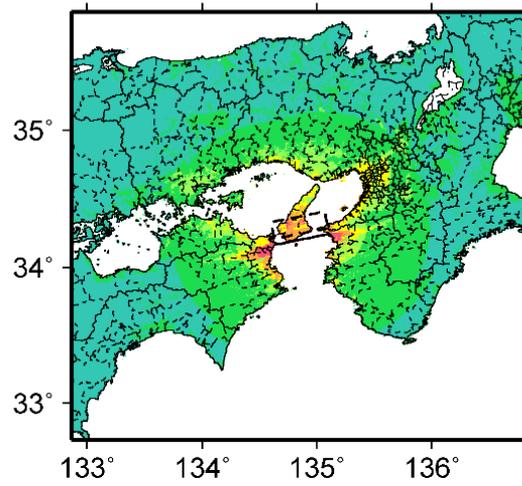
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

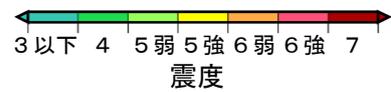


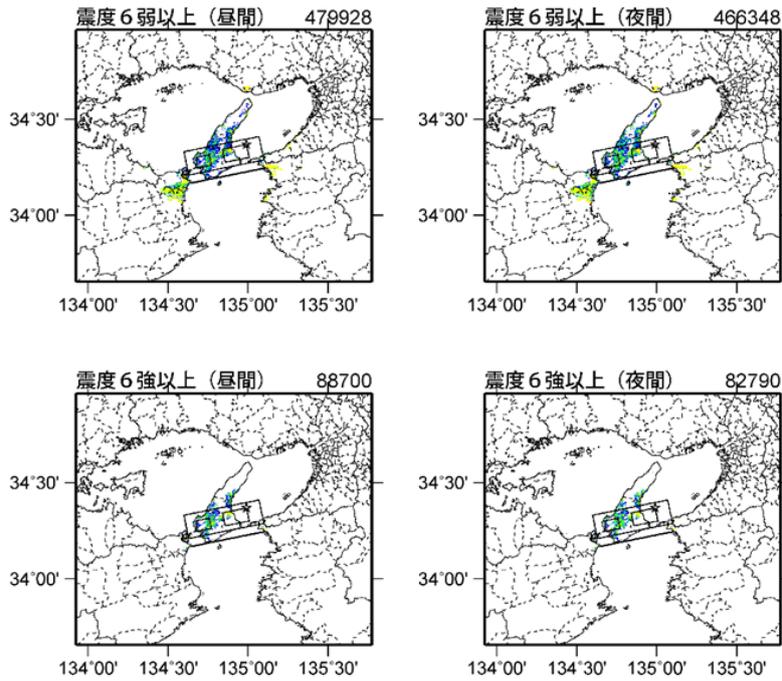
詳細法ケース 4



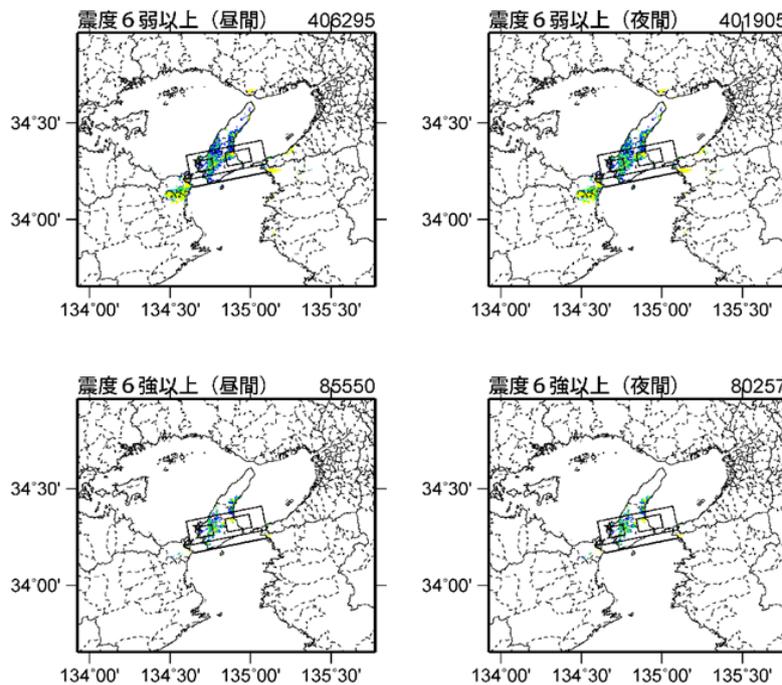
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

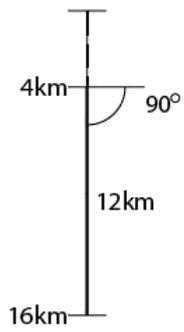
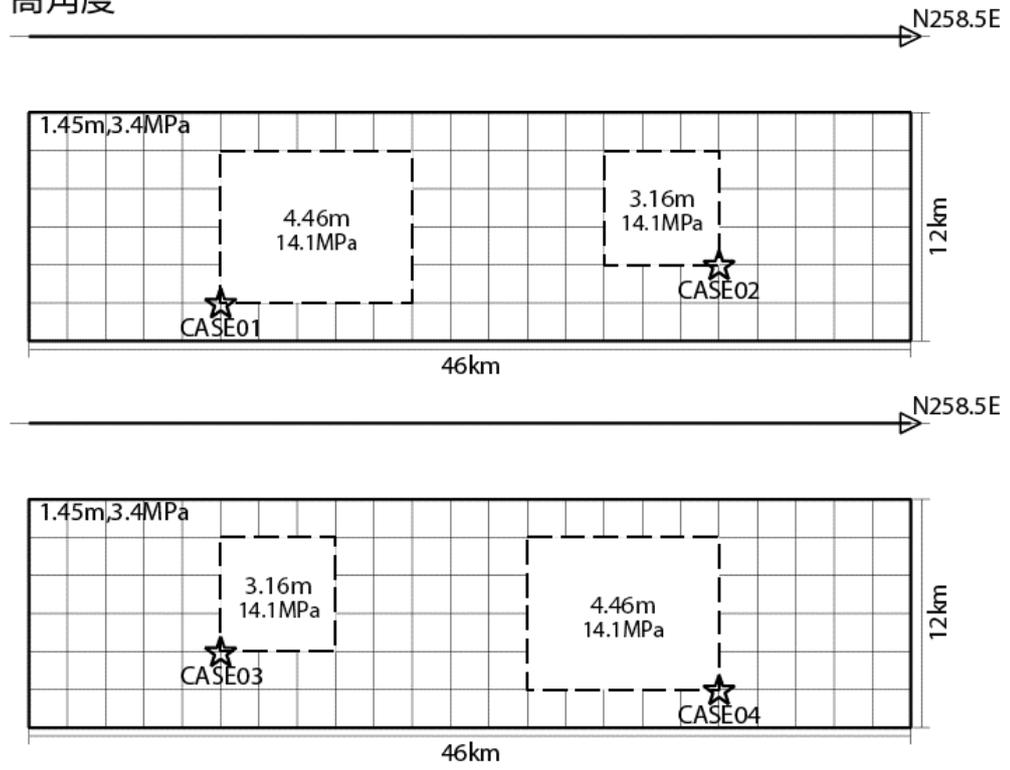


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

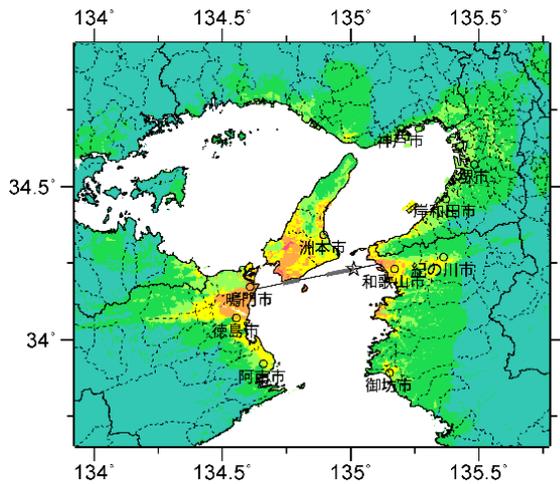
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯紀淡海峡－鳴門海峡区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

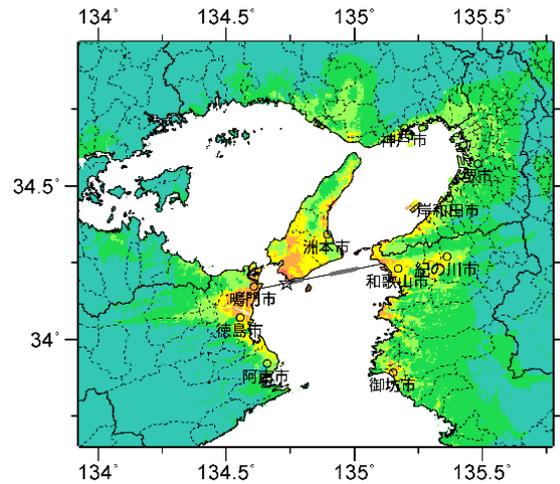
高角度



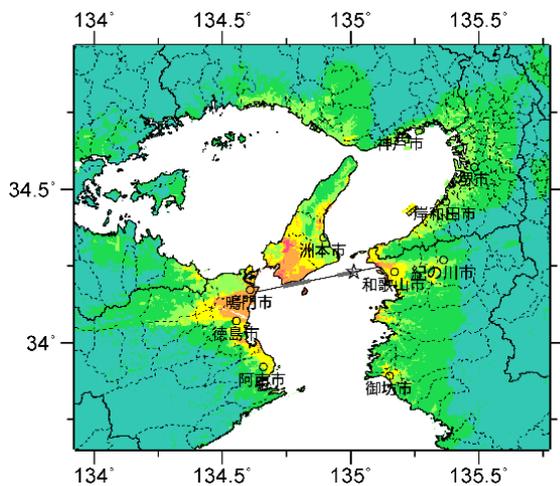
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



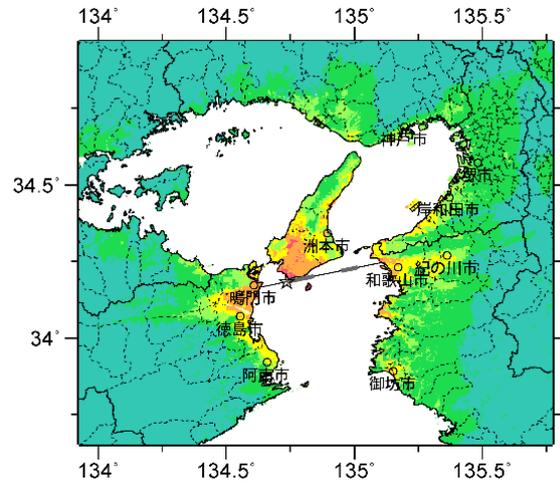
詳細法ケース 1



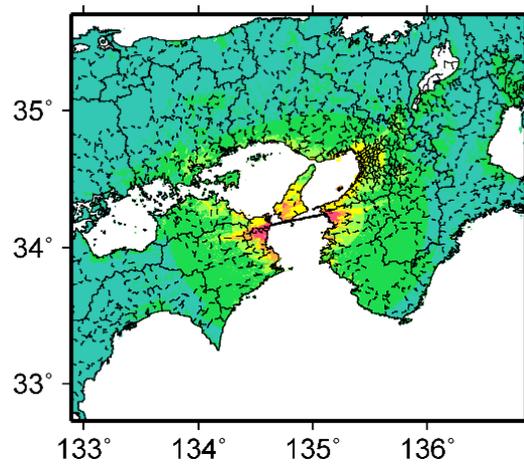
詳細法ケース 2



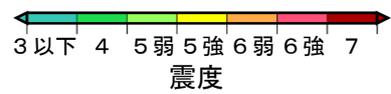
詳細法ケース 3



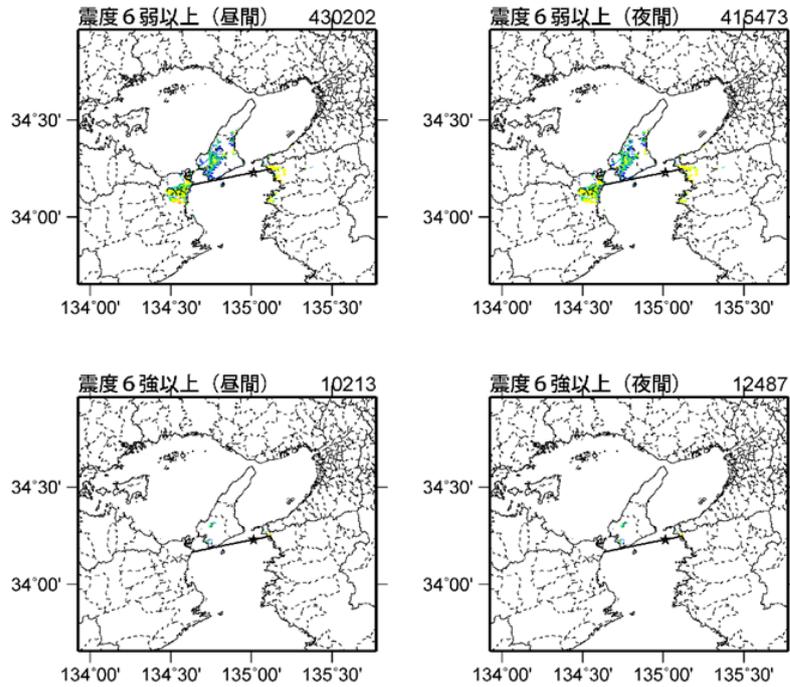
詳細法ケース 4



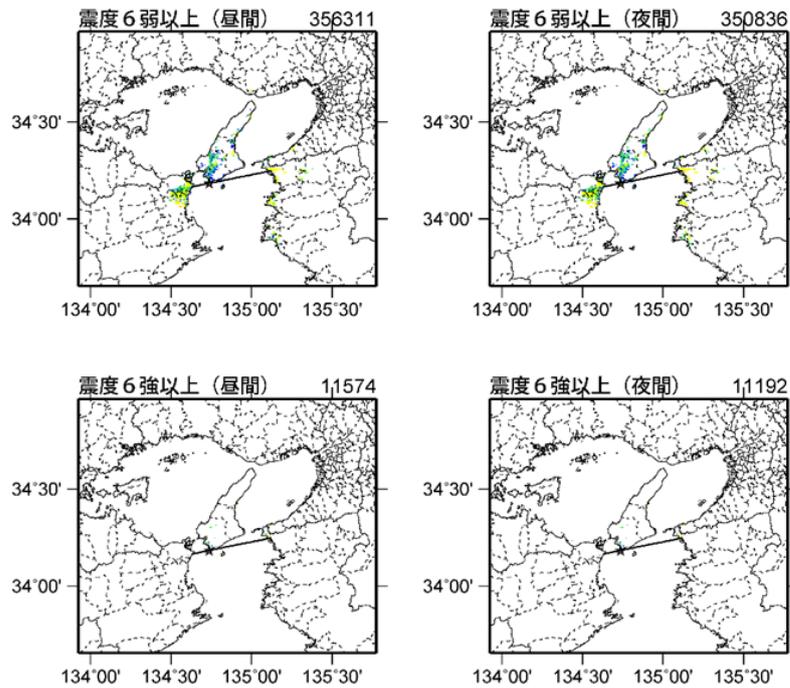
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



曝露人口 (メッシュあたりの人数)  
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯紀淡海峡－鳴門海峡区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

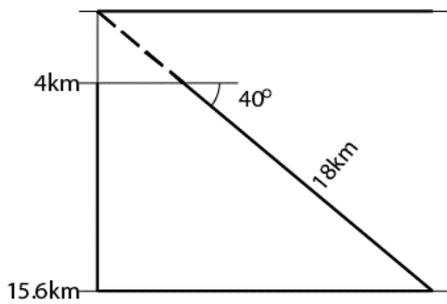
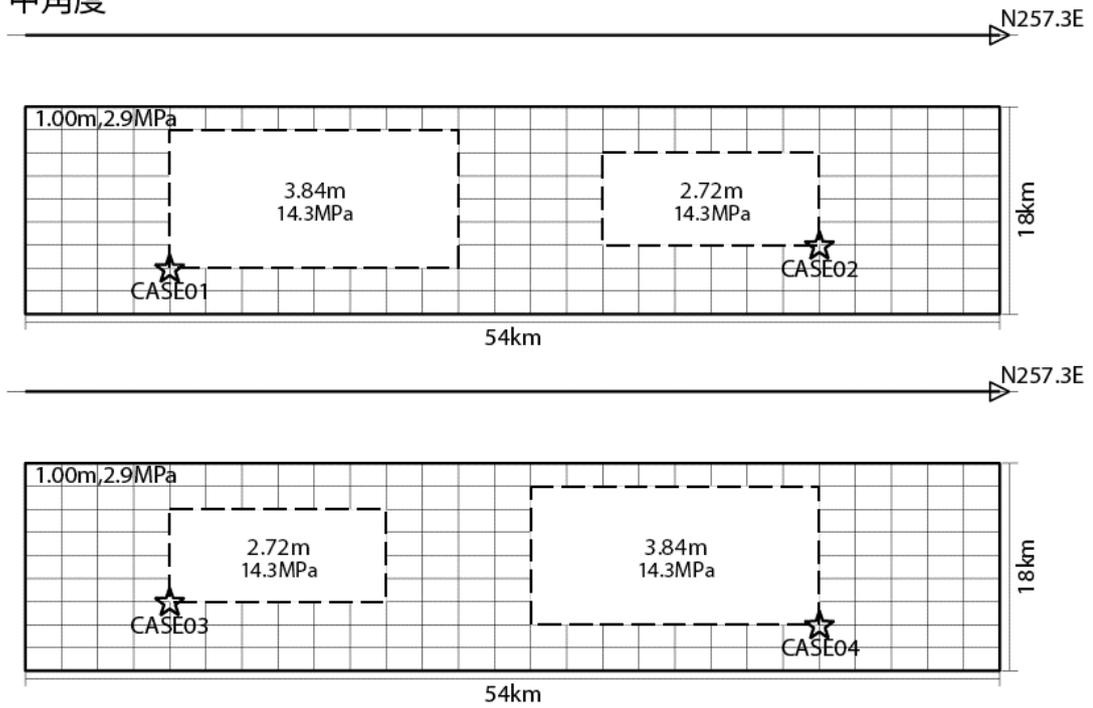
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯讃岐山脈南縁東部区間**

中央構造線断層帯讃岐山脈南縁東部区間（F020015）の震源パラメータ

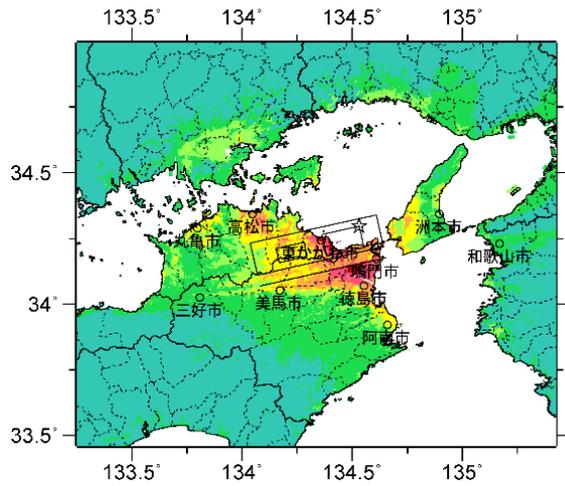
巨視的震源パラメータ		中角度		高角度
断層長さ $L$ [km]		52		52
地震規模 $M$		7.7		7.7
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4		4
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15
設定手順		(イ)	(イ)	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		5.26E+19	5.26E+19	5.26E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		7.1	7.1	7.1
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		972	972	672
静的応力低下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		4.2	<b>3.1</b>	3.1
平均すべり量 $D$ [m]		1.73	1.73	2.51
走向 $\theta$ [度]		257.3	257.3	257.3
傾斜角 $\delta$ [度]		40	40	90
すべり角 $\lambda$ [度]		180	180	180
断層モデル原点緯度 [°N]		34.2186	34.2186	34.1786
断層モデル原点経度 [°E]		134.6423	134.6423	134.6643
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4	4	4
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		54	54	56
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18	18	12
微視的震源パラメータ				
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.99E+19	1.69E+19	1.40E+19
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.99E+19	1.99E+19	1.99E+19
全 ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	288.0	<b>213.8</b>	147.8
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.3	14.1	14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	3.47	3.47	5.02
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	3.12E+19	2.32E+19	2.32E+19
ア ス ペ リ テ ィ 1	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	192.0	142.6	98.6
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	14.3	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	3.84	3.84	5.56
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	2.30E+19	1.71E+19	1.71E+19
	計算用面積 [km×km]	16 × 12	12 × 12	10 × 10
ア ス ペ リ テ ィ 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	96.0	71.3	49.3
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	14.3	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	2.72	2.72	3.93
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	8.14E+18	6.05E+18	6.05E+18
	計算用面積 [km×km]	12 × 8	12 × 6	8 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	684.0	758.2	524.2
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.9	3.0	3.8
	すべり量 $D_b$ [m]	1.00	1.25	1.80
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	2.14E+19	2.95E+19	2.95E+19

※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力低下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

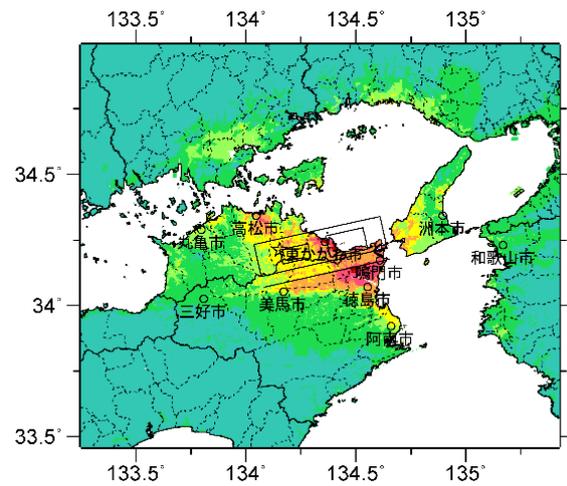
中角度



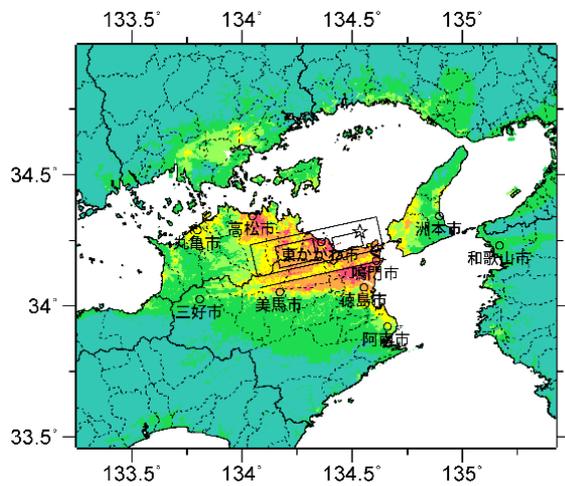
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



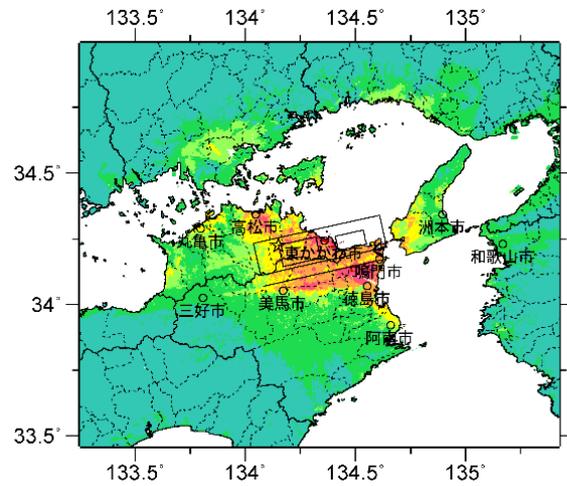
詳細法ケース 1



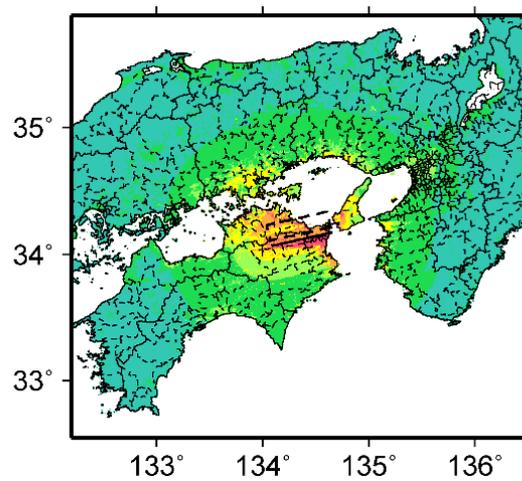
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

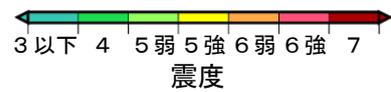


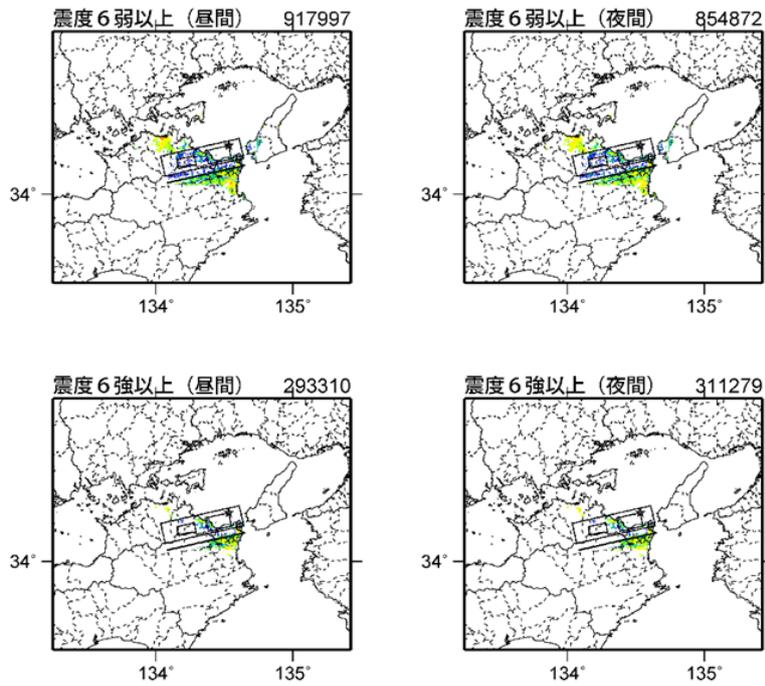
詳細法ケース 4



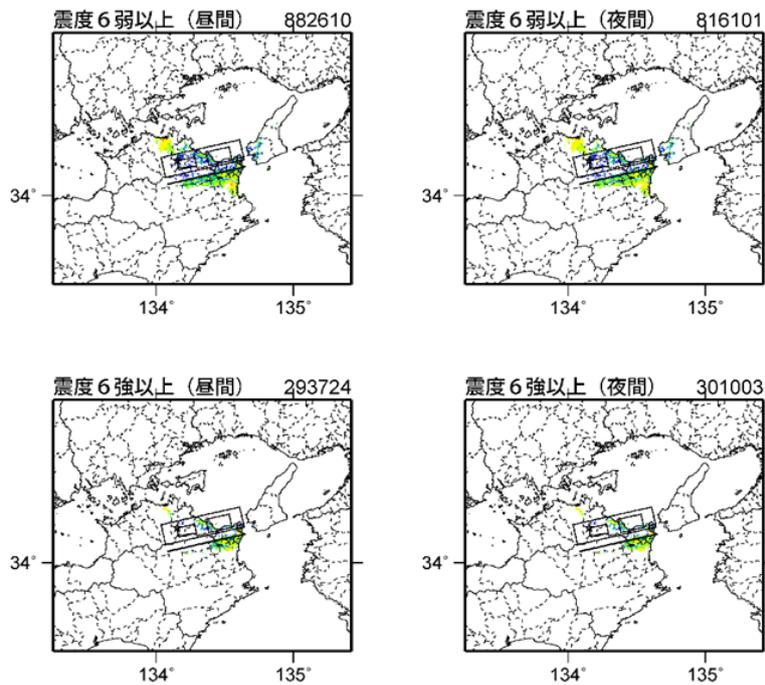
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

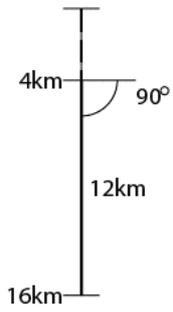
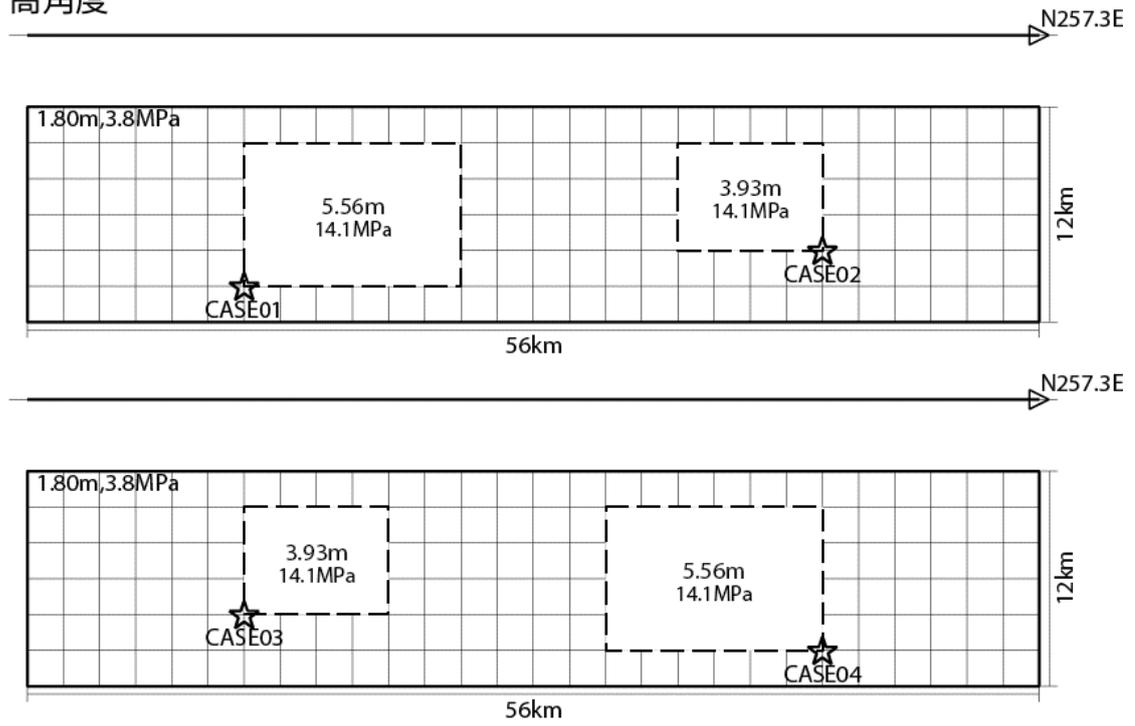


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

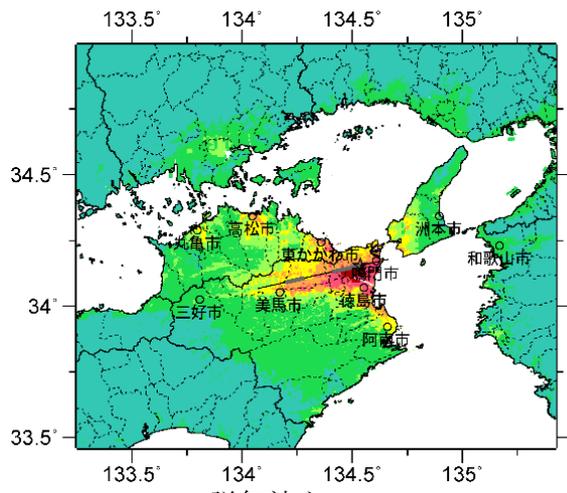
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯讃岐山脈南縁東部区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

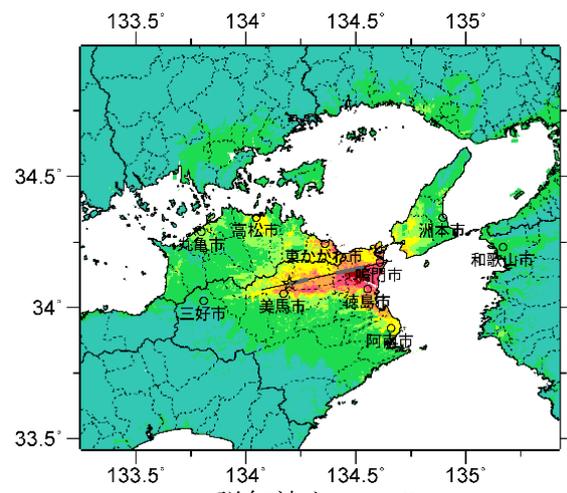
高角度



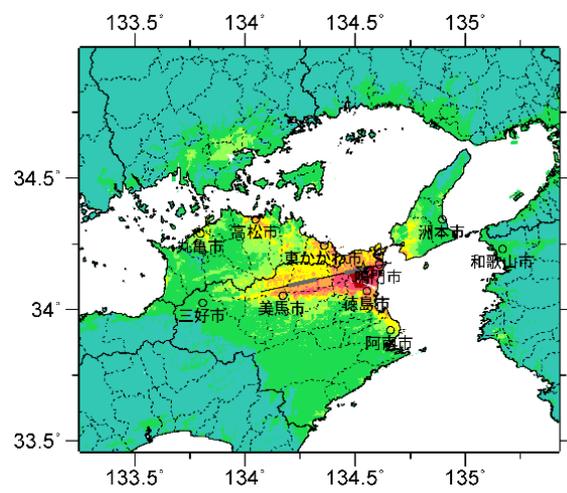
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



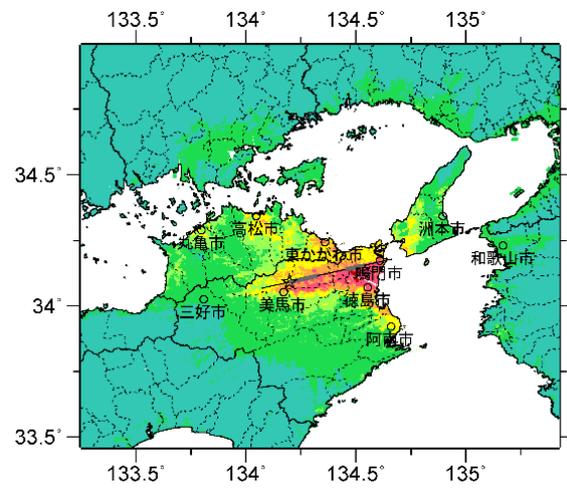
詳細法ケース 1



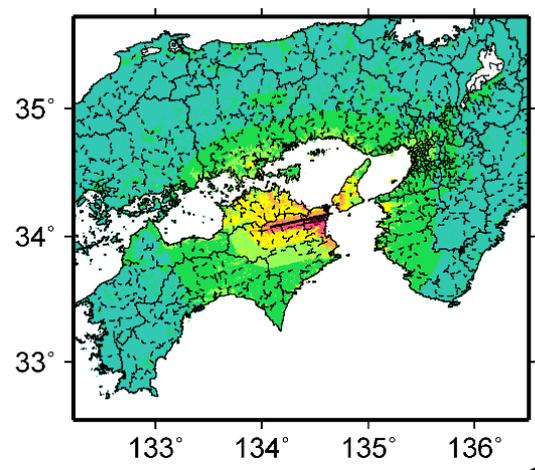
詳細法ケース 2



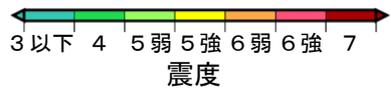
詳細法ケース 3



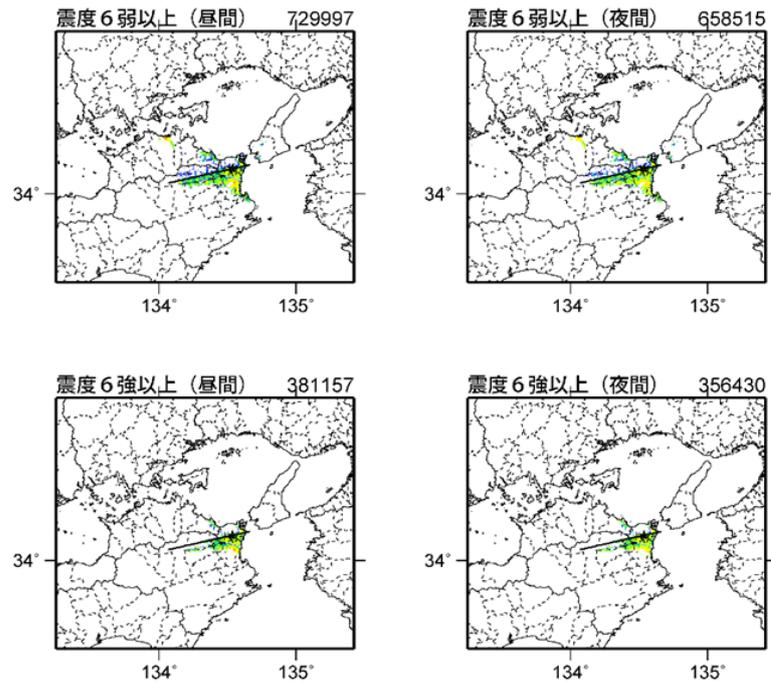
詳細法ケース 4



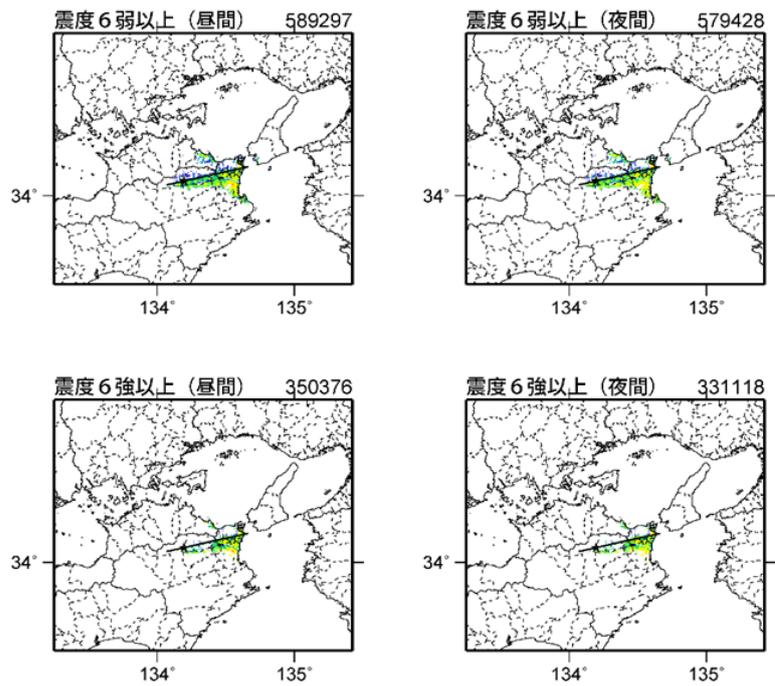
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯讃岐山脈南縁東部区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

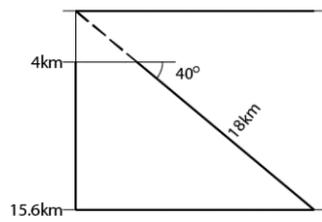
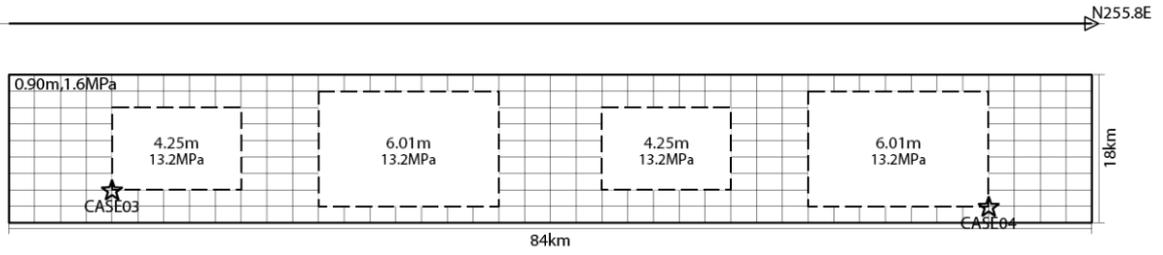
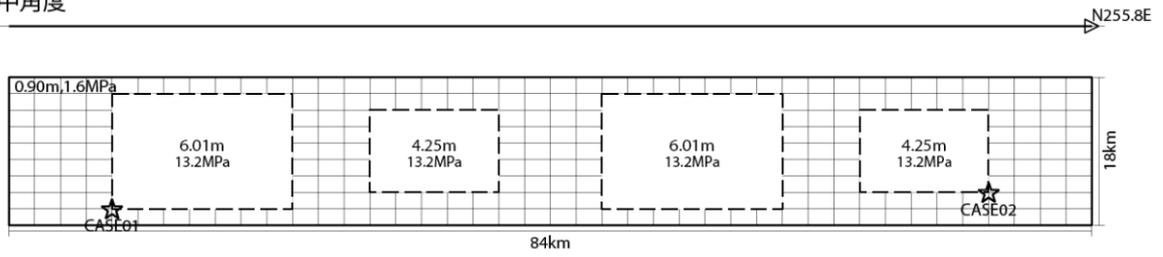
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯讃岐山脈南縁西部区間**

中央構造線断層帯讃岐山脈南縁西部区間（F020016）の震源パラメータ

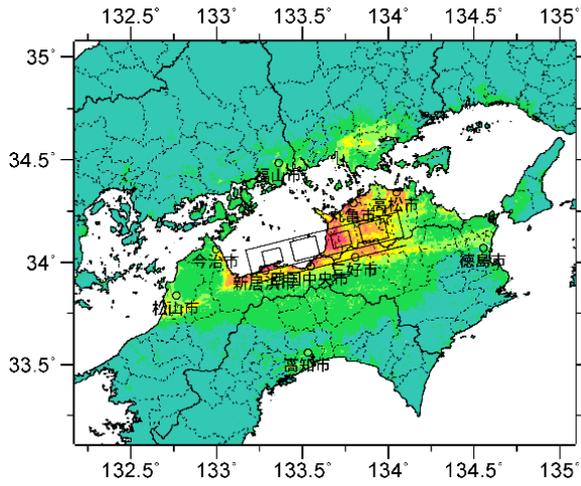
巨視的震源パラメータ		中角度				高角度	
断層長さ $L$ [km]		82				82	
地震規模 $M$		8.0				8.0	
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4				4	
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15				15	
設定手順		(イ)		(イ)		(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.28E+20		1.28E+20		1.28E+20	
モーメントマグニチュード $M_w$		7.3		7.3		7.3	
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]		1512		1512		1032	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		5.3		3.1		3.1	
平均すべり量 $D$ [m]		2.71		2.71		3.97	
走向 $\theta$ [度]		255.8		255.8		255.8	
傾斜角 $\delta$ [度]		40		40		90	
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180		180	
断層モデル原点緯度 [°N]		34.1255		34.1255		34.0860	
断層モデル原点経度 [°E]		134.0908		134.0908		134.1140	
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]		4		4		4	
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]		84		84		86	
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]		18		18		12	
微視的震源パラメータ							
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.67E+19		2.11E+19		1.74E+19	
短周期レベル (参照) $A_{\text{Dan}}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.67E+19		2.67E+19		2.67E+19	
全 ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	605.0		332.6		227.0	
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	13.2		14.1		14.1	
	すべり量 $D_a$ [m]	5.42		5.42		7.94	
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.02E+20		5.63E+19		5.63E+19	
1 ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	201.7	201.7	110.9	110.9	75.7	75.7
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	13.2	13.2	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	6.01	6.01	6.01	6.01	8.80	8.80
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	3.78E+19	3.78E+19	2.08E+19	2.08E+19	2.08E+19	2.08E+19
	計算用面積 [km×km]	14 × 14	14 × 14	14 × 8	14 × 8	12 × 6	12 × 6
2 ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	100.8	100.8	55.4	55.4	37.8	37.8
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	13.2	13.2	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	4.25	4.25	4.25	4.25	6.22	6.22
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.34E+19	1.34E+19	7.35E+18	7.35E+18	7.35E+18	7.35E+18
	計算用面積 [km×km]	10 × 10	10 × 10	10 × 6	10 × 6	6 × 6	6 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	907.0		1179.4		805.0	
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	1.6		2.7		3.3	
	すべり量 $D_b$ [m]	0.90		1.95		2.85	
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	2.56E+19		7.16E+19		7.16E+19	

※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

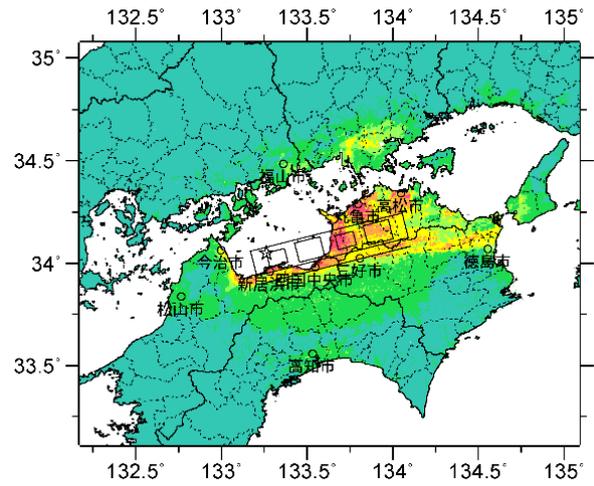
中角度



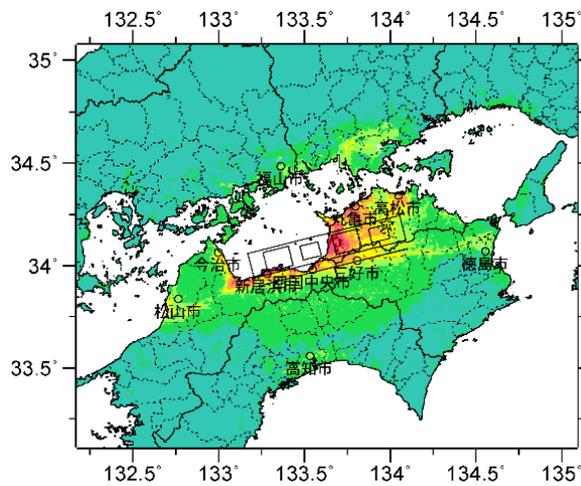
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



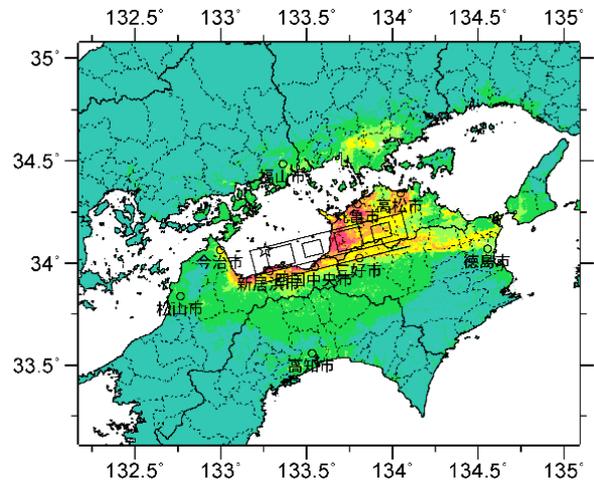
詳細法ケース1



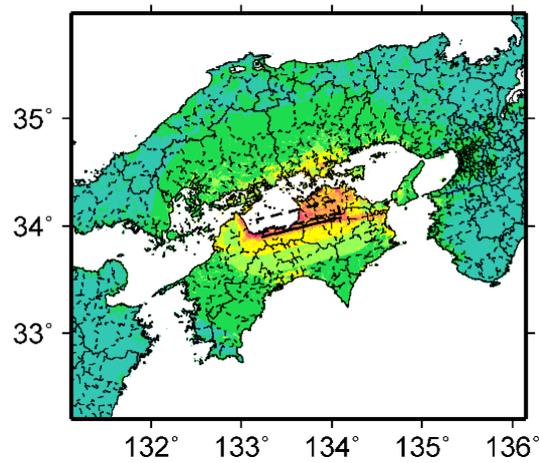
詳細法ケース2



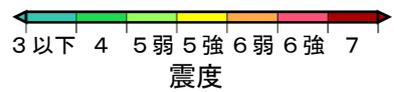
詳細法ケース3



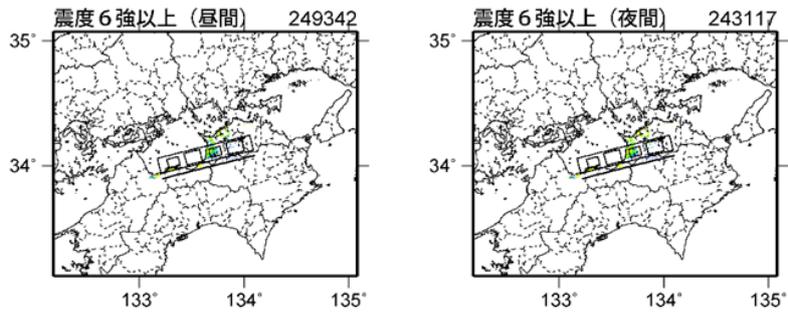
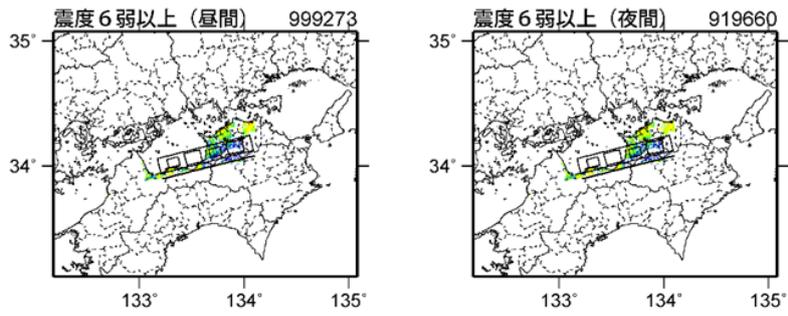
詳細法ケース4



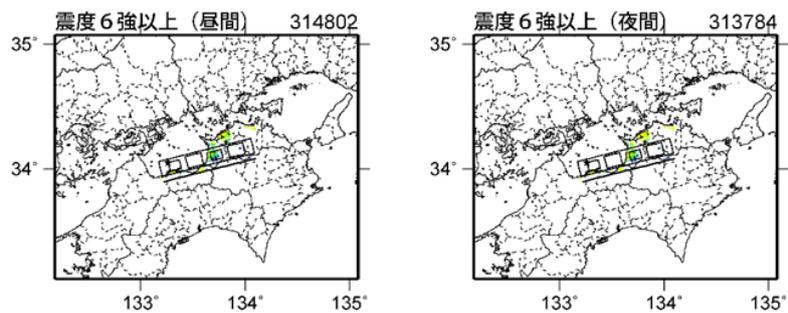
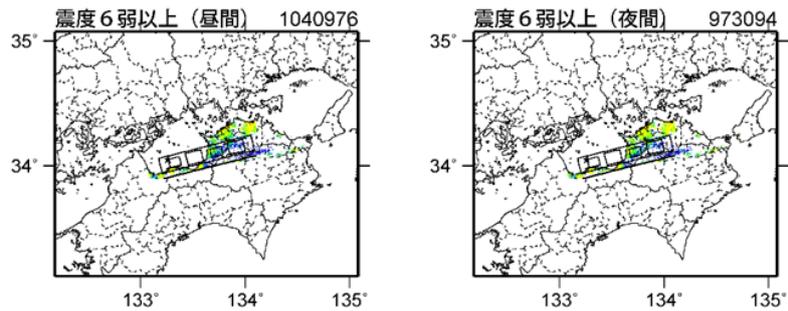
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

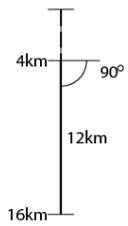
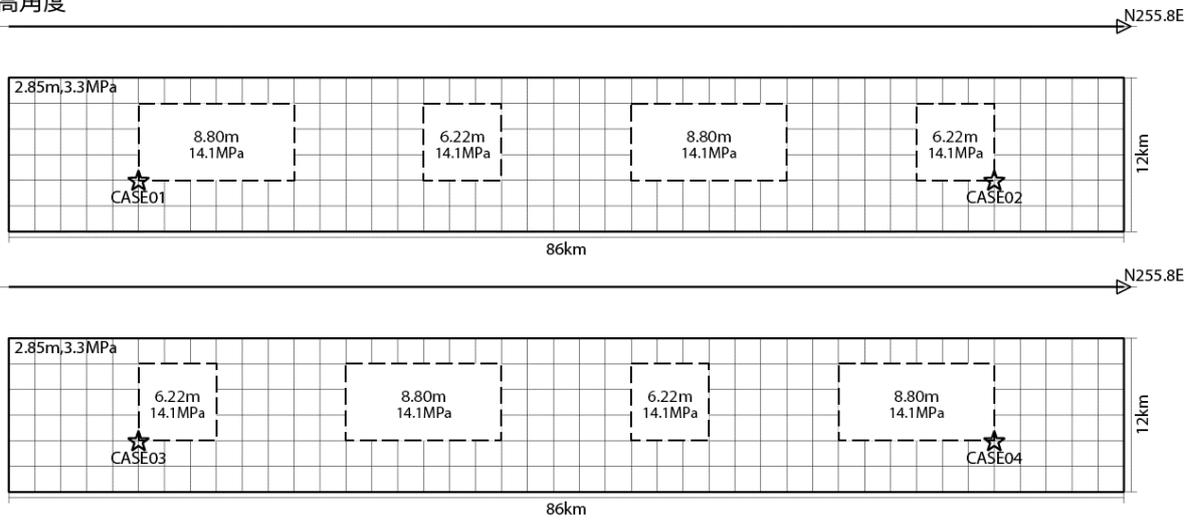


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

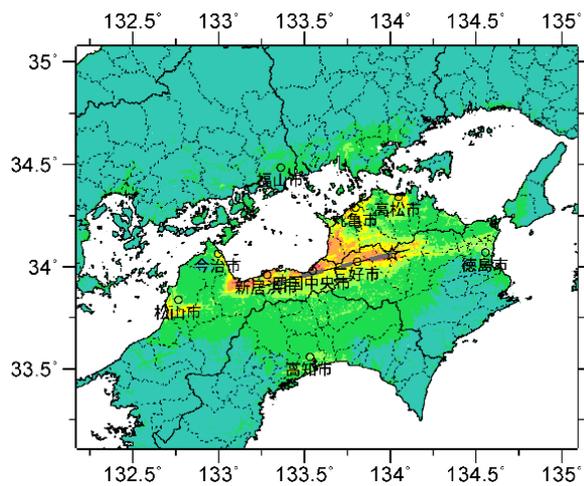
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯讃岐山脈南縁西部区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

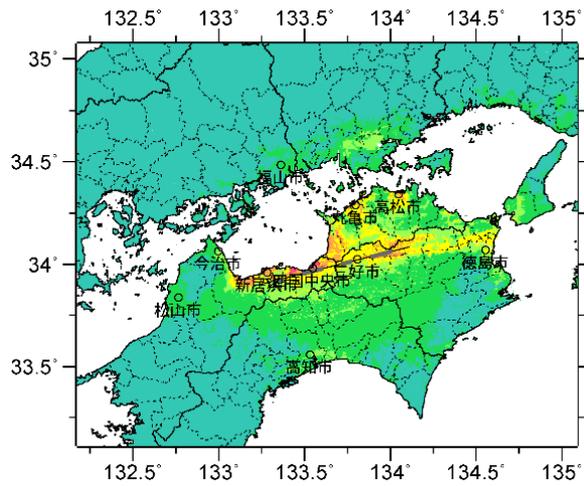
高角度



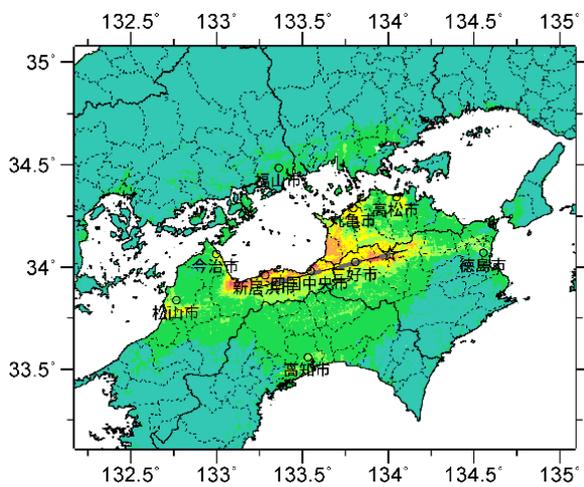
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



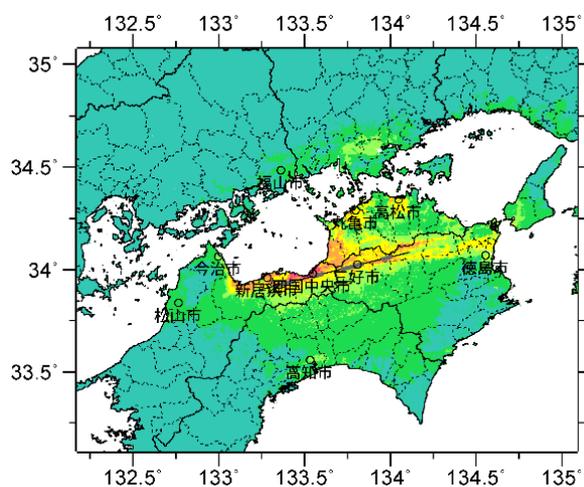
詳細法ケース 1



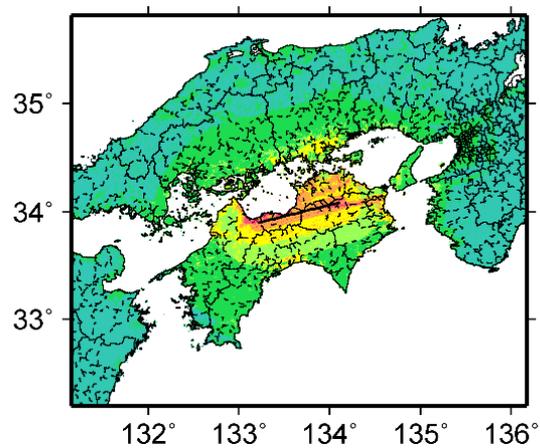
詳細法ケース 2



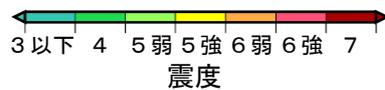
詳細法ケース 3



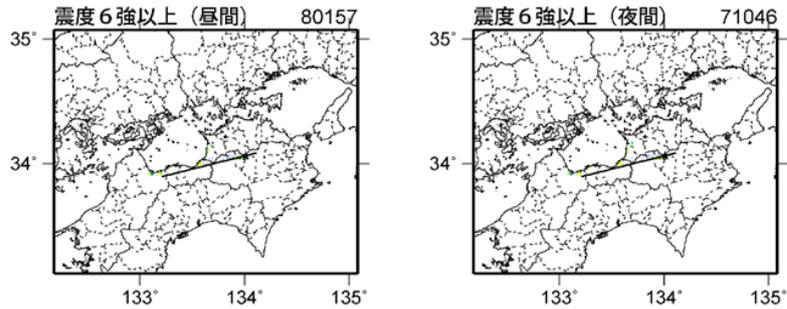
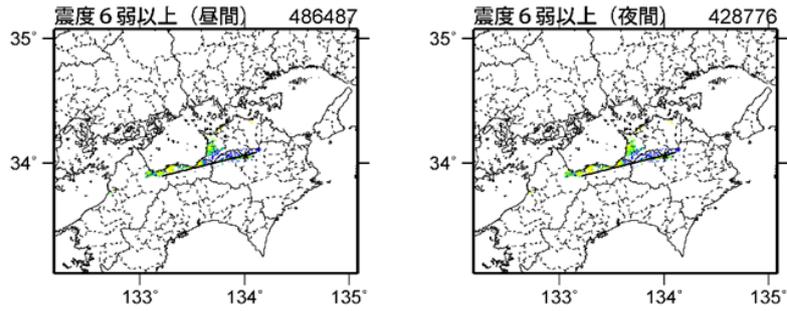
詳細法ケース 4



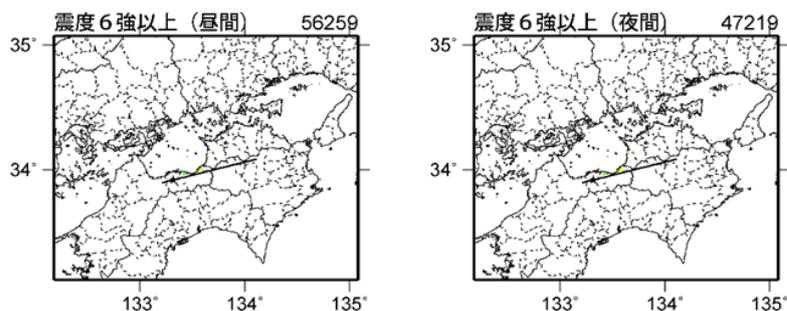
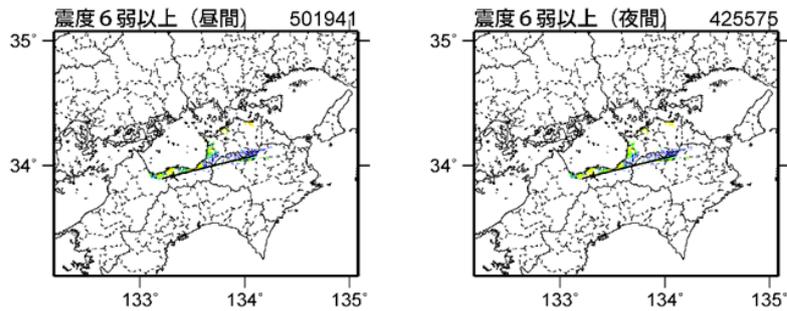
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯讃岐山脈南縁西部区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

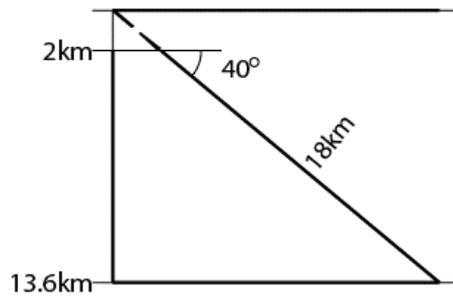
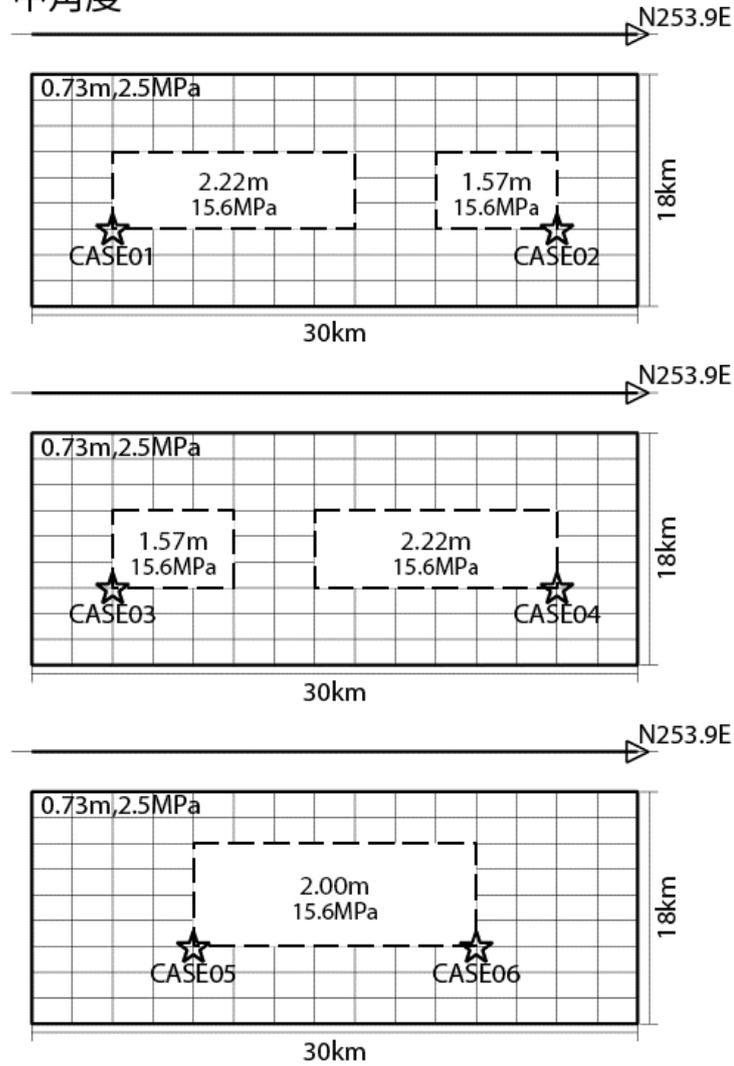
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯石鎚山脈北縁区間**

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁区間（F020017）の震源パラメータ

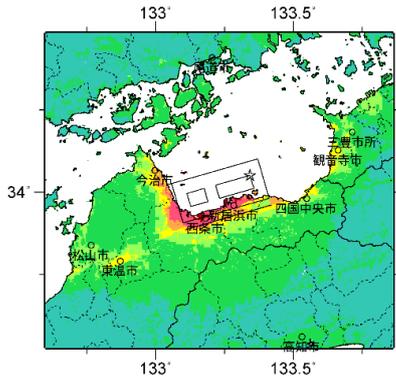
巨視的震源パラメータ		中角度		高角度			
断層長さ $L$ [km]		29		29			
地震規模 $M$		7.3		7.3			
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		2		2			
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15		15			
設定手順		(イ)		(イ)		(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.69E+19		1.69E+19		1.69E+19	
モーメントマグニチュード $M_w$		6.8		6.8		6.8	
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		540		476		476	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.3		4.0		<b>3.1</b>	
平均すべり量 $D$ [m]		1.00		1.13		1.13	
走向 $\theta$ [度]		253.9		253.9		253.9	
傾斜角 $\delta$ [度]		40		90		90	
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180		180	
断層モデル原点緯度 [°N]		33.9816		33.9660		33.9660	
断層モデル原点経度 [°E]		133.4120		133.4399		133.4399	
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		2		2		2	
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		30		34		34	
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18		14		14	
微視的震源パラメータ							
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.36E+19		1.36E+19		1.18E+19	
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.36E+19		1.36E+19		1.36E+19	
全 リ ア ス ペ ィ テ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	113.6		128.8		<b>104.7</b>	
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	15.6		14.6		14.1	
	すべり量 $D_a$ [m]	2.00		2.27		2.27	
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	7.09E+18		9.12E+18		7.42E+18	
ア ス ペ ィ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	75.7	113.6	85.9	128.8	69.8	104.7
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	15.6	15.6	14.6	14.6	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	2.22	2.00	2.51	2.27	2.51	2.27
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	5.24E+18	7.09E+18	6.74E+18	9.12E+18	5.48E+18	7.42E+18
	計算用面積 [km×km]	12 × 6	14 × 8	10 × 8	16 × 8	12 × 6	10 × 10
ア ス ペ ィ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	37.9	—	42.9	—	34.9	—
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	15.6	—	14.6	—	14.1	—
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	1.57	—	1.78	—	1.78	—
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.85E+18	—	2.38E+18	—	1.94E+18	—
	計算用面積 [km×km]	6 × 6	—	8 × 6	—	6 × 6	—
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	426.4	426.4	347.2	347.2	371.3	371.3
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.5	2.5	2.7	2.6	2.7	3.6
	すべり量 $D_b$ [m]	0.73	0.73	0.71	0.71	0.81	0.81
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	9.76E+18	9.76E+18	7.73E+18	7.73E+18	9.44E+18	9.44E+18

※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

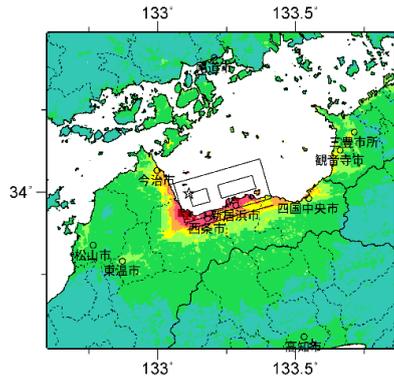
中角度



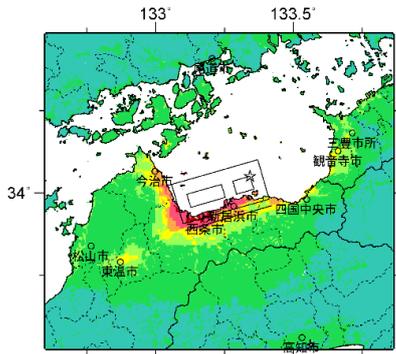
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



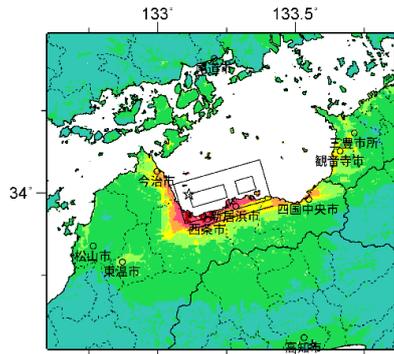
詳細法ケース 1



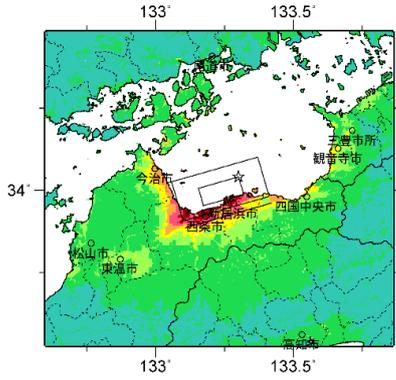
詳細法ケース 2



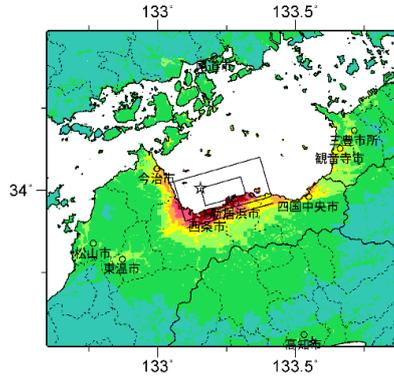
詳細法ケース 3



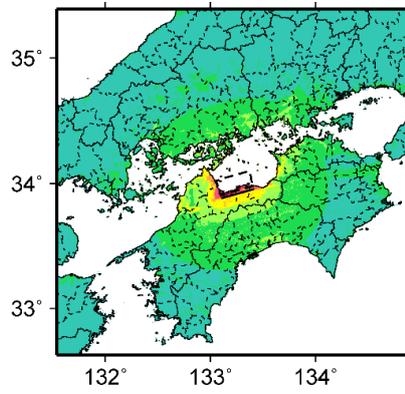
詳細法ケース 4



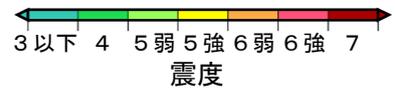
詳細法ケース 5

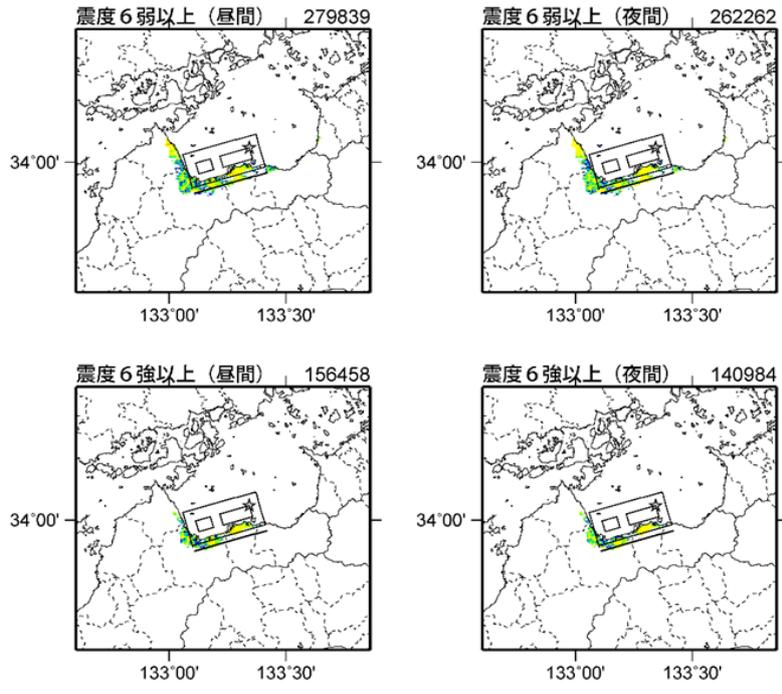


詳細法ケース 6

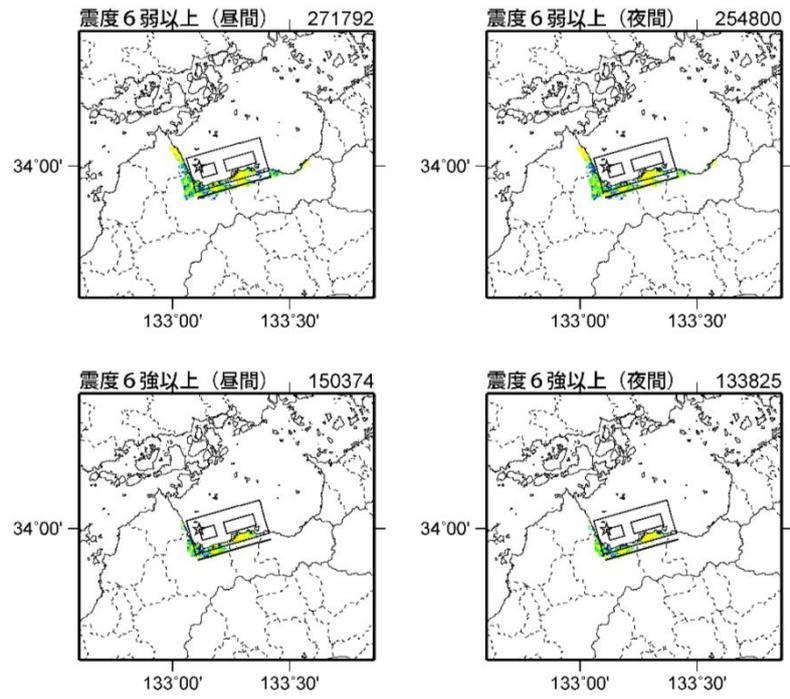


簡便法  
地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

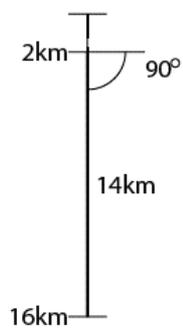
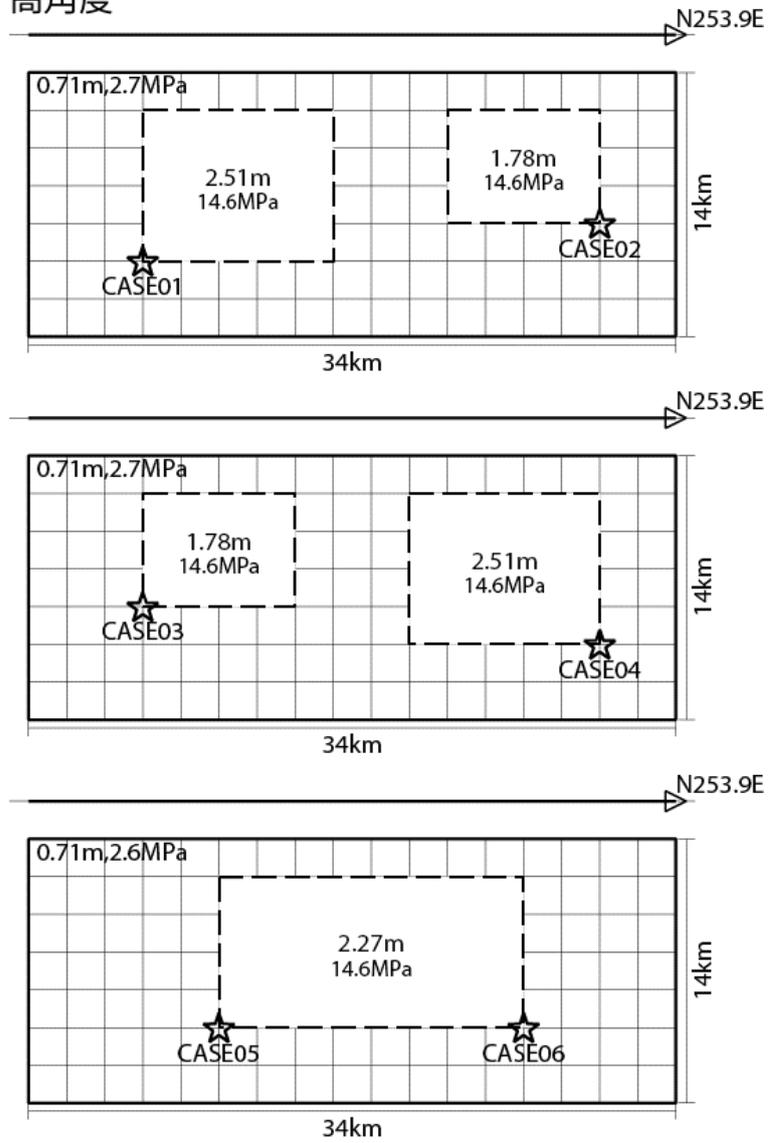


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

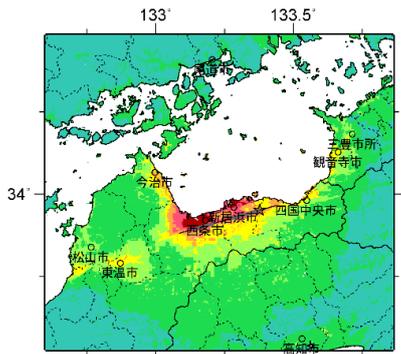
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図(シナリオ地震動予測地図)

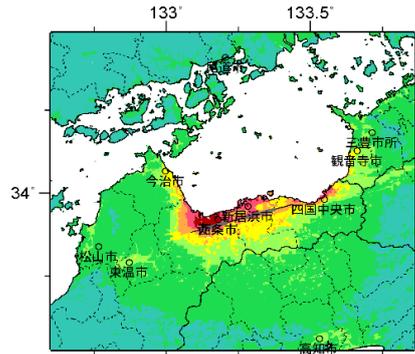
高角度



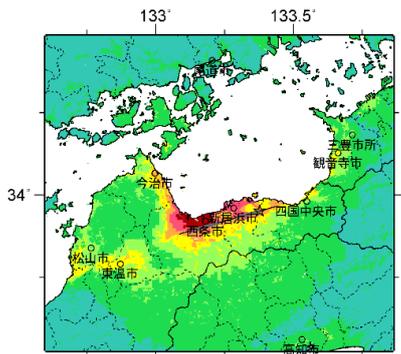
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



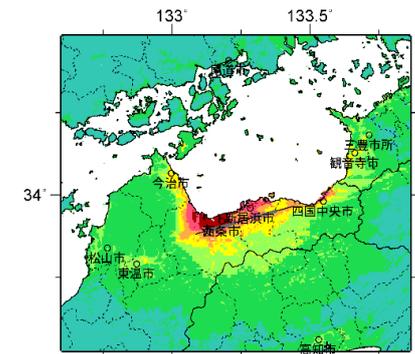
詳細法ケース 1



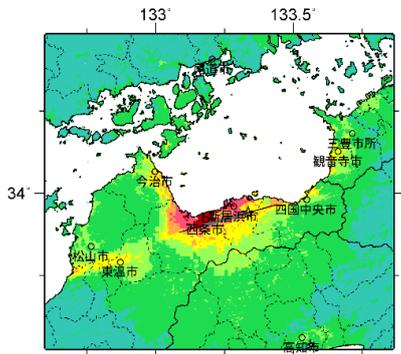
詳細法ケース 2



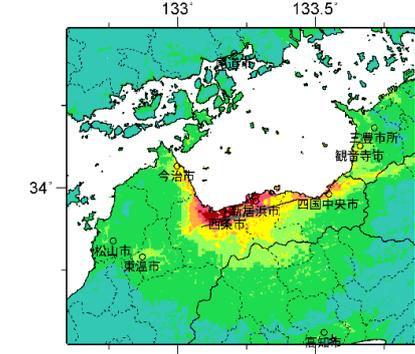
詳細法ケース 3



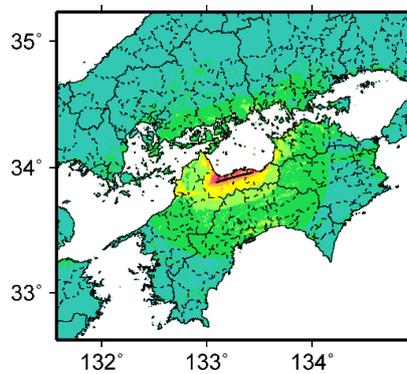
詳細法ケース 4



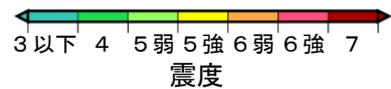
詳細法ケース 5

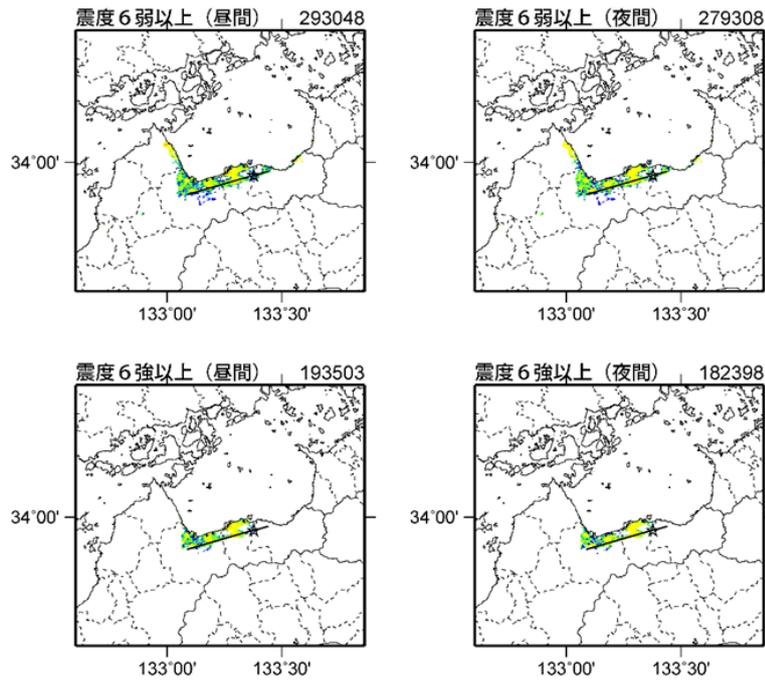


詳細法ケース 6

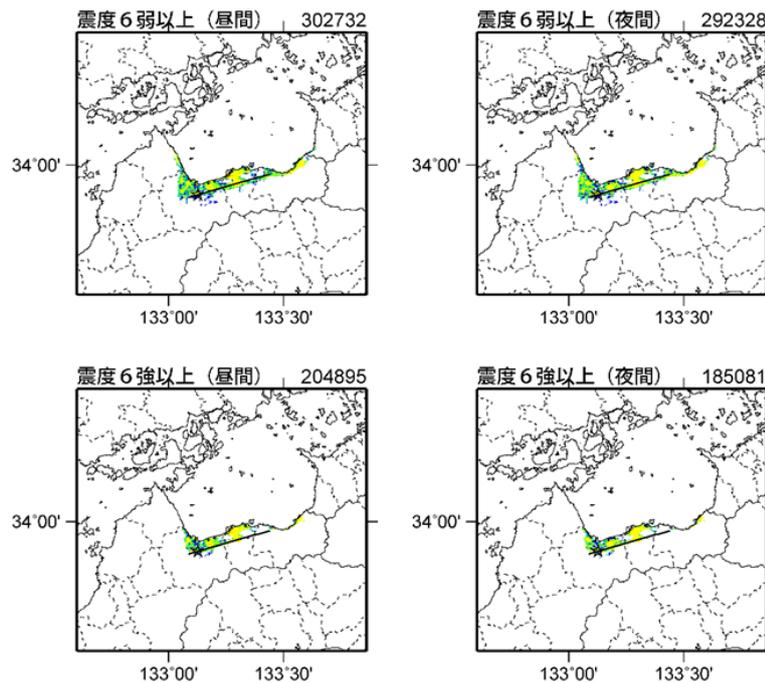


簡便法  
地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

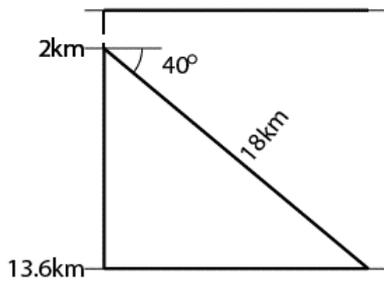
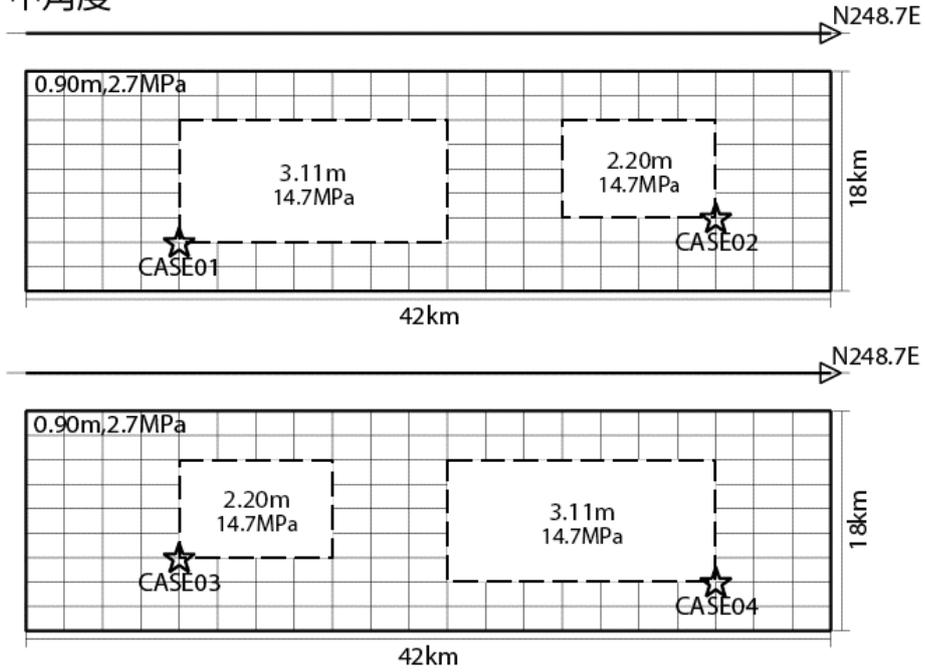
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）  
中央構造線断層帯石鎚山脈北縁西部区間

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁西部区間（F020018）の震源パラメータ

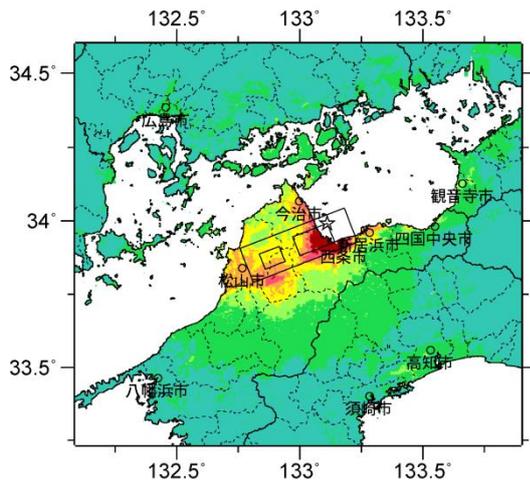
巨視的震源パラメータ		中角度		高角度	
断層長さ $L$ [km]		41		41	
地震規模 $M$		7.5		7.5	
地震発生源上限深さ $H_s$ [km]		2		2	
地震発生源下限深さ $H_d$ [km]		15		15	
設定手順		(イ)	(イ)	(イ)	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		3.31E+19	3.31E+19	3.31E+19	3.31E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		6.9	6.9	6.9	6.9
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]		756	756	644	644
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.9	<b>3.1</b>	4.9	<b>3.1</b>
平均すべり量 $D$ [m]		1.40	1.40	1.65	1.65
走向 $\theta$ [度]		248.7	248.7	248.7	248.7
傾斜角 $\delta$ [度]		40	40	90	90
すべり角 $\lambda$ [度]		180	180	180	180
断層モデル原点緯度 [°N]		33.9276	33.9276	33.9342	33.9342
断層モデル原点経度 [°E]		133.2345	133.2345	133.4399	133.4399
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]		2	2	2	2
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]		42	42	46	46
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]		18	18	14	14
微視的震源パラメータ					
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.70E+19	1.49E+19	1.70E+19	1.37E+19
短周期レベル（参照） $A_{\text{Dan}}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.70E+19	1.70E+19	1.70E+19	1.70E+19
全 ア ス ペ ク ト 比 1	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	199.6	<b>166.3</b>	234.3	<b>141.7</b>
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.7	14.1	13.6	14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	2.81	2.81	3.29	3.29
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.75E+19	1.46E+19	2.41E+19	1.46E+19
ア ス ペ ク ト 比 2	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	133.0	110.9	156.2	94.5
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	14.7	14.1	13.6	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	3.11	3.11	3.65	3.65
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	1.29E+19	1.08E+19	1.78E+19	1.08E+19
	計算用面積 [km×km]	14 × 10	14 × 8	16 × 10	12 × 8
ア ス ペ ク ト 比 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	66.5	55.4	78.1	47.2
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	14.7	14.1	13.6	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	2.20	2.20	2.58	2.58
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	4.57E+18	3.81E+18	6.29E+18	3.81E+18
	計算用面積 [km×km]	8 × 8	10 × 6	10 × 8	8 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	556.4	589.7	409.7	502.3
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.7	2.7	2.3	3.2
	すべり量 $D_b$ [m]	0.90	1.01	0.71	1.18
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	1.56E+19	1.85E+19	9.02E+18	1.85E+19

※赤字：アスペクト比が2を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

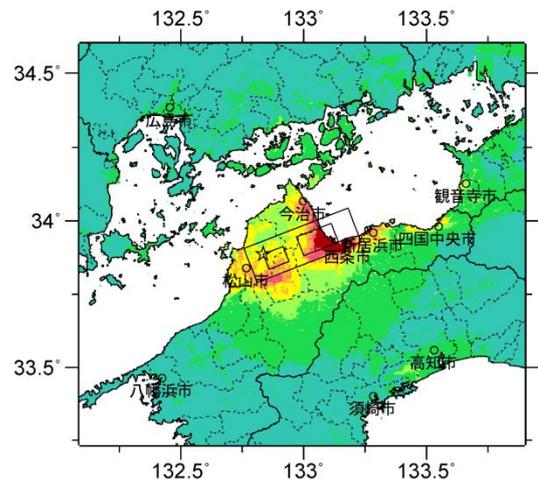
中角度



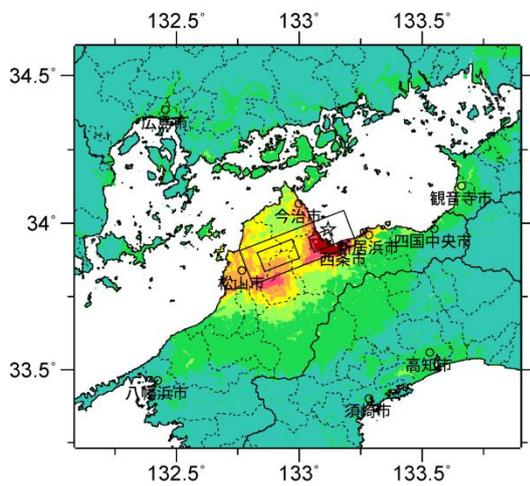
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



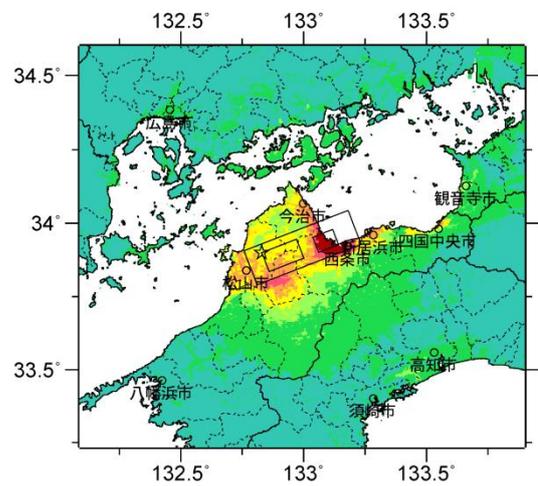
詳細法ケース 1



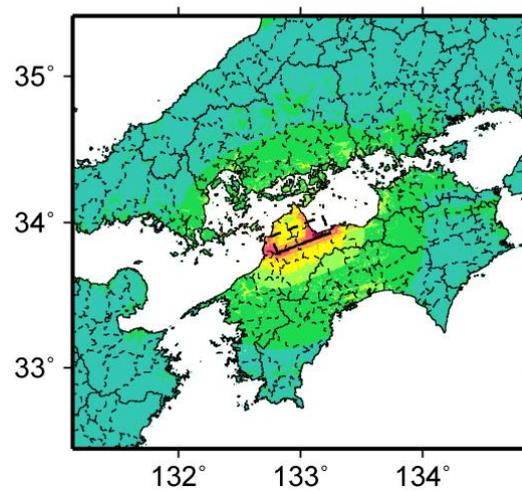
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

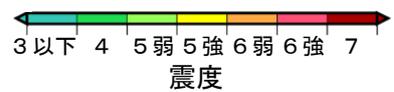


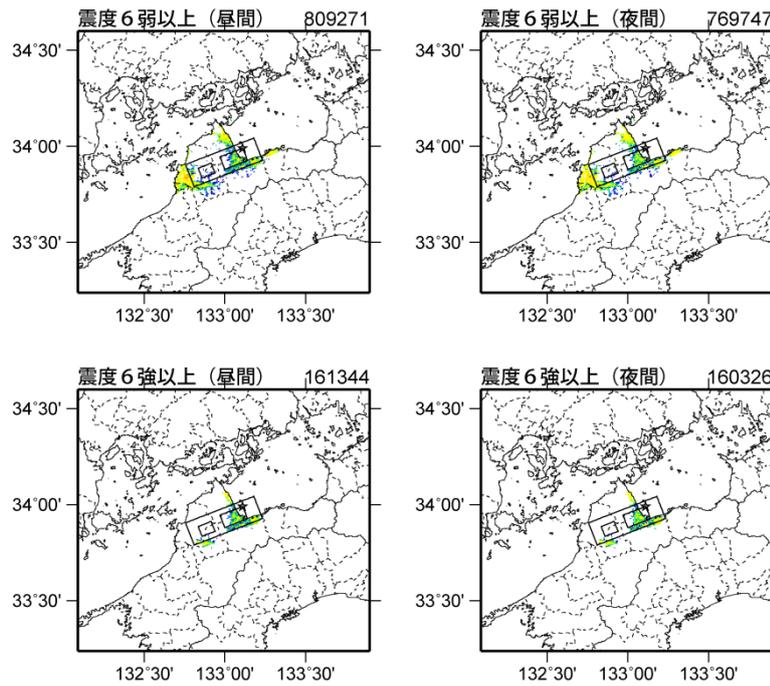
詳細法ケース 4



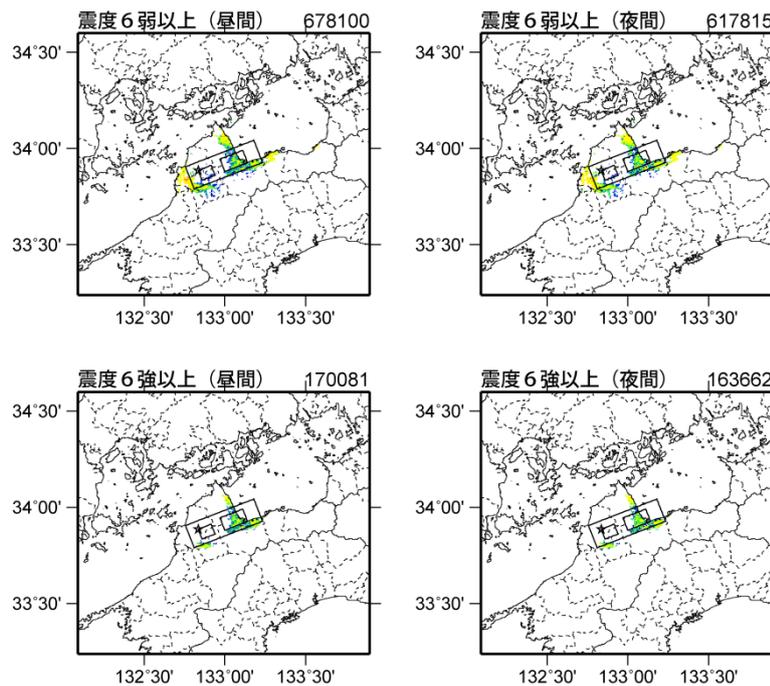
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

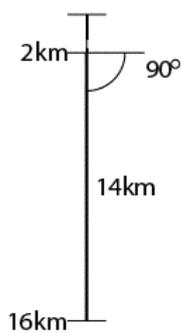
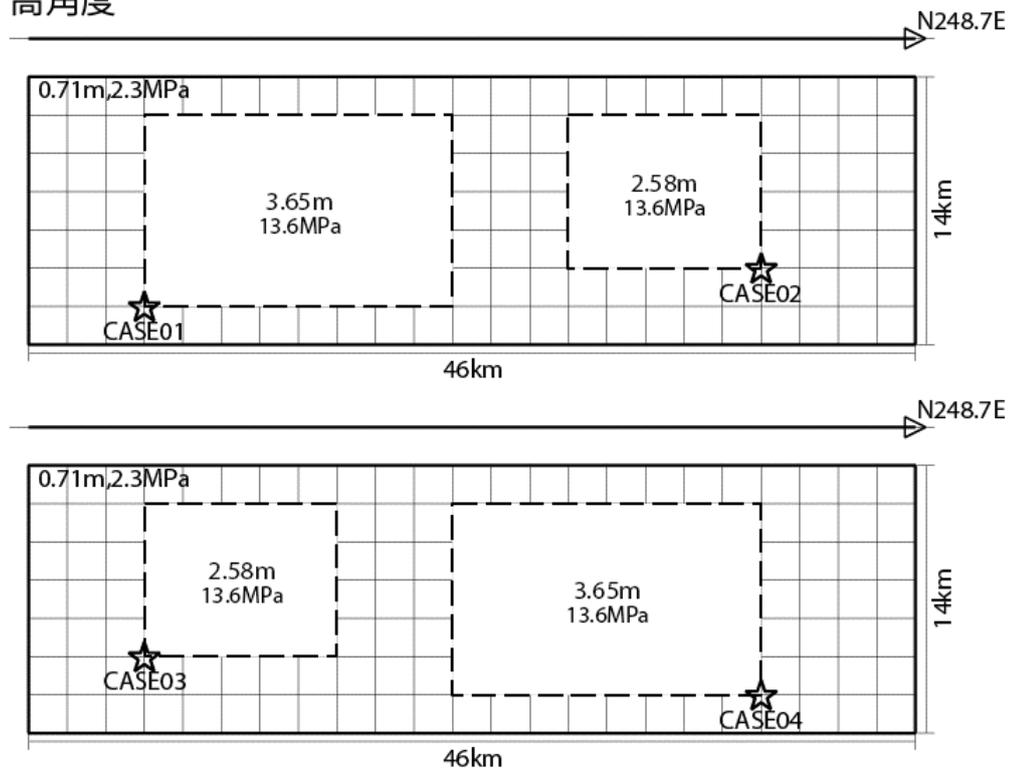


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

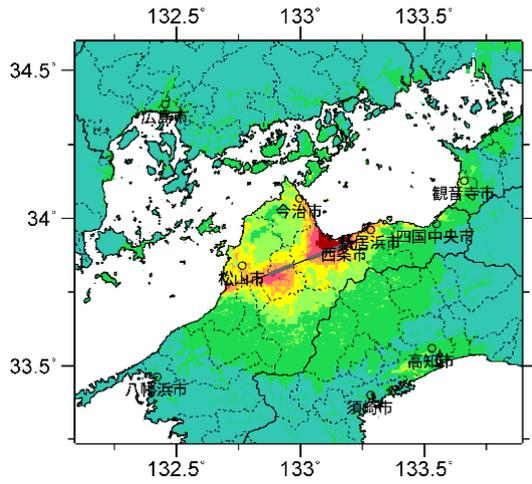
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁西部区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

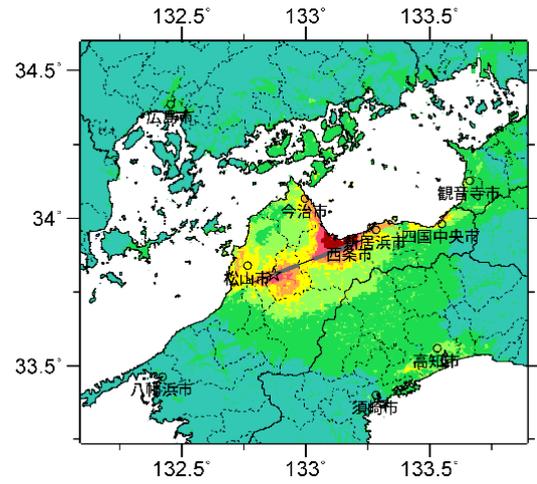
# 高角度



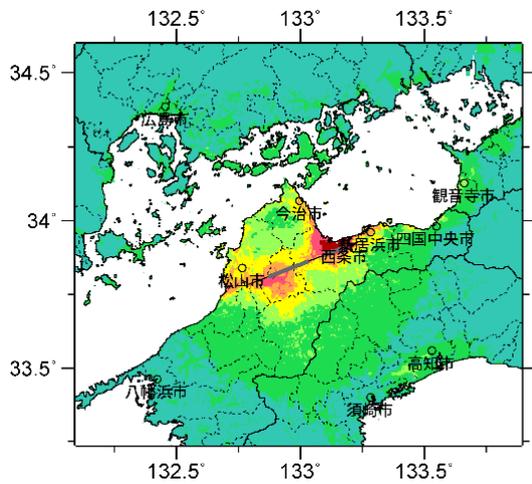
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



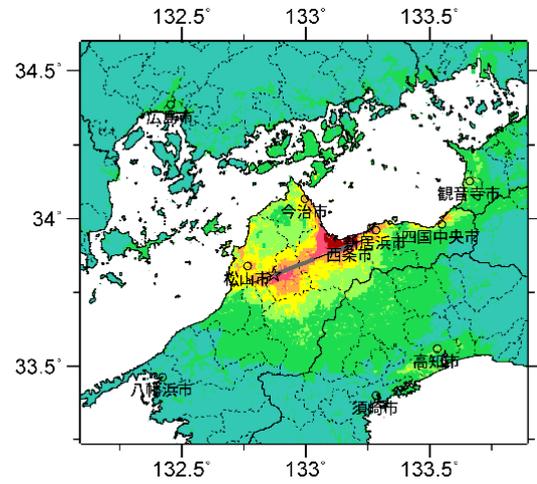
詳細法ケース 1



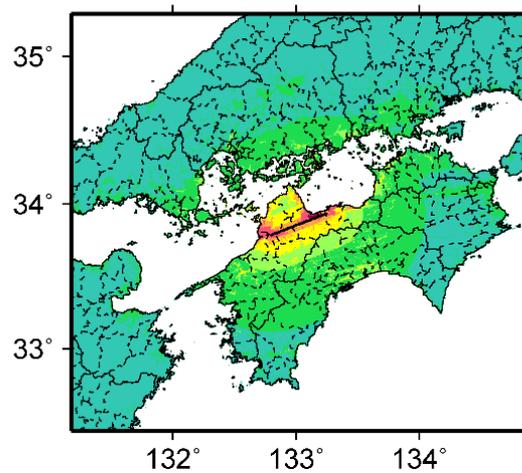
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

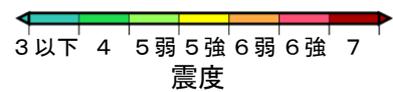


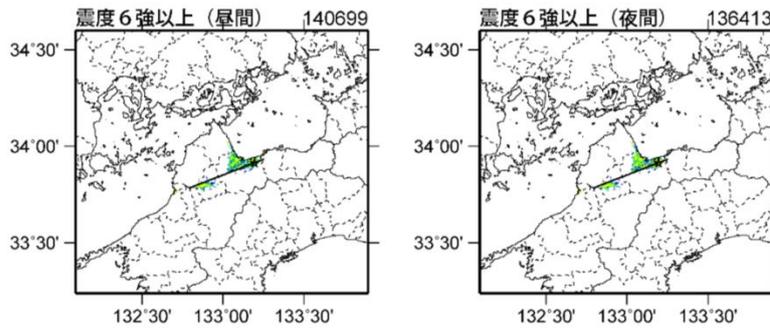
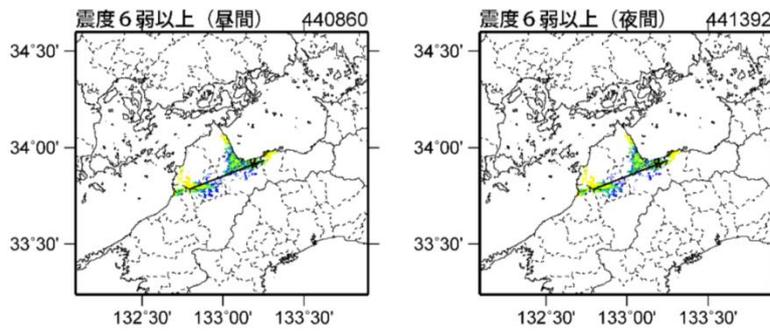
詳細法ケース 4



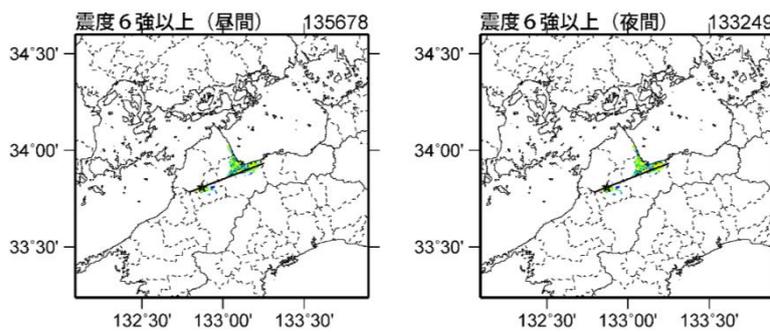
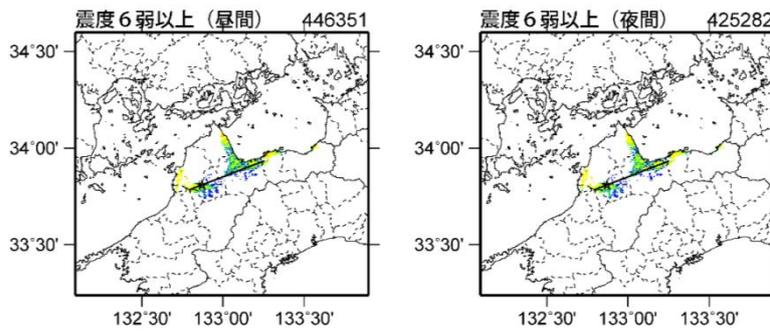
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯石鎚山脈北縁西部区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

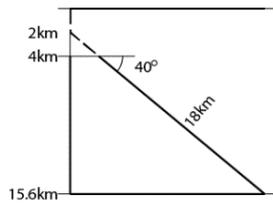
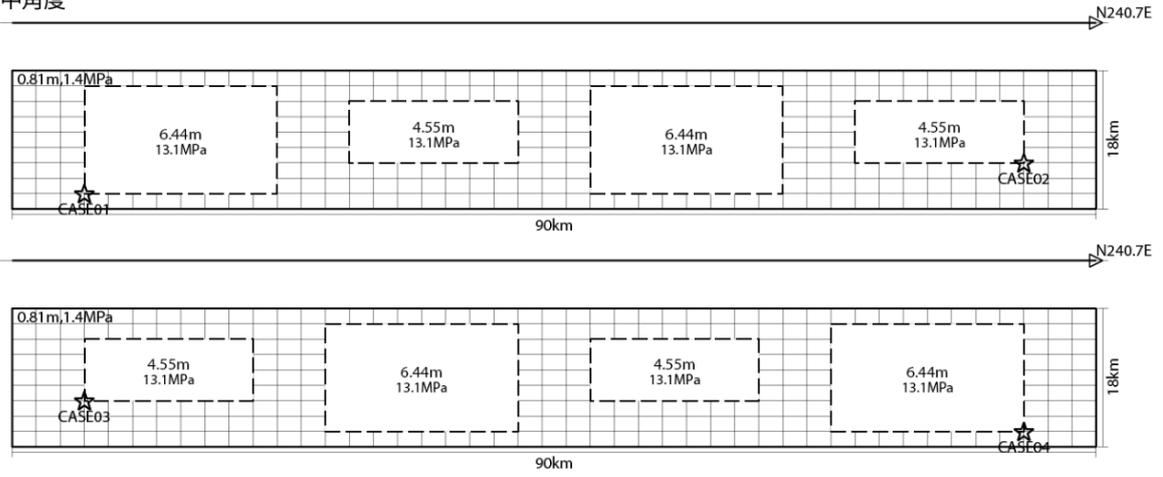
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯伊予灘区間**

中央構造線断層帯伊予灘区間（F020019）の震源パラメータ

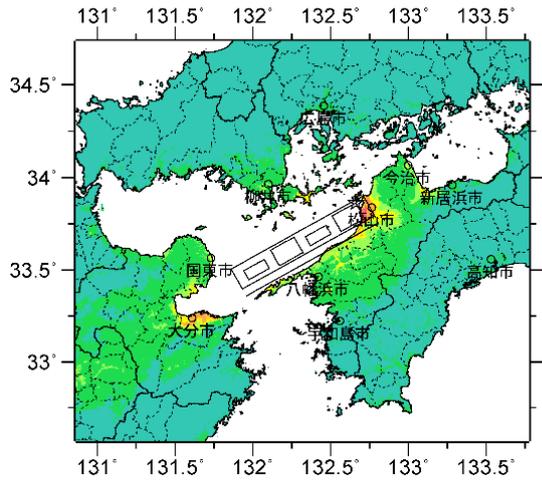
巨視的震源パラメータ		中角度				高角度	
断層長さ $L$ [km]		88				88	
地震規模 $M$		8.1				8.1	
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4				4	
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15				15	
設定手順		(イ)		(イ)		(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.47E+20		1.47E+20		1.47E+20	
モーメントマグニチュード $M_w$		7.4		7.4		7.4	
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		1620		1620		1104	
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		5.5		3.1		3.1	
平均すべり量 $D$ [m]		2.90		2.90		4.26	
走向 $\theta$ [度]		240.7		240.7		240.7	
傾斜角 $\delta$ [度]		40		40		90	
すべり角 $\lambda$ [度]		180		180		180	
断層モデル原点緯度 [°N]		33.7935		33.7935		33.7792	
断層モデル原点経度 [°E]		132.7826		132.7826		132.8046	
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4		4		4	
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		90		90		92	
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18		18		12	
微視的震源パラメータ							
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.80E+19		2.18E+19		1.80E+19	
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.80E+19		2.80E+19		2.80E+19	
全 リ テ ィ ス ペ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	678.5		356.4		242.9	
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	13.1		14.1		14.1	
	すべり量 $D_a$ [m]	5.81		5.81		8.52	
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.23E+20		6.46E+19		6.46E+19	
ア ス ペ ィ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	226.2	226.2	118.8	118.8	81.0	81.0
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	13.1	13.1	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	6.44	6.44	6.44	6.44	9.44	9.44
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	4.54E+19	4.54E+19	2.39E+19	2.39E+19	2.39E+19	2.39E+19
	計算用面積 [km×km]	16 × 14	16 × 14	12 × 10	12 × 10	10 × 8	10 × 8
ア ス ペ ィ リ テ ィ	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	113.1	113.1	59.4	59.4	40.5	40.5
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	13.1	13.1	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	4.55	4.55	4.55	4.55	6.68	6.68
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.61E+19	1.61E+19	8.44E+18	8.44E+18	8.44E+18	8.44E+18
	計算用面積 [km×km]	14 × 8	14 × 8	10 × 6	10 × 6	6 × 6	6 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	941.5		1263.6		861.1	
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	1.4		2.8		3.4	
	すべり量 $D_b$ [m]	0.81		2.08		3.06	
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	2.38E+19		8.22E+19		8.22E+19	

※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

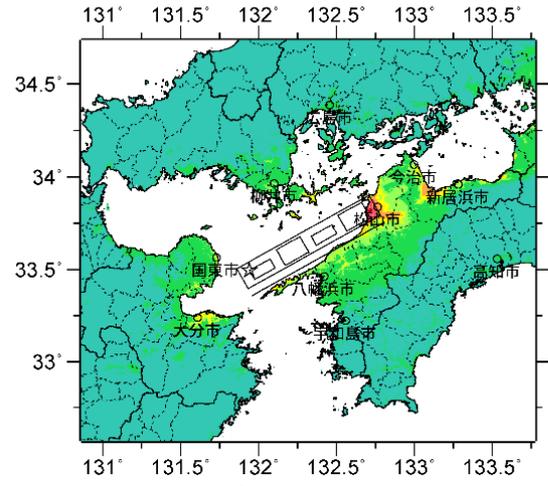
中角度



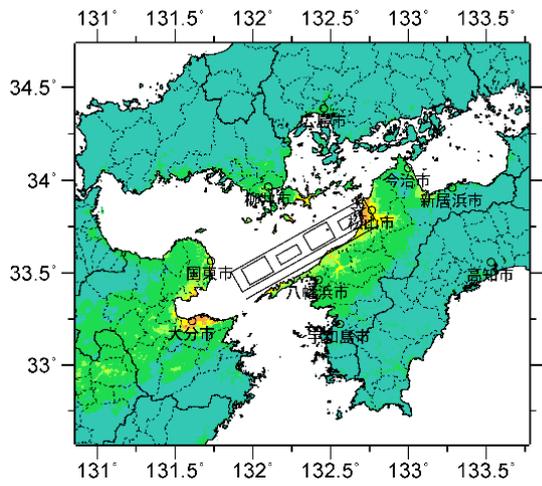
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



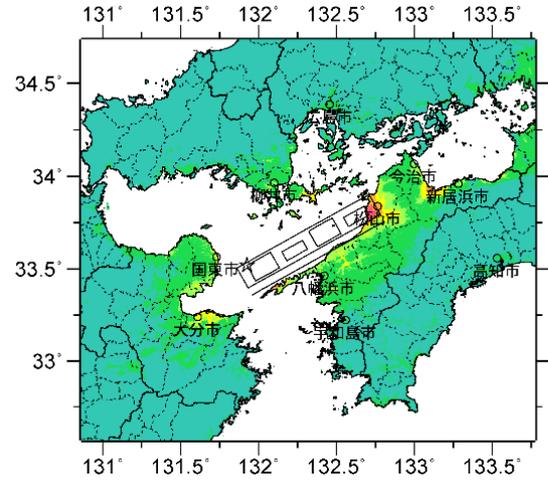
詳細法ケース 1



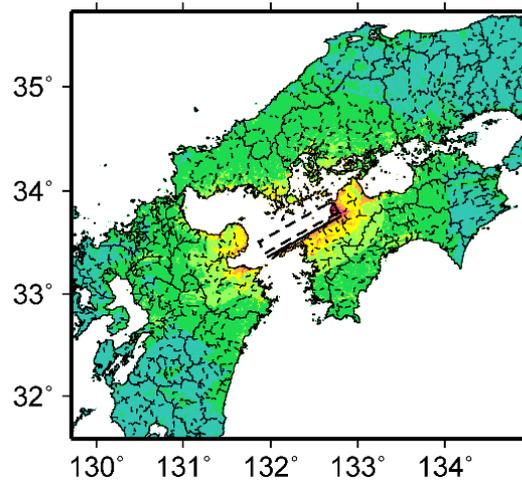
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

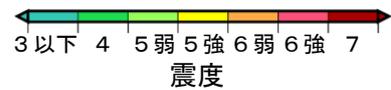


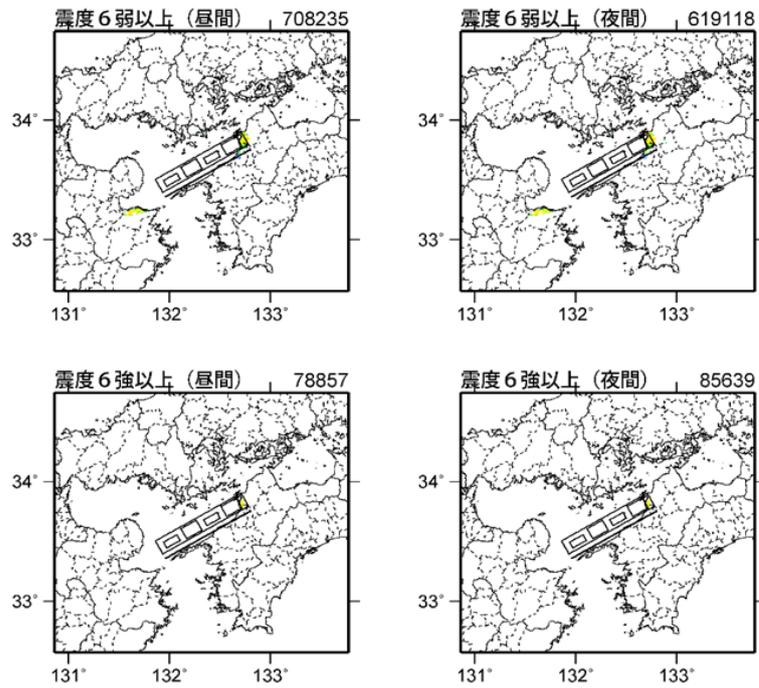
詳細法ケース 4



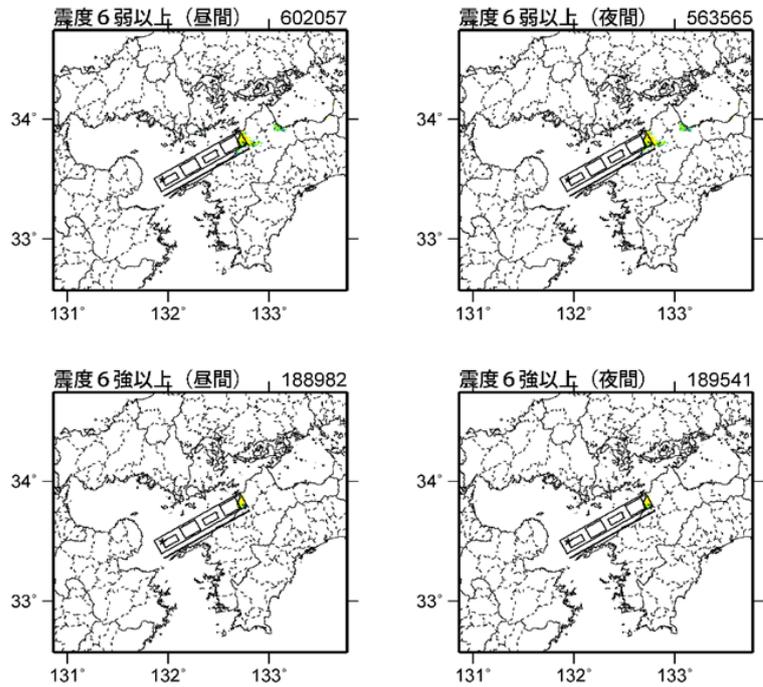
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

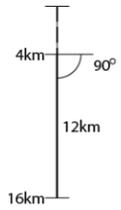
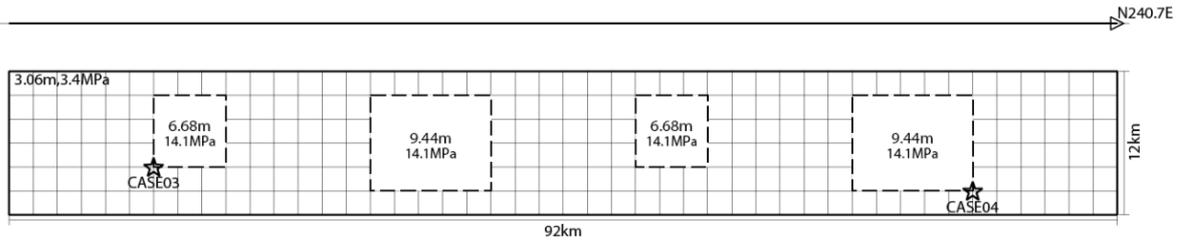
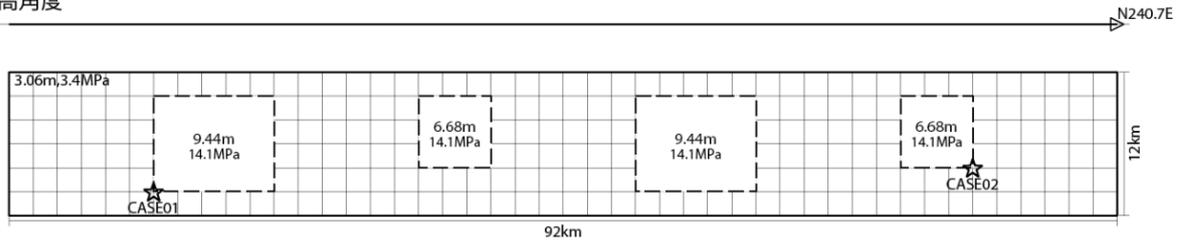


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

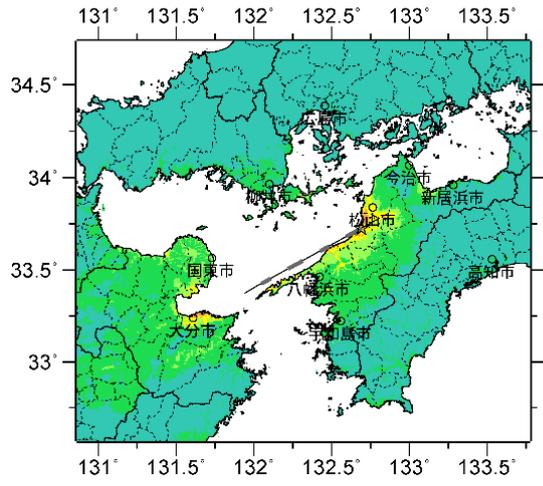
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯伊予灘区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

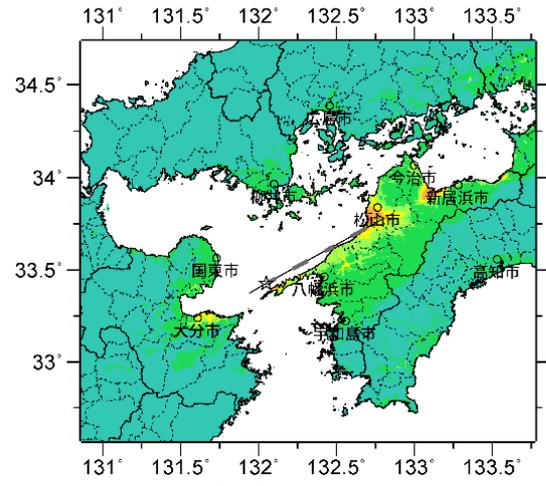
高角度



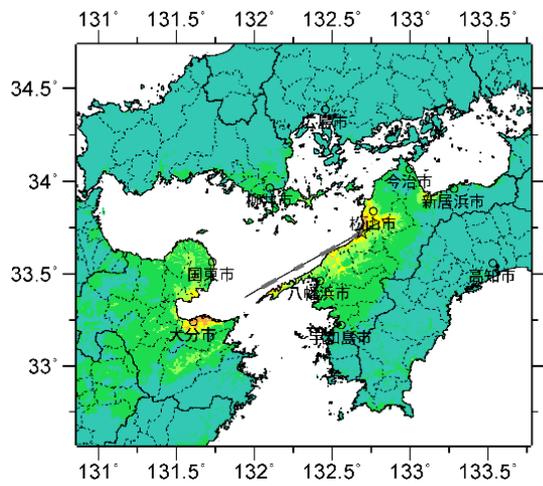
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



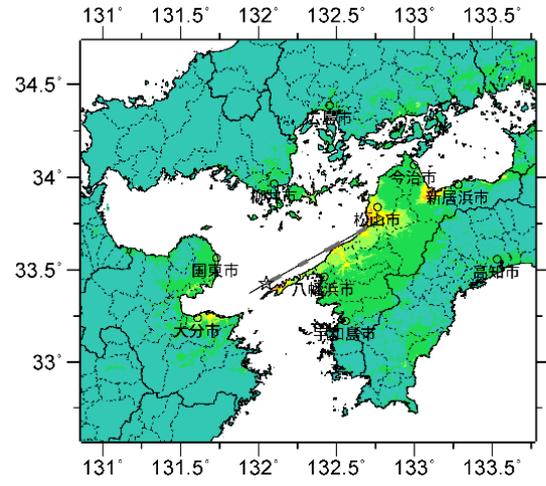
詳細法ケース 1



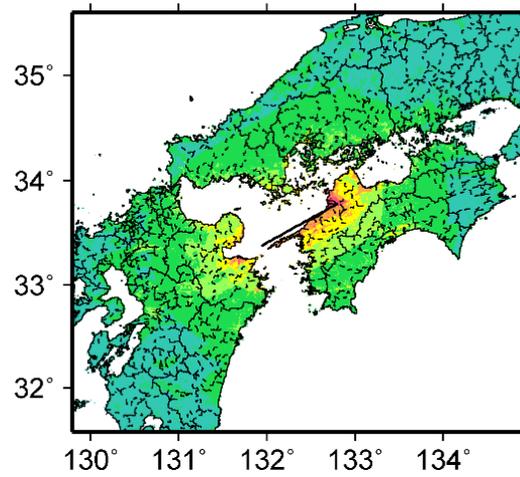
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

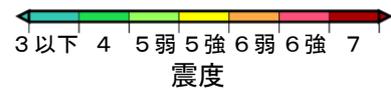


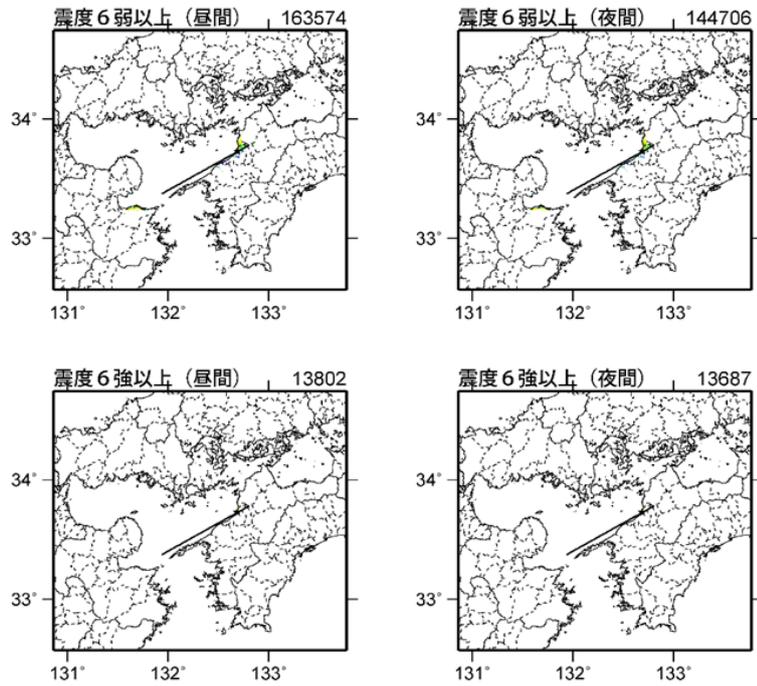
詳細法ケース 4



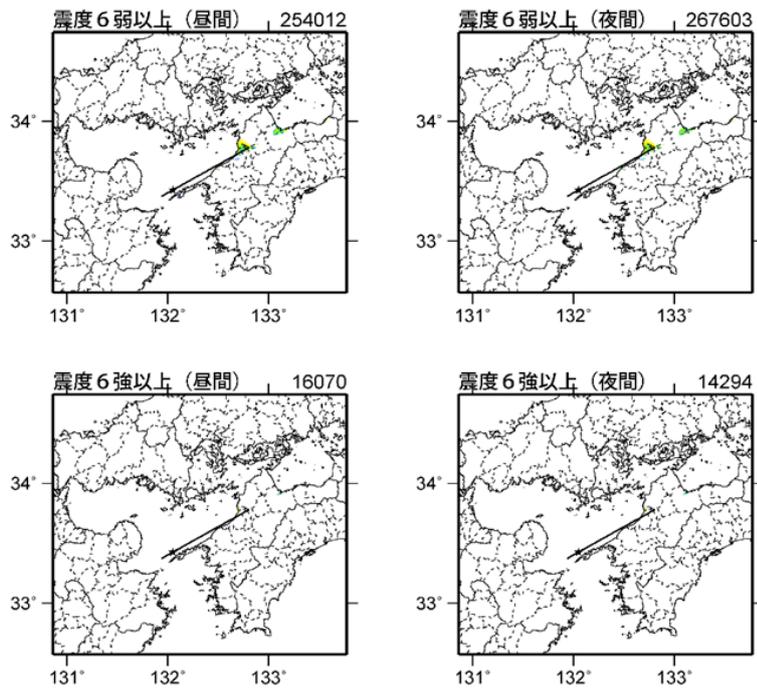
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯伊予灘区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

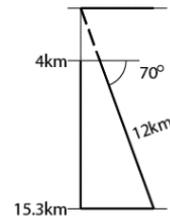
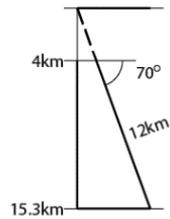
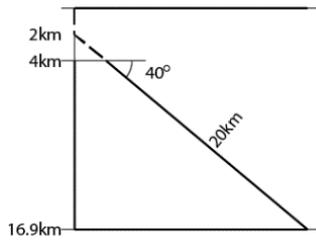
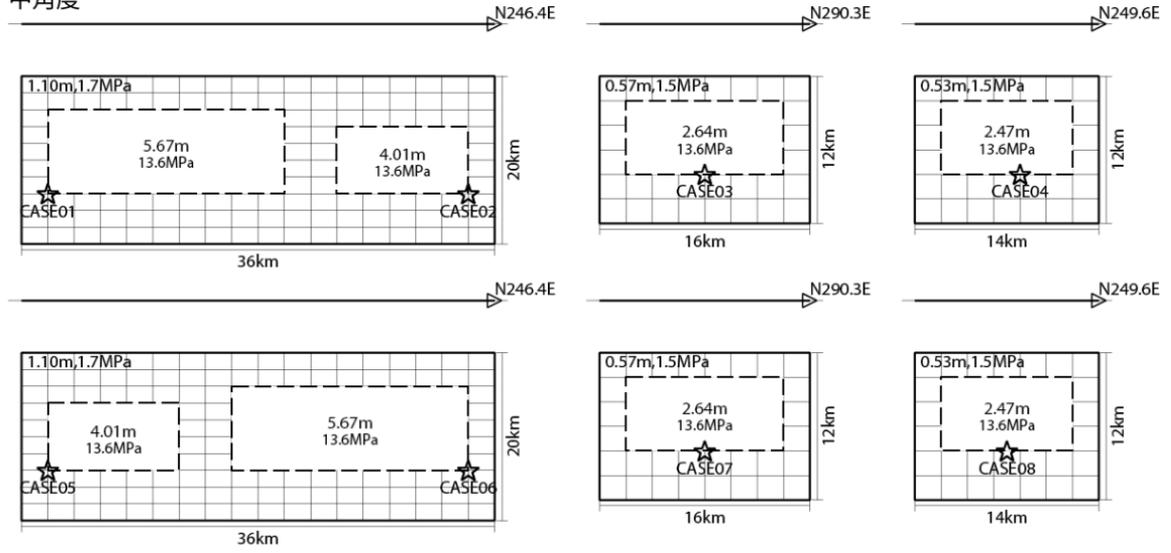
**震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）**  
**中央構造線断層帯豊予海峡－由布院区間**

中央構造線断層帯豊予海峡－由布院区間（F020020）の震源パラメータ

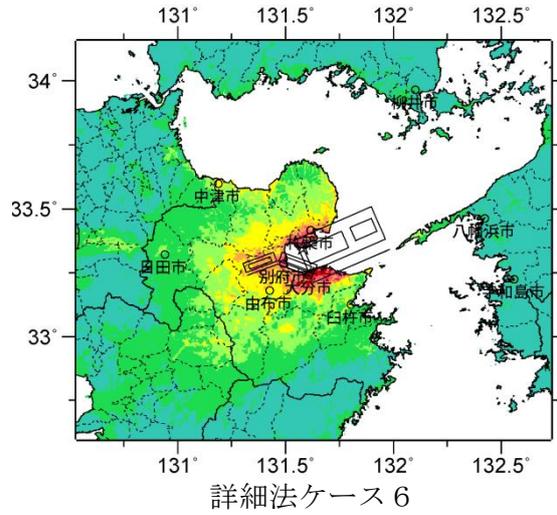
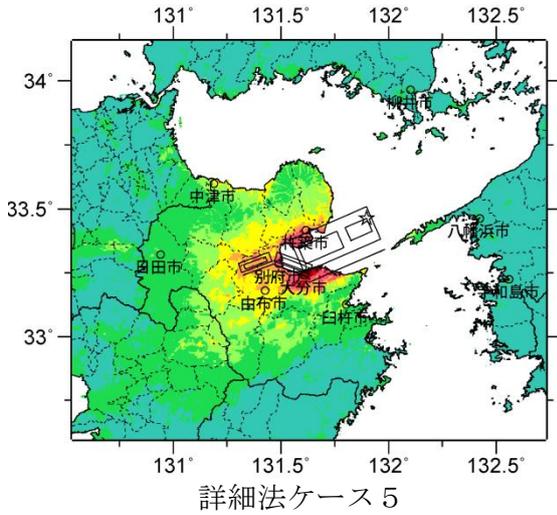
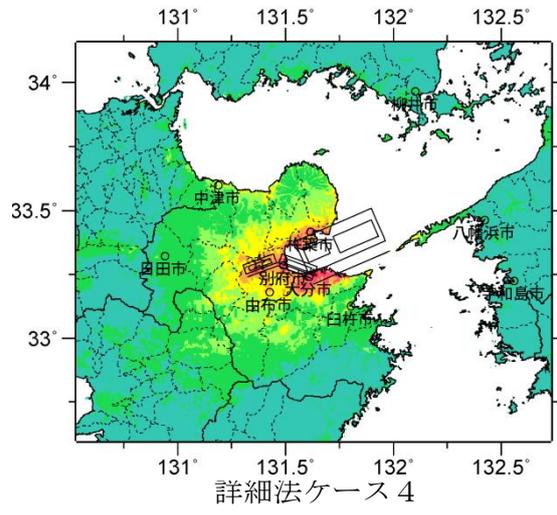
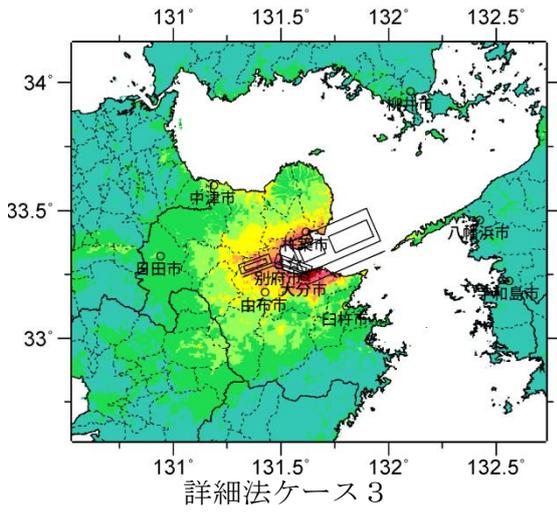
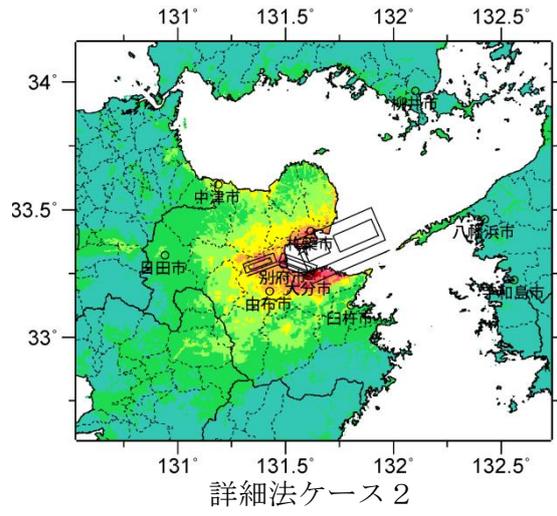
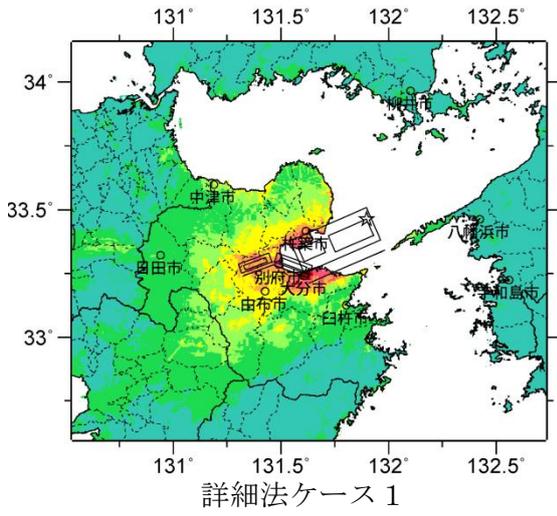
巨視的震源パラメータ		中角度						高角度		
断層長さ $L$ [km]		61						61		
地震規模 $M$		7.8						7.8		
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		4						4		
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15						15		
設定手順		(イ)			(イ)			(イ)		
地震モーメント $M_0$ [Nm]		7.18E+19			7.18E+19			7.18E+19		
モーメントマグニチュード $M_w$		7.2			7.2			7.2		
断層モデル総面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		1080			1080			792		
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		4.9			<b>3.1</b>			3.1		
平均すべり量 $D$ [m]		2.13			2.13			2.91		
セグメント										
走向 $\theta$ [度]		246.4	290.3	249.6	246.4	290.3	249.6	246.4	290.3	249.6
傾斜角 $\delta$ [度]		40	70	70	40	70	70	90	70	70
すべり角 $\epsilon$ [度]		180	-90	-90	180	-90	-90	180	-90	-90
断層モデル原点緯度 [°N]		33.3816	33.2456	33.2960	33.3816	33.2456	33.2960	33.3619	33.2456	33.2960
断層モデル原点経度 [°E]		131.9633	131.6304	131.4591	131.9633	131.6304	131.4591	131.9736	131.6304	131.4591
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		4	4	4	4	4	4	4	4	4
セグメント長さ $L_{model\ seg}$ [km]		36	16	14	36	16	14	36	16	14
セグメント幅 $W_{model\ seg}$ [km]		20	12	12	20	12	12	12	12	12
セグメント面積 $S_{model\ seg}$ [km <sup>2</sup> ]		720	192	168	720	192	168	432	192	168
セグメント地震モーメント $M_{0seg}$ [Nm]		5.75E+19	7.91E+18	6.48E+18	5.75E+19	7.91E+18	6.48E+18	4.67E+19	1.38E+19	1.13E+19
セグメント平均すべり量 $D_{seg}$ [m]		2.56	1.32	1.24	2.56	1.32	1.24	3.46	2.31	2.16
微視的震源パラメータ										
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.20E+19			1.78E+19			1.52E+19		
短周期レベル（参照） $A_{Dnn}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		2.20E+19			2.20E+19			2.20E+19		
全 ア ス ペ リ テ ィ	総面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	392.5			<b>237.6</b>			174.2		
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	13.6			14.1			14.1		
	面積 $S_{a\ seg}$ [km <sup>2</sup> ]	261.7	69.8	61.1	158.4	42.2	37.0	95.0	42.2	37.0
	すべり量 $D_{a\ seg}$ [m]	5.11	2.64	2.47	5.11	2.64	2.47	6.93	4.62	4.32
地震モーメント $M_{0a\ seg}$ [Nm]	4.18E+19	5.75E+18	4.71E+18	2.53E+19	3.48E+18	2.85E+18	2.05E+19	6.09E+18	4.98E+18	
ア ス ペ リ テ ィ 1	面積 $S_{a1\ seg}$ [km <sup>2</sup> ]	174.4	69.8	61.1	105.6	42.2	37.0	63.4	42.2	37.0
	実効応力 $\sigma_{a1\ seg}$ [MPa]	13.6	13.6	13.6	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1
	すべり量 $D_{a1\ seg}$ [m]	5.67	2.64	2.47	5.67	2.64	2.47	7.67	4.62	4.32
	地震モーメント $M_{0a1\ seg}$ [Nm]	3.09E+19	5.75E+18	4.71E+18	1.87E+19	3.48E+18	2.85E+18	1.52E+19	6.09E+18	4.98E+18
計算用面積 [km×km]	18 × 10	12 × 6	10 × 6	10 × 10	8 × 6	6 × 6	8 × 8	8 × 6	6 × 6	
ア ス ペ リ テ ィ 2	面積 $S_{a2\ seg}$ [km <sup>2</sup> ]	87.2	—	—	52.8	—	—	31.7	—	—
	実効応力 $\sigma_{a2\ seg}$ [MPa]	13.6	—	—	14.1	—	—	14.1	—	—
	すべり量 $D_{a2\ seg}$ [m]	4.01	—	—	4.01	—	—	5.43	—	—
	地震モーメント $M_{0a2\ seg}$ [Nm]	1.09E+19	—	—	6.60E+18	—	—	5.37E+18	—	—
計算用面積 [km×km]	10 × 8	—	—	8 × 6	—	—	8 × 4	—	—	
背 景 領 域	面積 $S_{b\ seg}$ [km <sup>2</sup> ]	458.3	122.2	106.9	561.6	149.8	131.0	337.0	149.8	131.0
	実効応力 $\sigma_{b\ seg}$ [MPa]	1.7	1.5	1.5	2.3	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5
	すべり量 $D_{b\ seg}$ [m]	1.10	0.57	0.53	1.84	0.95	0.89	2.49	1.66	1.55
	地震モーメント $M_{0b\ seg}$ [Nm]	1.57E+19	2.16E+18	1.77E+18	3.22E+19	4.43E+18	3.63E+18	2.61E+19	7.75E+18	6.34E+18

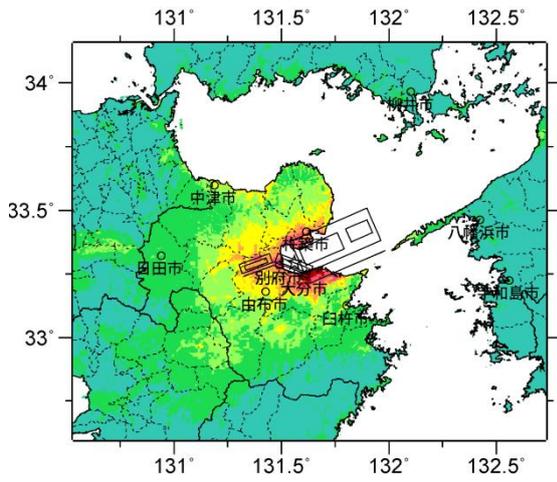
※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

中角度

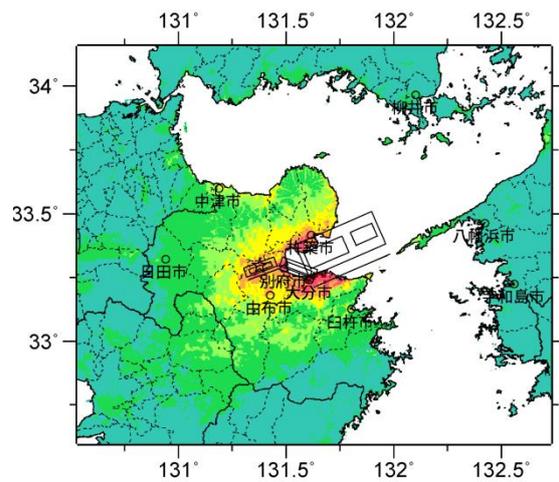


断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）

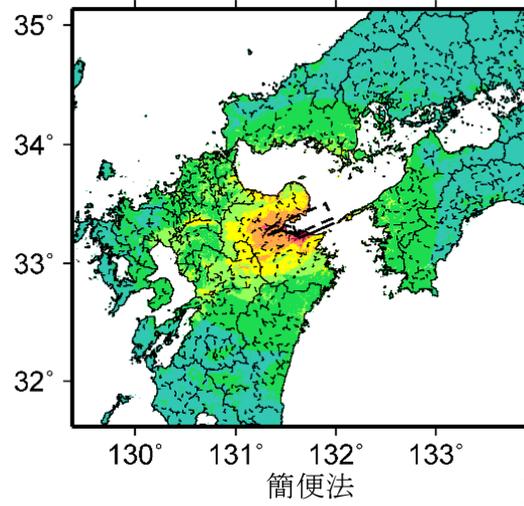




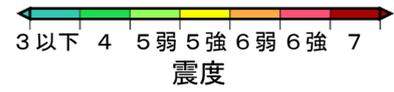
詳細法ケース 7



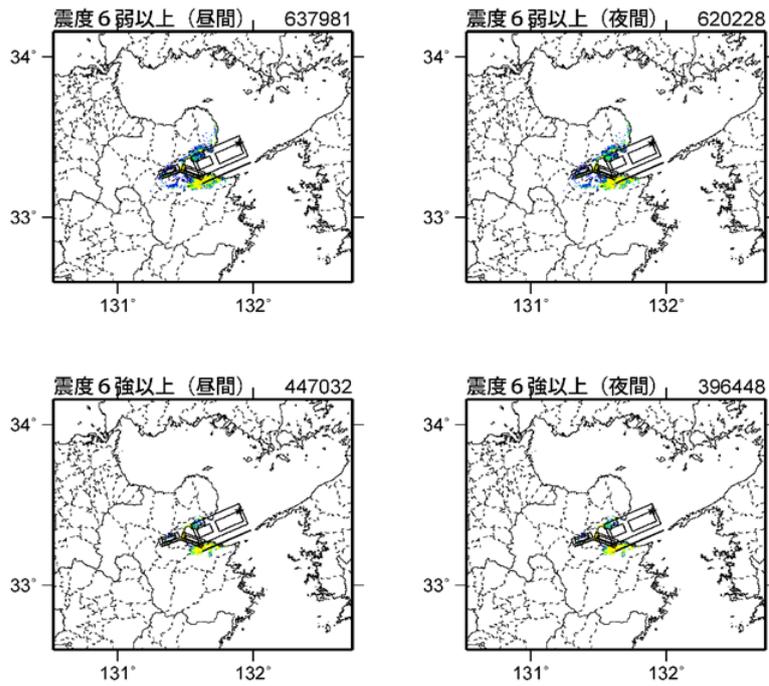
詳細法ケース 8



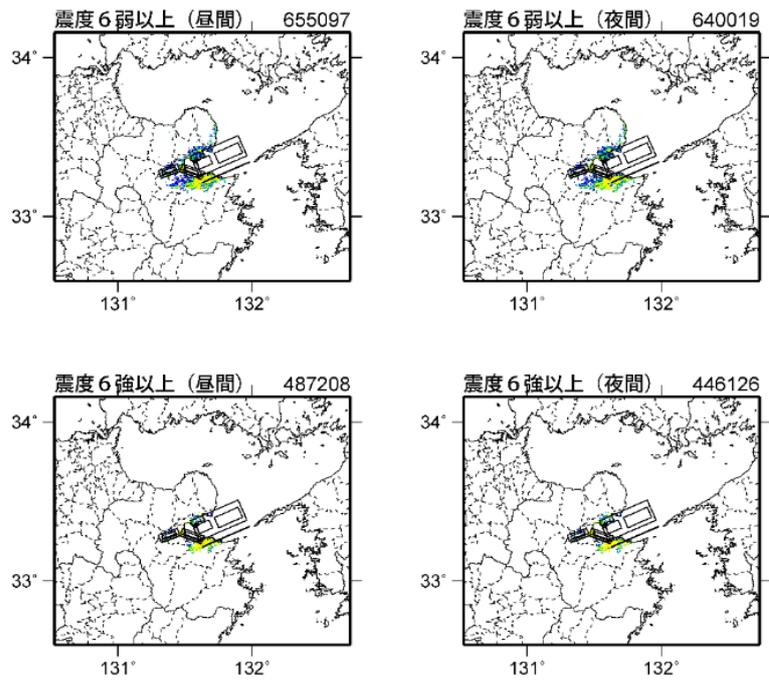
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

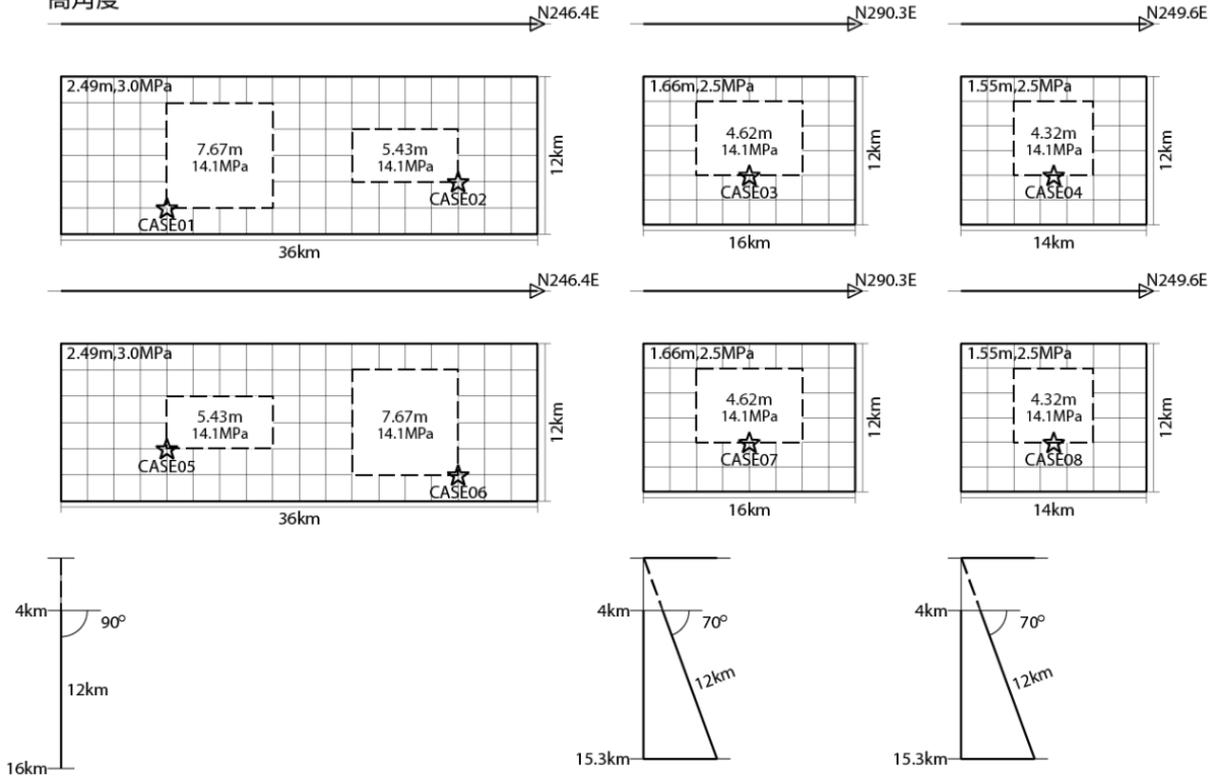


(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

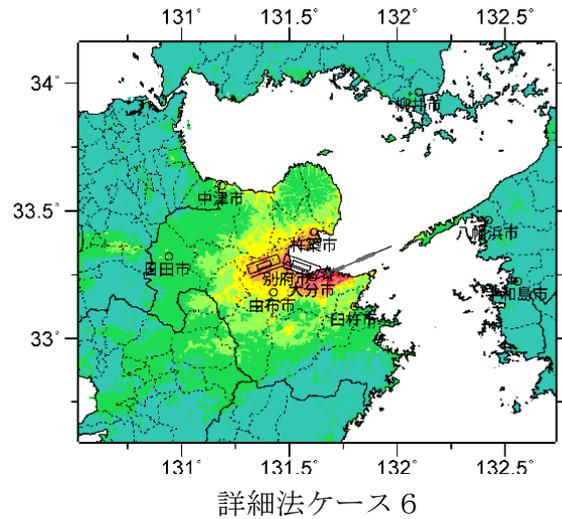
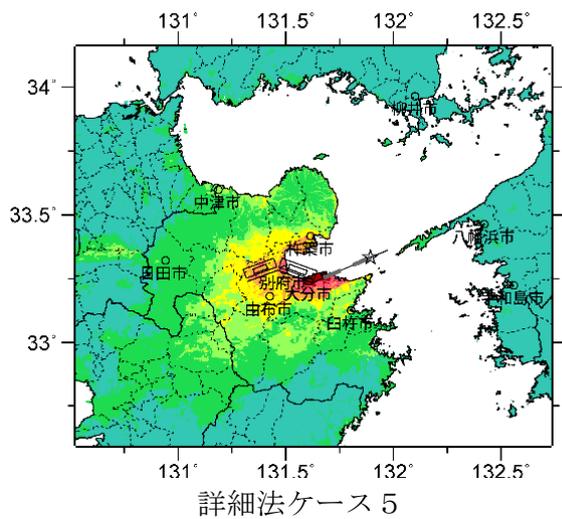
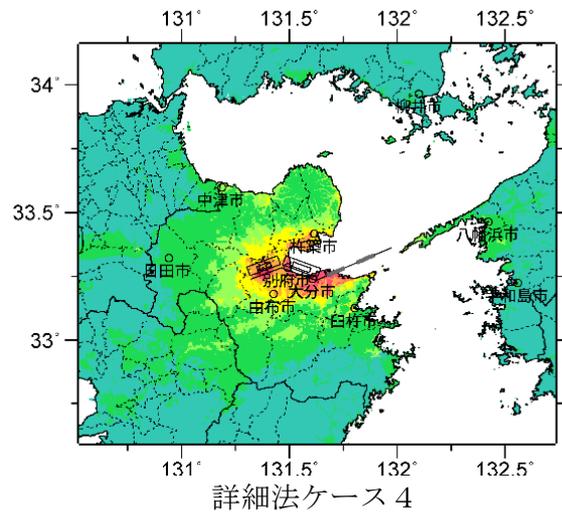
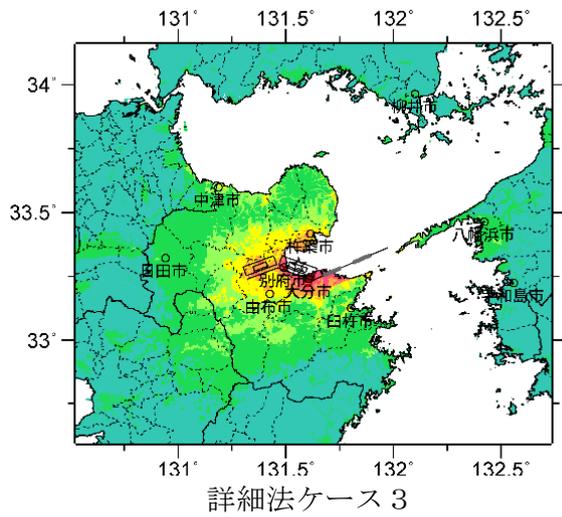
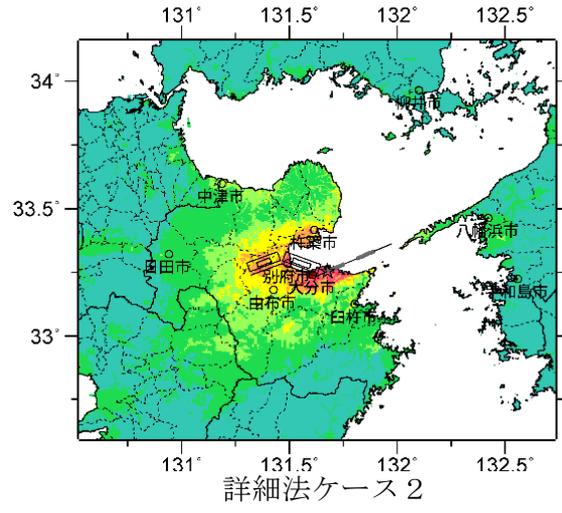
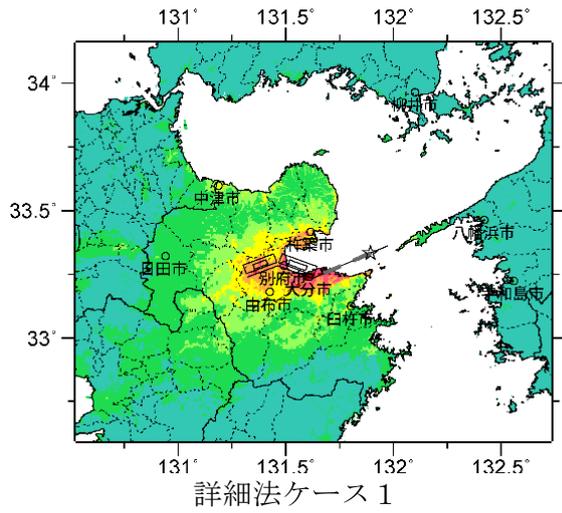
震度曝露人口分布の例

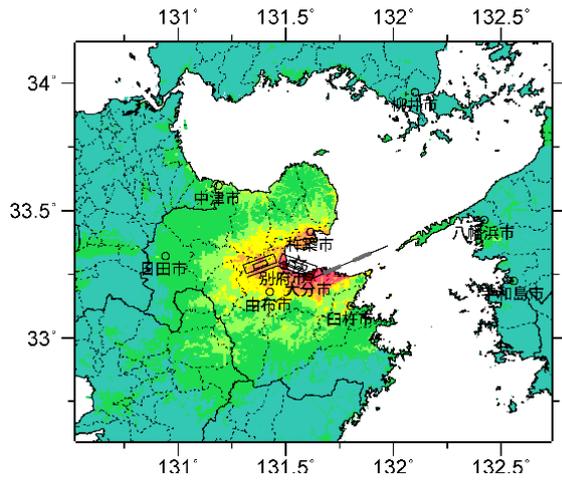
中央構造線断層帯豊予海峡—由布院区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

高角度

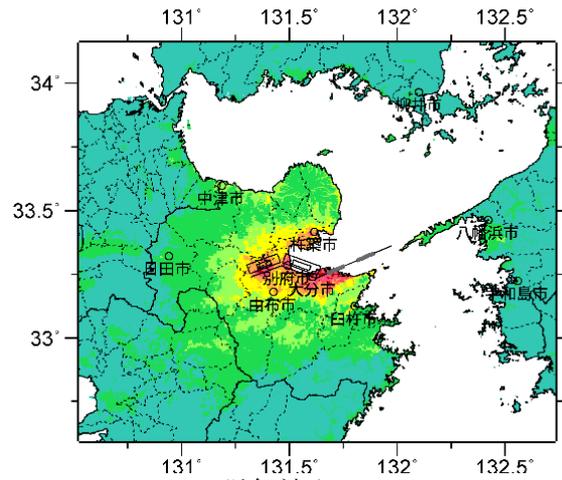


断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）

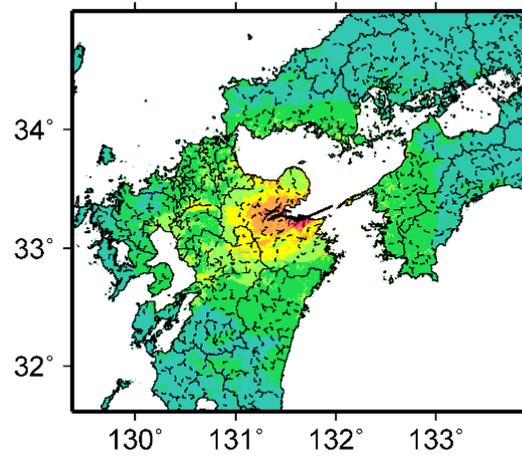




詳細法ケース7



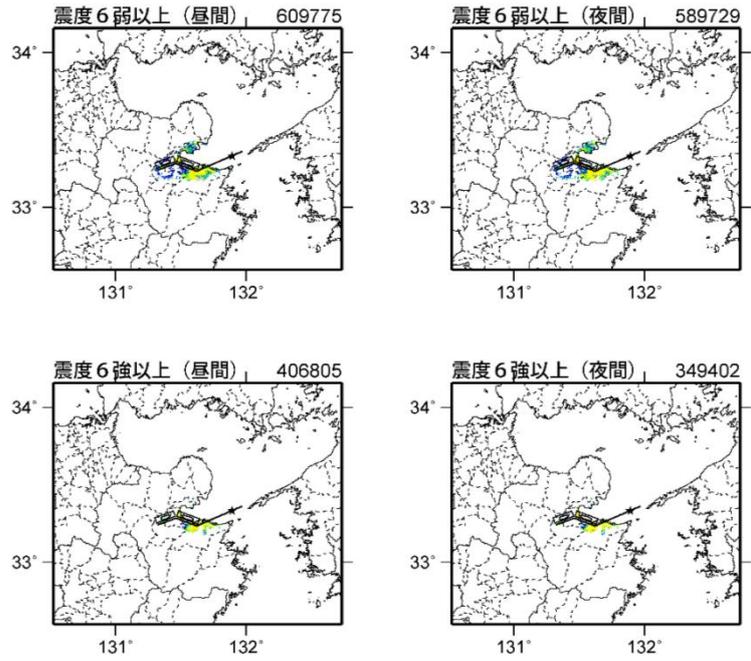
詳細法ケース8



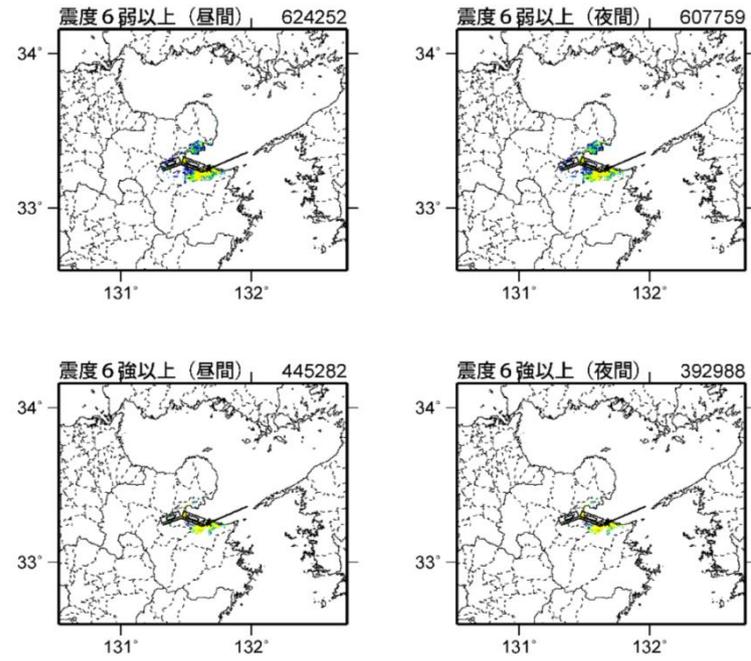
簡便法



地表震度分布



詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯豊予海峡—由布院区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

中央構造線断層帯 金剛山地東縁区間～豊予海峡～由布院区間

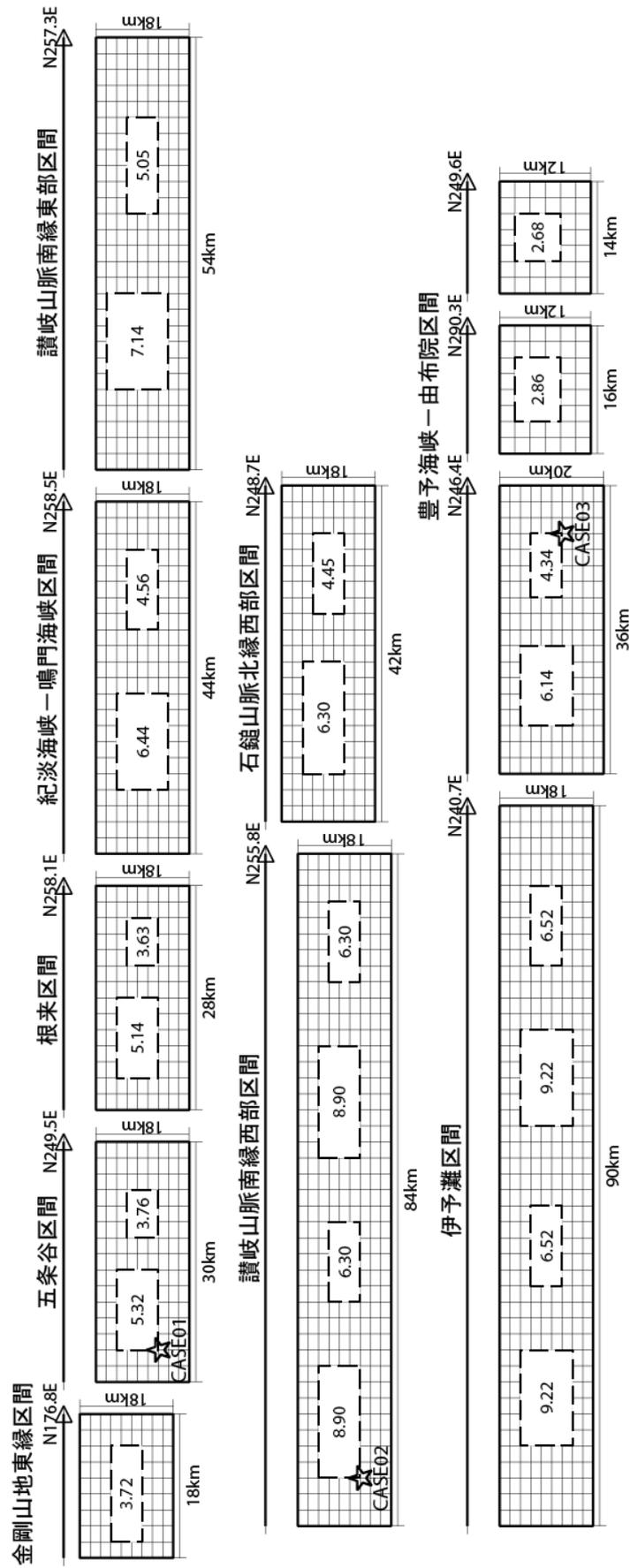
中央構造線断層帯 金剛山地東縁区間～豊予海峡～由布院区間の震源パラメータ

震源断層パラメータ	中央構造線												
	金剛		五条谷		根米		紀伊		讃岐東		讃岐西		豊予
断層長さ $L$ [km]	444												
地震規模 $M$	8.0程度以上												
設定手順	注のとおり												
モーメント $M_0$ [Nm]	8.10E+20												
断層モデル総面積 $S_{total}$ [km <sup>2</sup> ]	7.9												
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]	8100.0												
平均すべり量 $D$ [m]	3.1												
セグメント	3.20												
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
走向 $\theta$ [度]	176.8	249.5	238.1	238.5	257.3	253.8	248.7	240.7	246.4	240.7	246.4	290.3	249.6
傾斜角 $\delta$ [度]	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	70	70
すべり角 $\epsilon$ [度]	90	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	-90	-90
断層モデル原点緯度 $^{\circ}N$	34.5491	34.4101	34.3398	34.2886	34.2186	34.1255	33.9276	33.7935	33.3816	33.2456	33.2960	33.2960	33.2960
断層モデル原点経度 $^{\circ}E$	135.6597	135.6928	135.3973	135.0986	134.6423	134.0908	133.2345	132.7826	131.9633	131.6304	131.4591	131.4591	131.4591
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]	2	4	4	4	4	4	2	4	4	4	4	4	4
セグメント長さ $L_{seg}$ [km]	18	30	28	44	54	84	42	90	36	16	14	14	14
セグメント幅 $W_{seg}$ [km]	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	18.0	20.0	12.0	12.0	12.0	12.0
セグメント面積 $S_{seg}$ [km <sup>2</sup> ]	324.0	540.0	504.0	792.0	972.0	1512.0	756.0	1620.0	720.0	192.0	168.0	168.0	168.0
セグメント地震モーメント $M_{0seg}$ [Nm]	1.88E+19	4.05E+19	3.65E+19	7.19E+19	9.77E+19	1.90E+20	6.70E+19	2.10E+20	6.23E+19	8.58E+18	7.02E+18	8.58E+18	7.02E+18
セグメント平均すべり量 $D_{seg}$ [m]	1.86	2.40	2.32	2.91	3.22	4.02	2.84	4.16	2.77	1.43	1.34	1.43	1.34
微視的震源パラメータ													
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]	4.88E+19												
短周期レベル (参照) $A_{200}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]	4.94E+19												
全断層積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	1782.0												
実効応力 $\sigma_e$ [MPa]	14.1												
面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	71.3	118.8	110.9	174.2	213.8	332.6	166.3	356.4	158.4	42.2	37.0	42.2	37.0
すべり量 $D_{seg}$ [m]	3.72	4.80	4.64	5.81	6.44	8.03	5.68	8.32	5.54	2.86	2.68	2.86	2.68
地震モーメント $M_{0seg}$ [Nm]	8.27E+18	1.78E+19	1.61E+19	3.16E+19	4.30E+19	8.34E+19	2.95E+19	9.25E+19	2.74E+19	3.77E+18	3.09E+18	3.77E+18	3.09E+18
面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	71.3	79.2	73.9	116.2	142.6	110.9	110.9	118.8	105.6	42.2	37.0	42.2	37.0
すべり量 $D_{a1}$ [m]	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1
地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	3.72	5.32	5.14	6.44	7.14	8.90	6.30	9.22	6.14	2.86	2.68	2.86	2.68
地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	8.27E+18	1.32E+19	1.19E+19	2.34E+19	3.18E+19	3.08E+19	2.18E+19	3.42E+19	2.02E+19	3.77E+18	3.09E+18	3.77E+18	3.09E+18
計算面積 [km <sup>2</sup> ]	12 × 6	10 × 8	10 × 8	12 × 10	12 × 12	14 × 8	14 × 8	14 × 8	10 × 10	8 × 6	6 × 6	8 × 6	6 × 6
面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	—	39.6	37.0	58.1	71.3	55.4	55.4	59.4	52.8	—	—	—	—
すべり量 $D_{a2}$ [m]	—	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	—	—	—	—
地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	—	3.76	3.63	4.56	5.05	6.30	4.45	6.52	4.34	—	—	—	—
計算面積 [km <sup>2</sup> ]	—	4.65E+18	4.19E+18	8.26E+18	1.12E+19	1.09E+19	7.70E+18	1.21E+19	7.16E+18	—	—	—	—
面積 $S_{b1}$ [km <sup>2</sup> ]	—	6 × 6	6 × 6	10 × 6	12 × 6	10 × 6	10 × 6	10 × 6	8 × 6	—	—	—	—
すべり量 $D_{b1}$ [m]	—	2.2	2.2	2.7	3.0	2.7	2.7	2.8	2.3	—	—	—	—
地震モーメント $M_{0b1}$ [Nm]	—	1.72	1.66	2.09	2.31	2.88	2.04	2.98	1.99	—	—	—	—
計算面積 [km <sup>2</sup> ]	—	2.27E+19	2.04E+19	4.02E+19	5.47E+19	1.06E+20	3.75E+19	1.18E+20	3.49E+19	—	—	—	—
面積 $S_{b2}$ [km <sup>2</sup> ]	252.7	421.2	393.1	617.8	758.2	1179.4	589.7	1263.6	561.6	149.8	131.0	149.8	131.0
すべり量 $D_{b2}$ [m]	1.7	2.3	2.2	2.7	3.0	2.7	2.7	2.8	2.3	—	—	—	—
地震モーメント $M_{0b2}$ [Nm]	1.33	1.72	1.66	2.09	2.31	2.88	2.04	2.98	1.99	—	—	—	—
計算面積 [km <sup>2</sup> ]	—	2.27E+19	2.04E+19	4.02E+19	5.47E+19	1.06E+20	3.75E+19	1.18E+20	3.49E+19	—	—	—	—

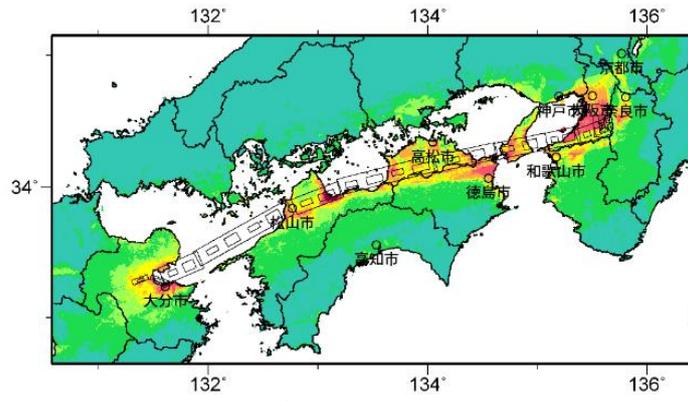
注：各評価単位区間について設定された震源断層の面積の総和より経験的關係式を用いて地震規模（モーメント）を設定した。詳細は付録1の4.1節を参照。  
讃岐山脈南縁西部区間の一部、石鎚山脈北縁西部区間の一部と並走する石鎚山脈北縁区間は除外

巨衝的震源パラメータ												
断層長さ $L$ [km]	高角度 444km											
地震規模 $M$	8.0程度以上											
設定手順	注のとおり											
地震モーメント $M_0$ [Nm]	5.91E+20											
モーメントマグニチュード $M_w$	7.8											
断層モデル総面積 $S_{total}$ [km <sup>2</sup> ]	5912.0											
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]	3.1											
平均すべり量 $D$ [m]	3.20											
地震発生層上縁深さ $H_s$ [km]	金剛	五ヶ峯	根菜	紅渡	讃岐東	讃岐西	石鎚西	伊予灘	豊予			
地震発生層下縁深さ $H_d$ [km]	2	4	4	4	4	4	2	4	4			
志向角 $\delta$ [度]	15	15	15	15	15	15	15	15	15			
すべり向き [度]	40	90	90	90	90	90	90	90	90			
断層モデル原点緯度 [°N]	34.5491	34.3962	34.3015	34.2483	34.1786	34.0860	33.9342	33.7792	33.3619	33.2456	33.2960	249.6
断層モデル端点緯度 [°E]	135.6597	135.7222	135.4292	135.1195	134.6643	134.1140	133.4399	132.8046	131.9736	131.6304	131.4591	249.6
断層モデル上縁深さ $D_{top}$ [km]	2	4	4	4	4	4	2	4	4			
セグメント長さ $L_{seg}$ [km]	18	34	32	46	56	86	46	92	36	16	14	70
セグメント幅 $W_{seg}$ [km]	18.0	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0	14.0	12.0	12.0	12.0	12.0	70
セグメント面積 $S_{seg}$ [km <sup>2</sup> ]	324.0	408.0	384.0	552.0	672.0	1032.0	644.0	1104.0	432.0	192.0	168.0	249.6
セグメント地震モーメント $M_{0seg}$ [Nm]	2.27E+19	3.21E+19	2.93E+19	5.04E+19	6.78E+19	1.29E+20	6.36E+19	1.43E+20	3.49E+19	1.03E+19	8.47E+18	249.6
セグメント平均すべり量 $D_{seg}$ [m]	2.24	2.52	2.44	2.93	3.23	4.00	3.16	4.14	2.59	1.73	1.62	249.6
巨衝的震源パラメータ												
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>3</sup> ]	4.16E+19											
短周期レベル (参照) $A_{ban}$ [Nm/s <sup>3</sup> ]	4.45E+19											
全総面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	1300.6											
実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.1											
面積 $S_{a,seg}$ [km <sup>2</sup> ]	71.3	89.8	84.5	121.4	147.8	227.0	141.7	242.9	95.0	42.2	37.0	37.0
すべり量 $D_{a,seg}$ [m]	4.49	5.03	4.88	5.86	6.46	8.01	6.33	8.28	5.18	3.45	3.23	3.23
地震モーメント $M_{0a,seg}$ [Nm]	9.98E+18	1.41E+19	1.29E+19	2.22E+19	2.98E+19	5.67E+19	2.80E+19	6.28E+19	1.54E+19	4.55E+18	3.73E+18	3.73E+18
面積 $S_{a1,seg}$ [km <sup>2</sup> ]	71.3	59.8	56.3	81.0	98.6	75.7	94.5	81.0	63.4	42.2	37.0	37.0
実効応力 $\sigma_{a1,seg}$ [MPa]	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1
すべり量 $D_{a1,seg}$ [m]	4.49	5.58	5.41	6.49	7.16	8.87	7.01	9.18	5.74	3.45	3.23	3.23
地震モーメント $M_{0a1,seg}$ [Nm]	9.98E+18	1.04E+19	9.52E+18	1.64E+19	2.20E+19	2.10E+19	2.07E+19	2.32E+19	1.14E+19	4.55E+18	3.73E+18	3.73E+18
計算用面積 [km <sup>2</sup> ]	12 × 6	10 × 6	10 × 6	10 × 8	10 × 10	12 × 6	12 × 8	10 × 8	8 × 8	8 × 6	6 × 6	6 × 6
面積 $S_{a2,seg}$ [km <sup>2</sup> ]	—	29.9	28.2	40.5	49.3	37.8	47.2	40.5	31.7	—	—	—
実効応力 $\sigma_{a2,seg}$ [MPa]	—	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	14.1	—	—	—
すべり量 $D_{a2,seg}$ [m]	—	3.95	3.83	4.59	5.06	6.27	4.96	6.49	4.06	—	—	—
地震モーメント $M_{0a2,seg}$ [Nm]	—	3.68E+18	3.36E+18	5.80E+18	7.79E+18	7.41E+18	7.31E+18	8.20E+18	4.01E+18	—	—	—
計算用面積 [km <sup>2</sup> ]	—	8 × 4	8 × 4	6 × 6	8 × 6	6 × 6	8 × 6	6 × 6	8 × 4	—	—	—
面積 $S_{b,seg}$ [km <sup>2</sup> ]	252.7	318.2	299.5	430.6	524.2	805.0	502.3	861.1	337.0	149.8	131.0	131.0
実効応力 $\sigma_{b,seg}$ [MPa]	1.7	2.9	2.9	3.4	3.8	3.3	3.2	3.4	3.0	2.5	2.5	2.5
すべり量 $D_{b,seg}$ [m]	1.61	1.81	1.75	2.10	2.32	2.87	2.27	2.97	1.86	1.24	1.16	1.16
地震モーメント $M_{0b,seg}$ [Nm]	1.27E+19	1.80E+19	1.64E+19	2.83E+19	3.79E+19	7.22E+19	3.56E+19	7.99E+19	1.96E+19	5.80E+18	4.74E+18	4.74E+18

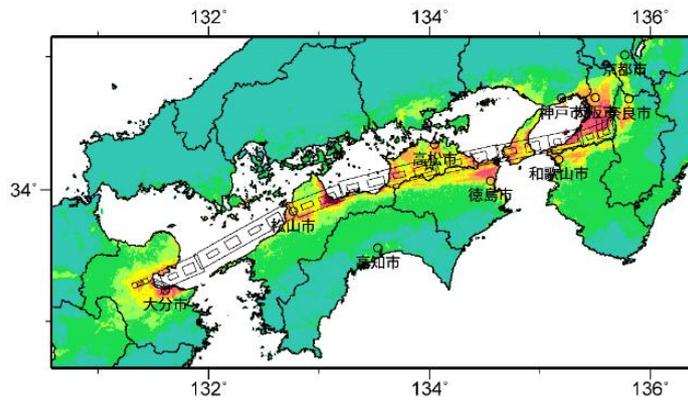
注：各評価単位区間について設定された震源断層の面積の総和より経験的關係式を用いて地震規模（モーメント）を設定した。詳細は付録1の4.1節を参照。  
讃岐山脈南縁西部区間の一部、石鎚山脈北縁西部区間の一部と並走する石鎚山脈北縁区間は除外



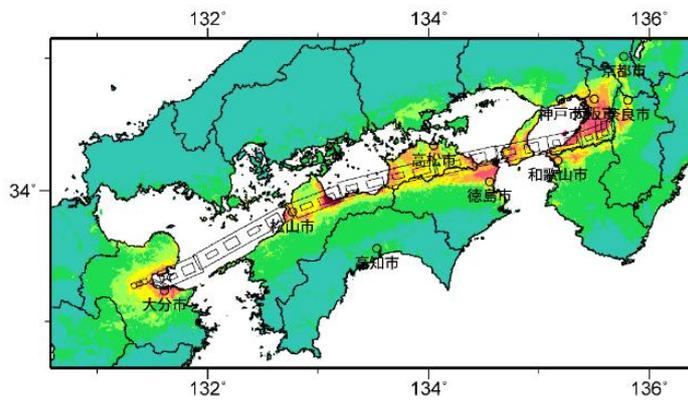
断層モデル (アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図)



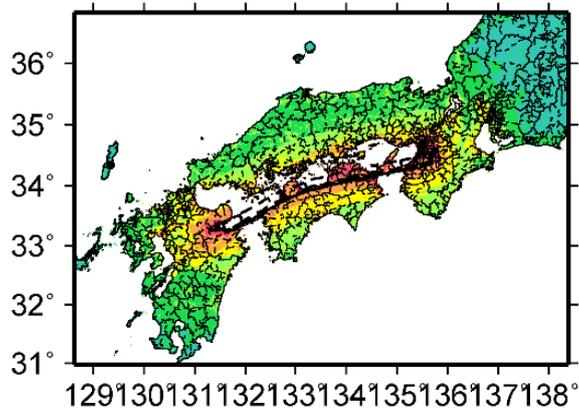
詳細法ケース 1



詳細法ケース 2

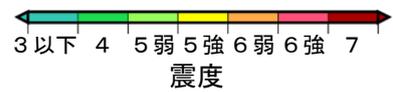


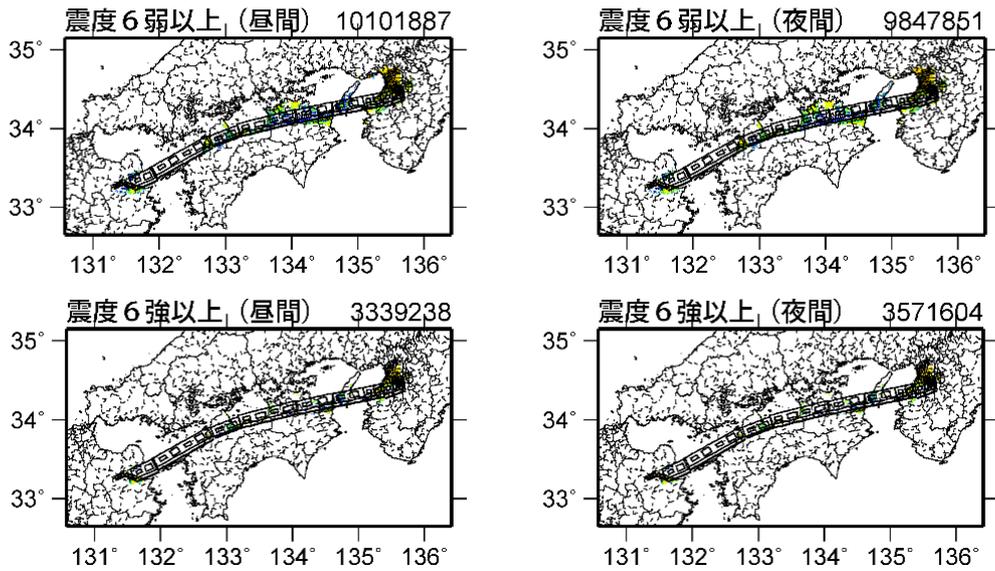
詳細法ケース 3



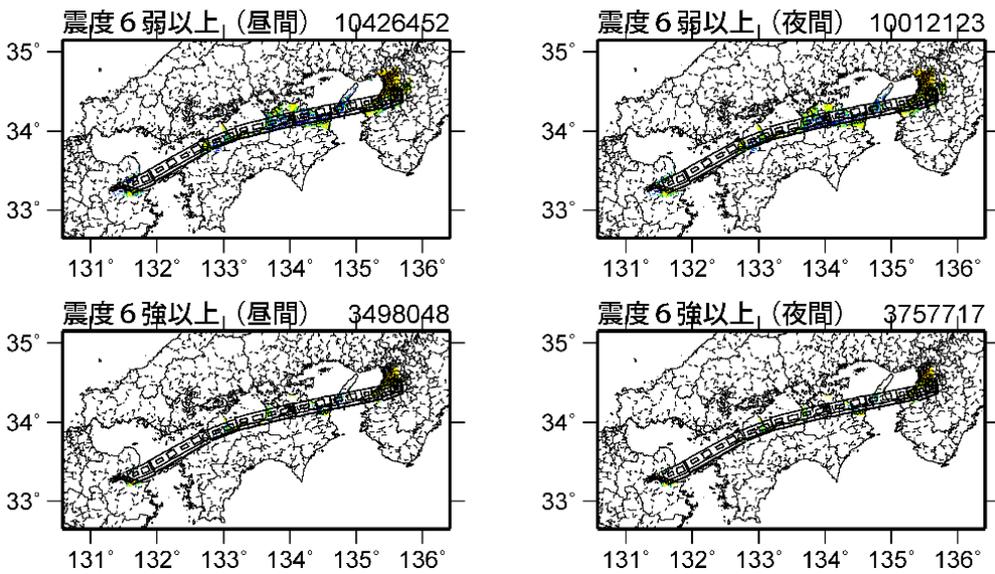
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



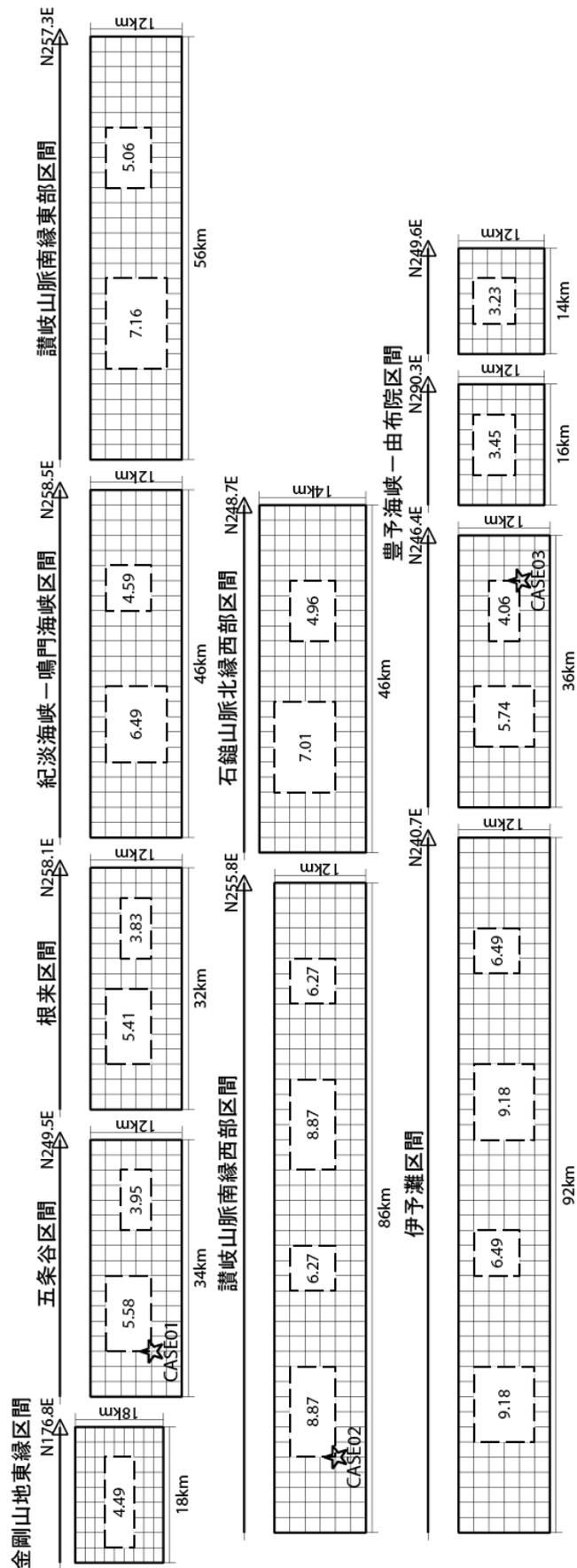
詳細法ケース 2



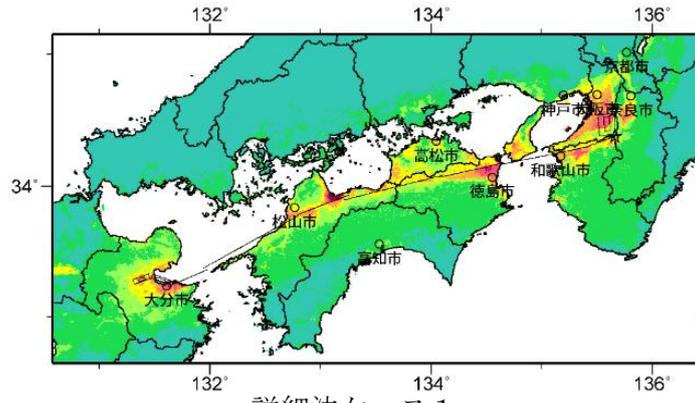
(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

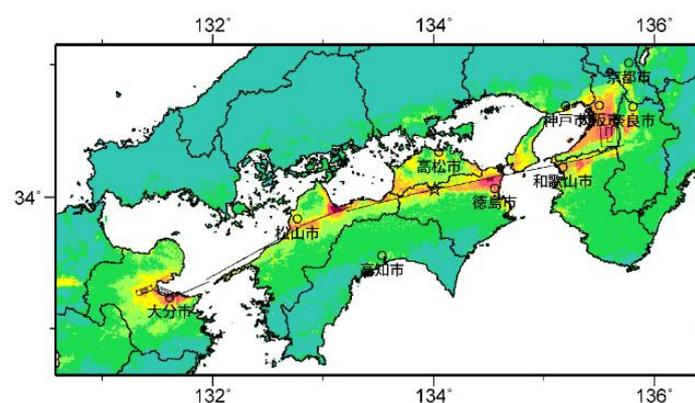
中央構造線断層帯 金剛山地東縁区間～豊予海峡～由布院区間【中角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)



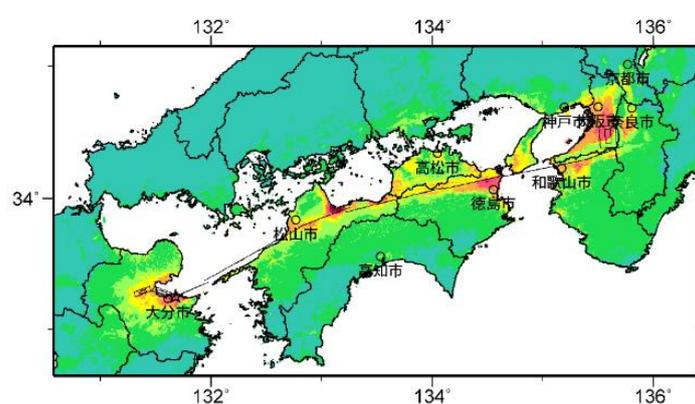
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



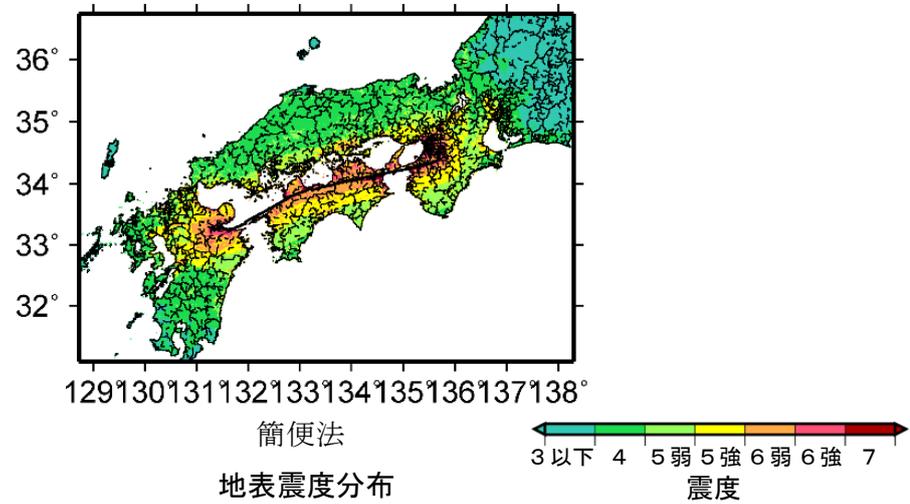
詳細法ケース 1



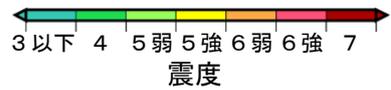
詳細法ケース 2

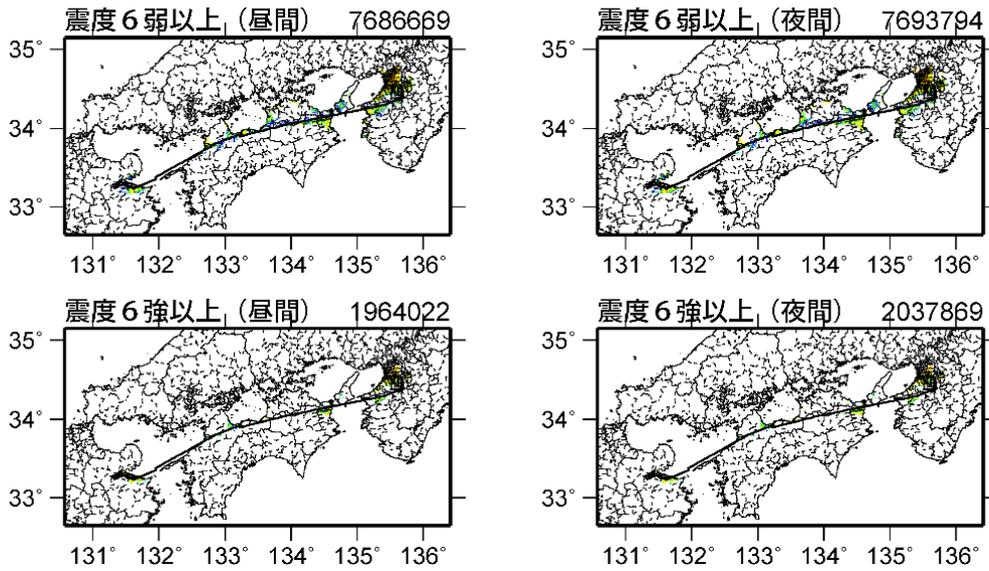


詳細法ケース 3

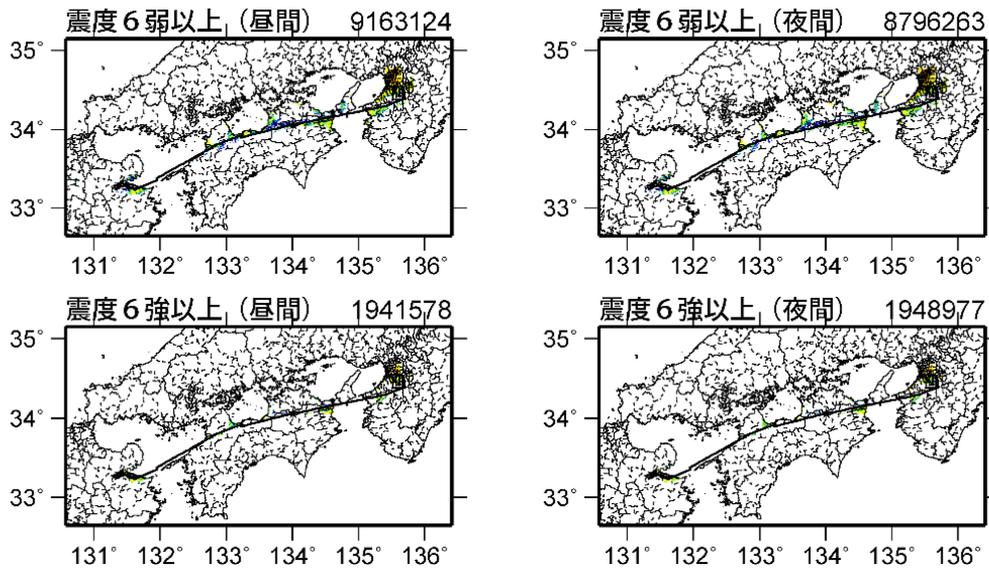


簡便法  
地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

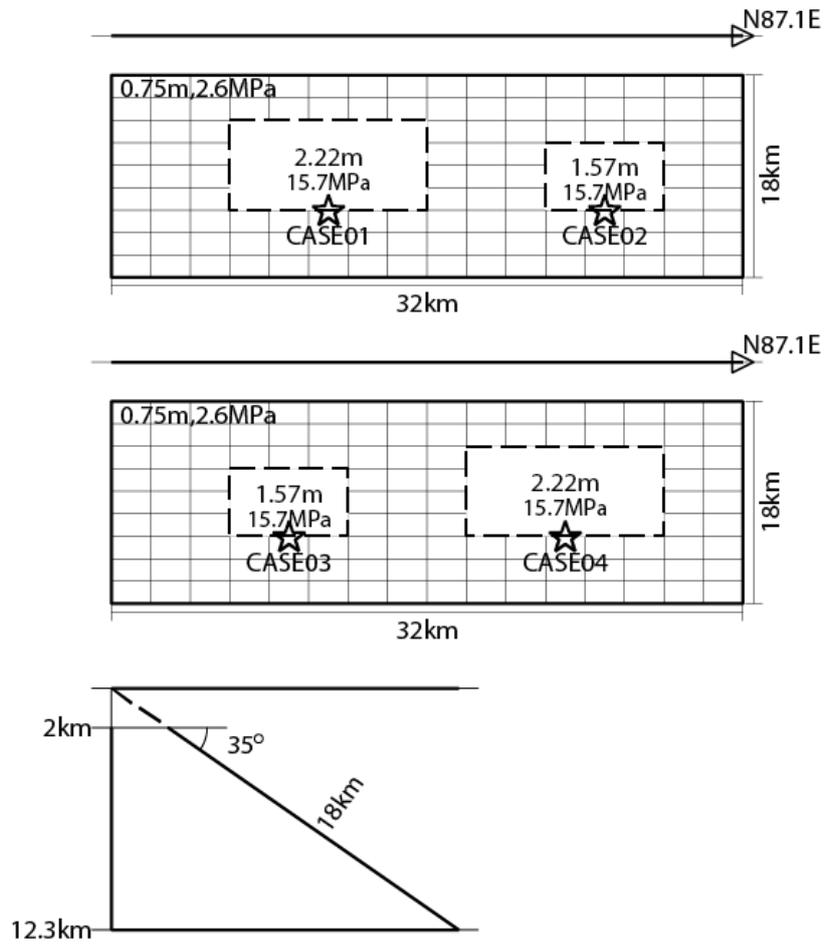
震度曝露人口分布の例

中央構造線断層帯 金剛山地東縁区間～豊予海峡～由布院区間【高角度】  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

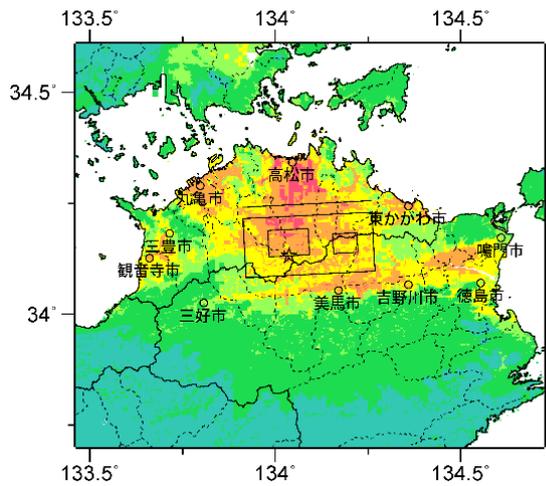
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）  
長尾断層帯

長尾断層帯（F022131）の震源パラメータ

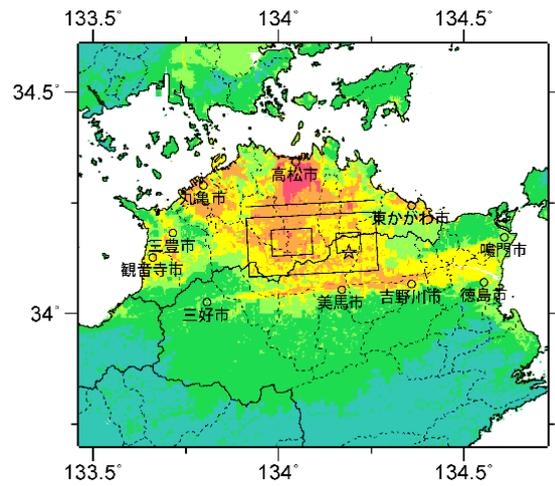
巨視的震源パラメータ		
断層長さ $L$ [km]		30
地震規模 $M$		7.3
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15
設定手順		(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.80E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		6.8
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		576
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		3.2
平均すべり量 $D$ [m]		1.00
走向 $\theta$ [度]		87.1
傾斜角 $\delta$ [度]		35
すべり角 $\lambda$ [度]		90
断層モデル原点緯度 [°N]		34.2156
断層モデル原点経度 [°E]		133.9131
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		2
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		32
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		18
微視的震源パラメータ		
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.39E+19
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.39E+19
全 ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	116.3
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	15.7
	すべり量 $D_a$ [m]	2.00
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	7.27E+18
ア ス ペ リ テ ィ 1	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	77.5
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	15.7
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	2.22
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	5.37E+18
	計算用面積 [km×km]	10 × 8
ア ス ペ リ テ ィ 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	38.8
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	15.7
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	1.57
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	1.90E+18
	計算用面積 [km×km]	6 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	459.7
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.6
	すべり量 $D_b$ [m]	0.75
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	1.07E+19



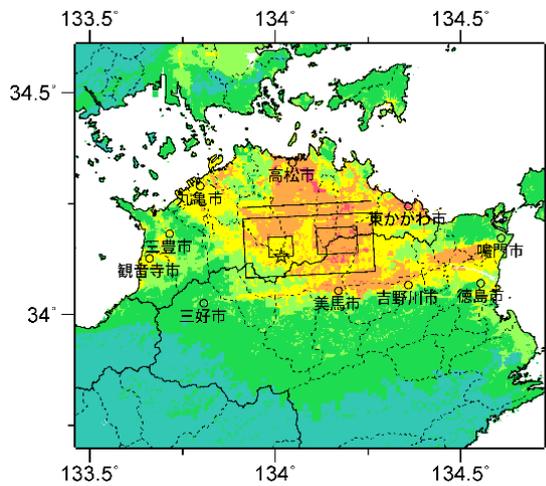
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



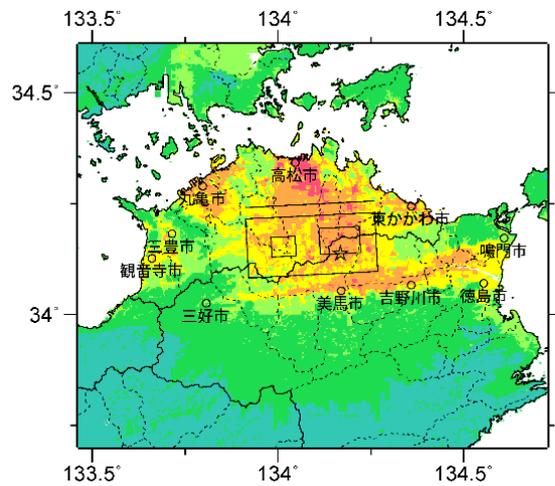
詳細法ケース 1



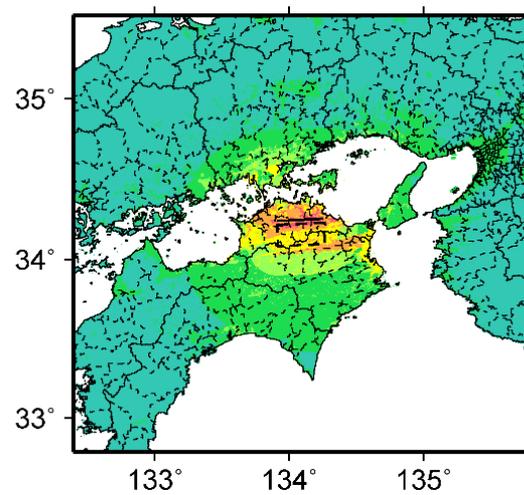
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

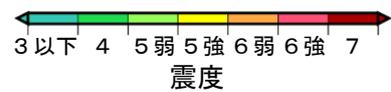


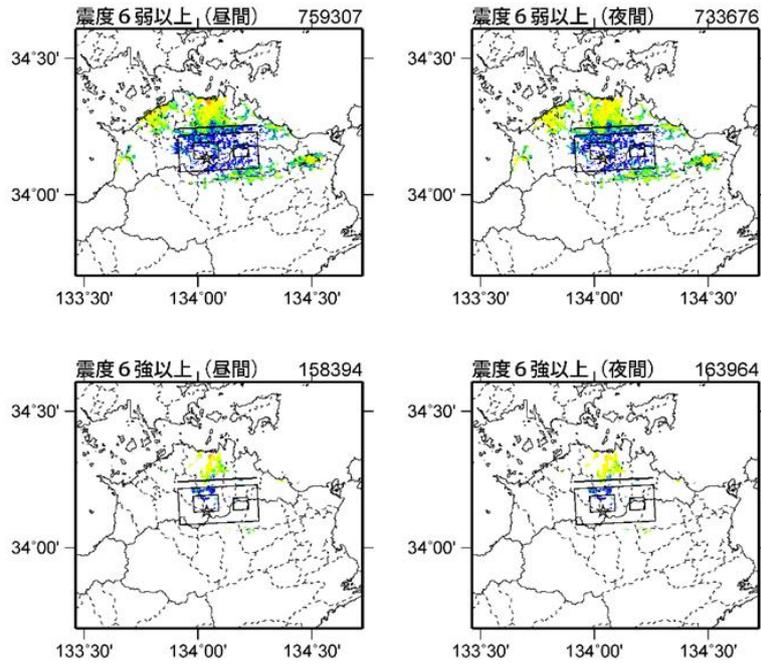
詳細法ケース 4



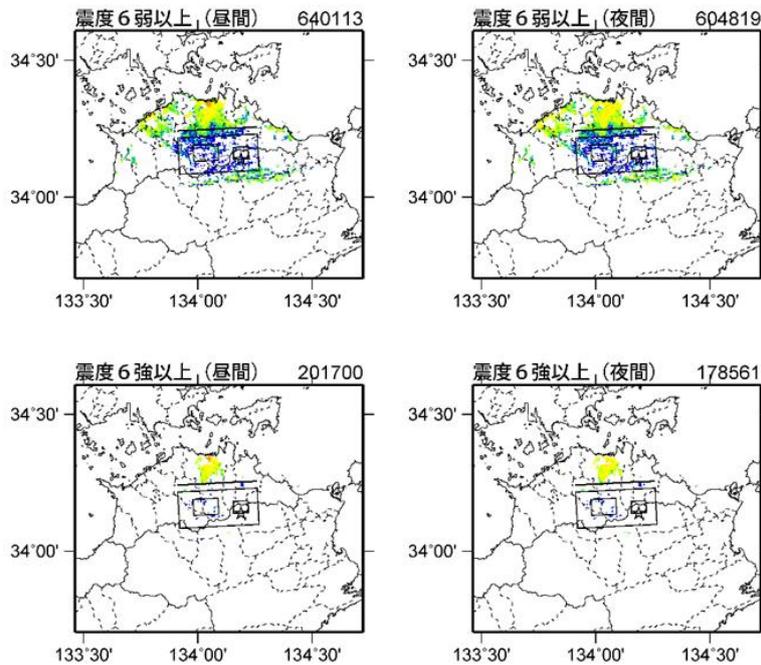
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

長尾断層帯  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

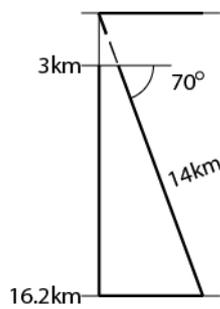
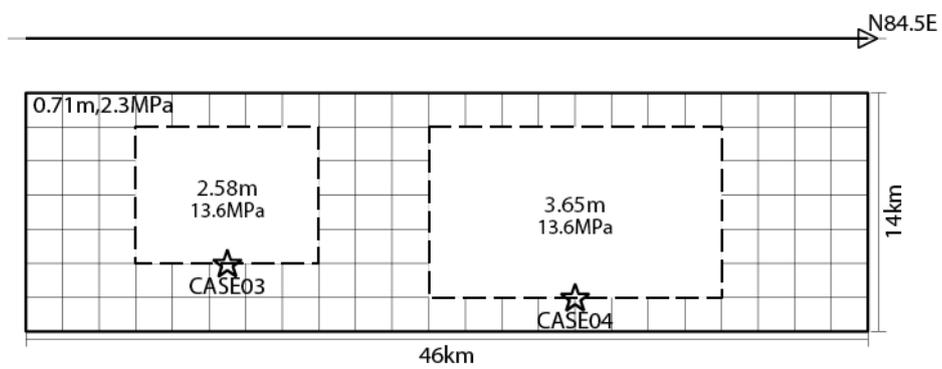
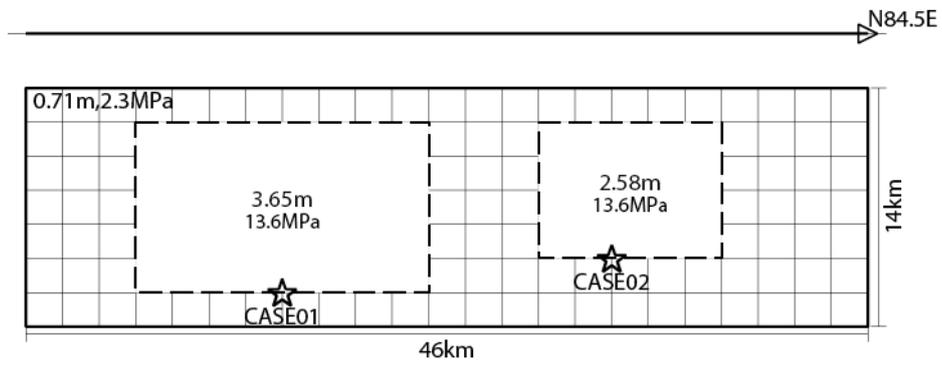
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）

日出生断層帯

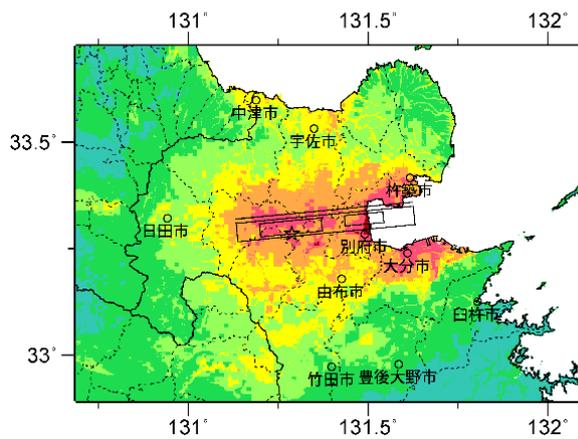
日出生断層帯（F021711）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ			
断層長さ $L$ [km]		41	
地震規模 $M$		7.5	
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		3	
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15	
	設定手順	(イ)	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		3.31E+19	3.31E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		6.9	6.9
断層モデル面積 $S_{model}$ [km <sup>2</sup> ]		644	644
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		4.9	<b>3.1</b>
平均すべり量 $D$ [m]		1.65	1.65
走向 $\theta$ [度]		84.5	84.5
傾斜角 $\delta$ [度]		70	70
すべり角 $\lambda$ [度]		-90	-90
断層モデル原点緯度 [°N]		33.3098	33.3098
断層モデル原点経度 [°E]		131.1335	131.1335
断層モデル上端深さ $D_{top}$ [km]		3	3
断層モデル長さ $L_{model}$ [km]		46	46
断層モデル幅 $W_{model}$ [km]		14	14
微視的震源パラメータ			
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.70E+19	1.37E+19
短周期レベル（参照） $A_{Dan}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.70E+19	1.70E+19
全 ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	234.3	<b>141.7</b>
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	13.6	14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	3.29	3.29
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	2.41E+19	1.46E+19
ア ス ペ リ テ ィ 1	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	156.2	94.5
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	13.6	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	3.65	3.65
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	1.78E+19	1.08E+19
	計算用面積 [km×km]	16 × 10	12 × 8
ア ス ペ リ テ ィ 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	78.1	47.2
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	13.6	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	2.58	2.58
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	6.29E+18	3.81E+18
	計算用面積 [km×km]	10 × 8	8 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	409.7	502.3
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.3	3.2
	すべり量 $D_b$ [m]	0.71	1.18
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	9.02E+18	1.85E+19

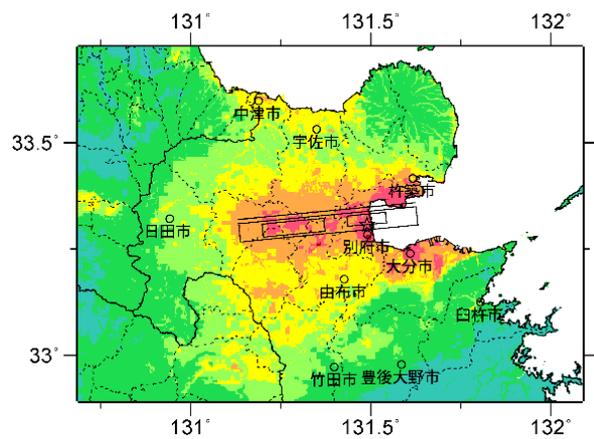
※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。



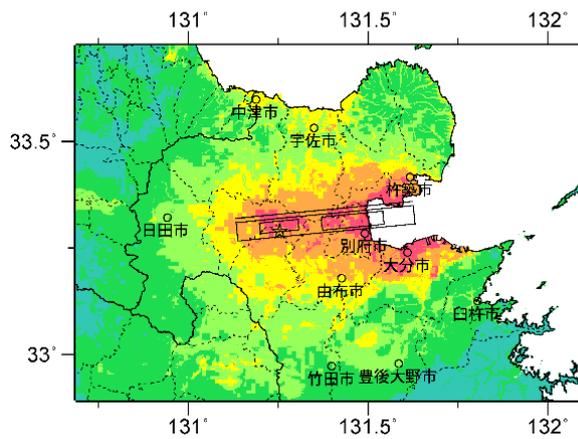
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



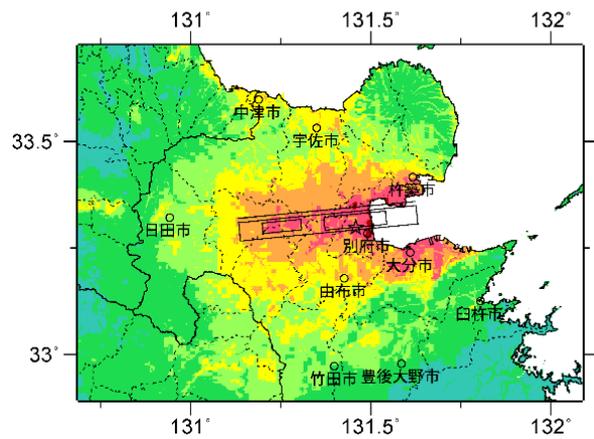
詳細法ケース 1



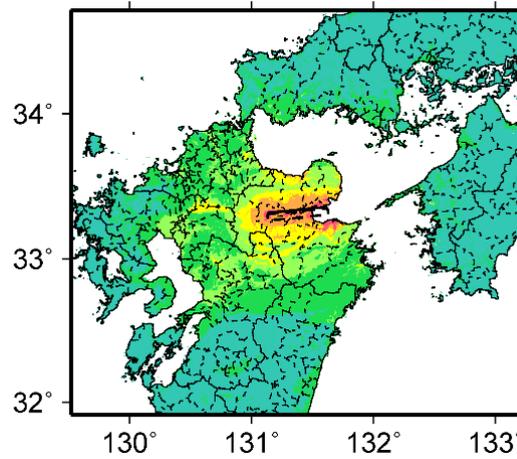
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

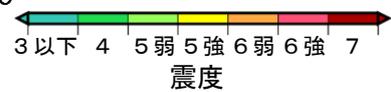


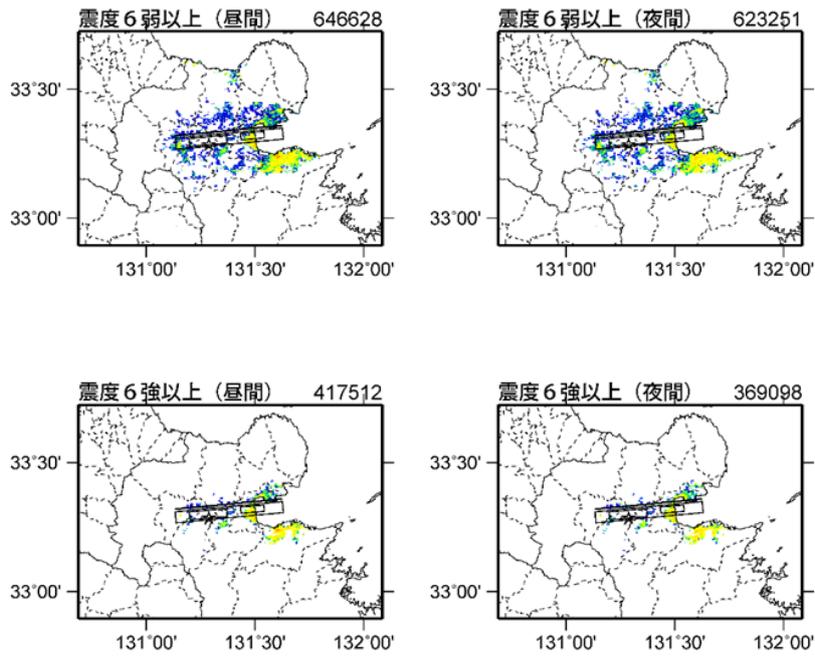
詳細法ケース 4



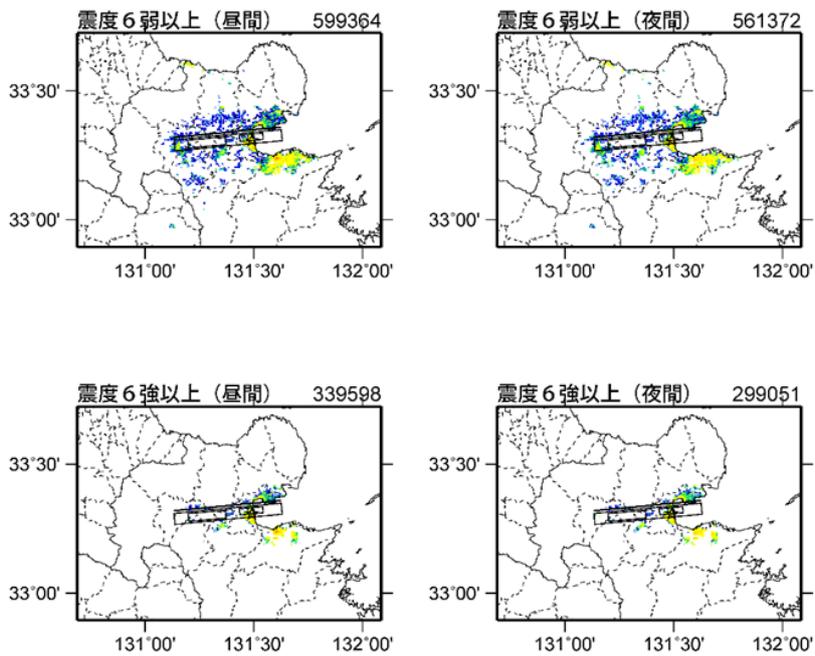
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

日出生断層帯  
震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

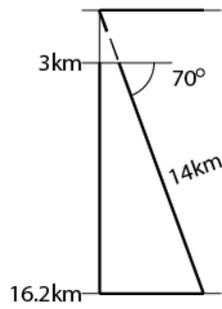
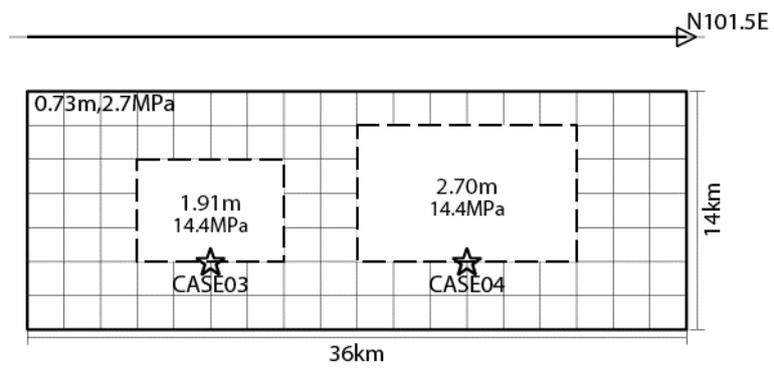
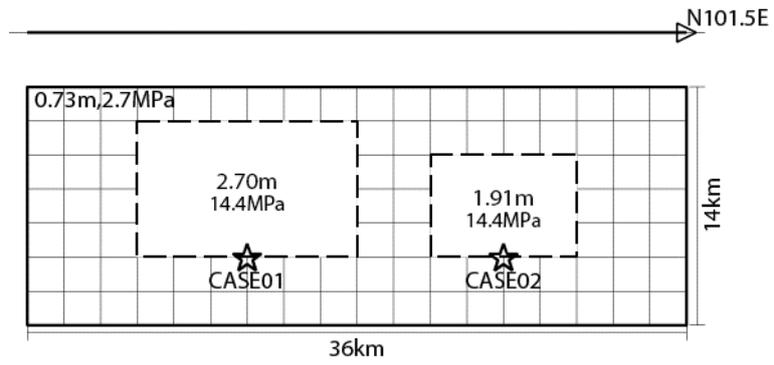
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）  
 万年山－崩平山断層帯

万年山－崩平山断層帯（F021811）の震源パラメータ

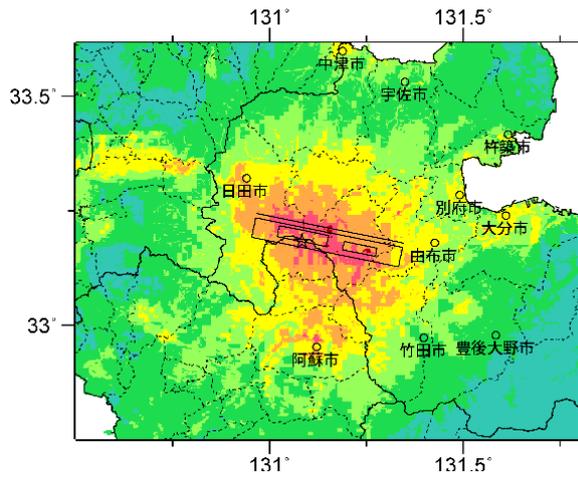
巨視的震源パラメータ			
断層長さ $L$ [km]		31	
地震規模 $M$		7.3	
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]		3	
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]		15	
	設定手順	(イ)	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]		1.92E+19	1.92E+19
モーメントマグニチュード $M_w$		6.8	6.8
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]		504	504
静的応力降下量 $\Delta\sigma$ [MPa]		4.1	3.1
平均すべり量 $D$ [m]		1.22	1.22
走向 $\theta$ [度]		101.5	101.5
傾斜角 $\delta$ [度]		70	70
すべり角 $\lambda$ [度]		-90	-90
断層モデル原点緯度 [°N]		33.2346	33.2346
断層モデル原点経度 [°E]		130.9644	130.9644
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]		3	3
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]		36	36
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]		14	14
微視的震源パラメータ			
短周期レベル $A$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.42E+19	1.22E+19
短周期レベル（参照） $A_{\text{Dan}}$ [Nm/s <sup>2</sup> ]		1.42E+19	1.42E+19
全 リ ア ス ペ ク ト 比 1	面積 $S_a$ [km <sup>2</sup> ]	144.7	110.9
	実効応力 $\sigma_a$ [MPa]	14.4	14.1
	すべり量 $D_a$ [m]	2.44	2.44
	地震モーメント $M_{0a}$ [Nm]	1.10E+19	8.45E+18
ア ス ペ リ テ ィ	面積 $S_{a1}$ [km <sup>2</sup> ]	96.5	73.9
	実効応力 $\sigma_{a1}$ [MPa]	14.4	14.1
	すべり量 $D_{a1}$ [m]	2.70	2.70
	地震モーメント $M_{0a1}$ [Nm]	8.14E+18	6.24E+18
	計算用面積 [km×km]	12 × 8	12 × 6
ア ス ペ ク ト 比 2	面積 $S_{a2}$ [km <sup>2</sup> ]	48.2	37.0
	実効応力 $\sigma_{a2}$ [MPa]	14.4	14.1
	すべり量 $D_{a2}$ [m]	1.91	1.91
	地震モーメント $M_{0a2}$ [Nm]	2.88E+18	2.21E+18
	計算用面積 [km×km]	8 × 6	6 × 6
背 景 領 域	面積 $S_b$ [km <sup>2</sup> ]	359.3	393.1
	実効応力 $\sigma_b$ [MPa]	2.7	2.8
	すべり量 $D_b$ [m]	0.73	0.88
	地震モーメント $M_{0b}$ [Nm]	8.17E+18	1.07E+19

※赤字：アスペクト比が 2 を超えたことにより平均応力降下量 3.1MPa、アスペリティ面積が断層面積の 22%を仮定したモデル。このモデルは震源パラメータを示すのみであり、断層モデル図および地表震度分布図は扱わない。

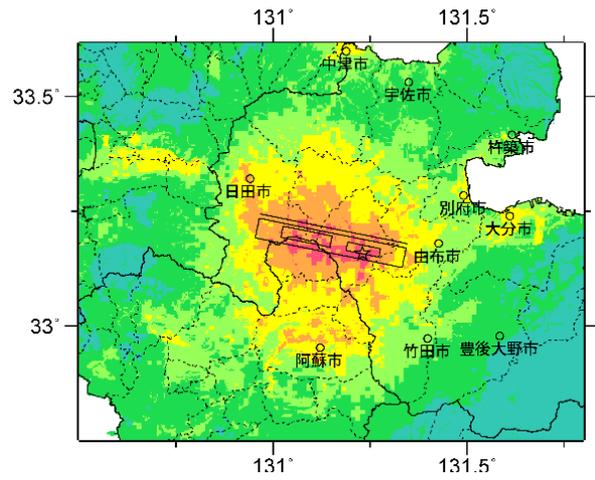
青字：地震発生層下限深さは従来の別府－万年山断層帯の設定を踏襲。



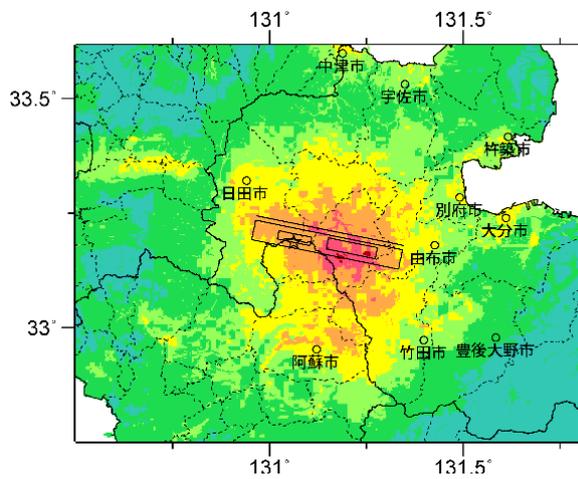
断層モデル（アスペリティと破壊開始点の配置図・傾斜方向断面図）



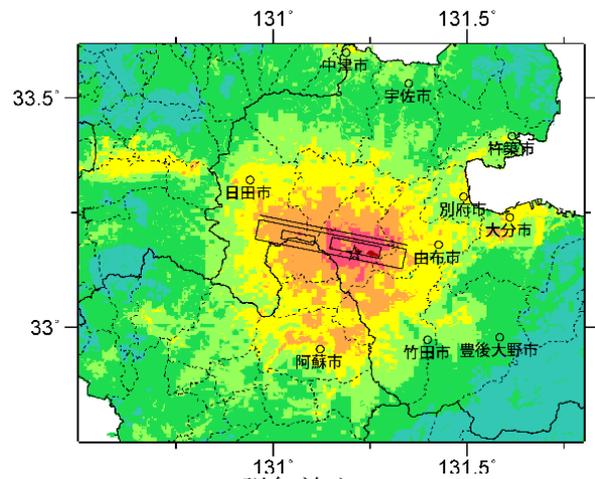
詳細法ケース 1



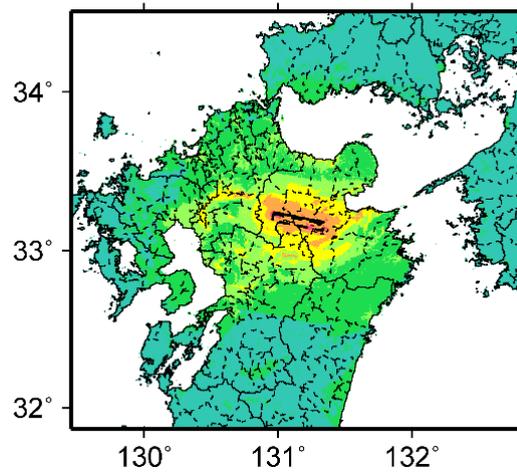
詳細法ケース 2



詳細法ケース 3

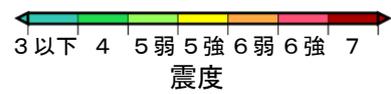


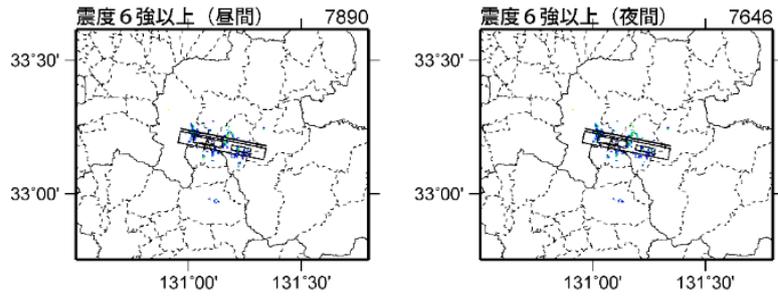
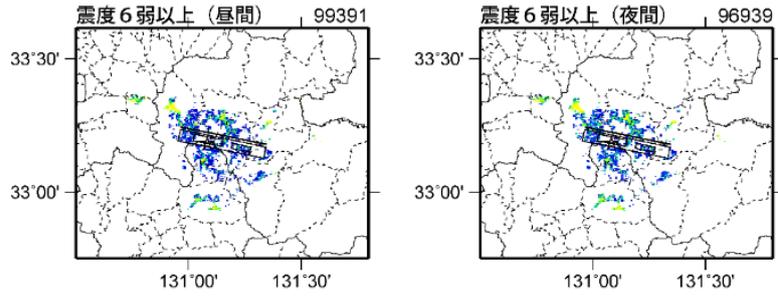
詳細法ケース 4



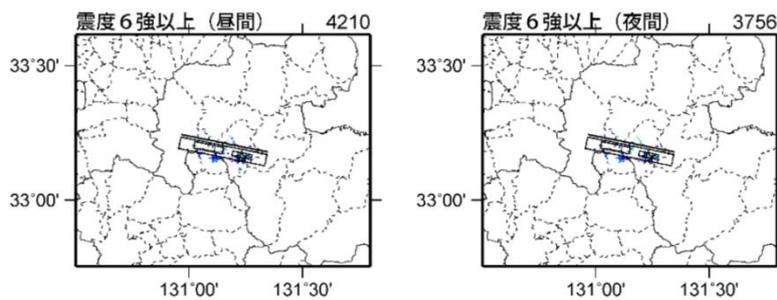
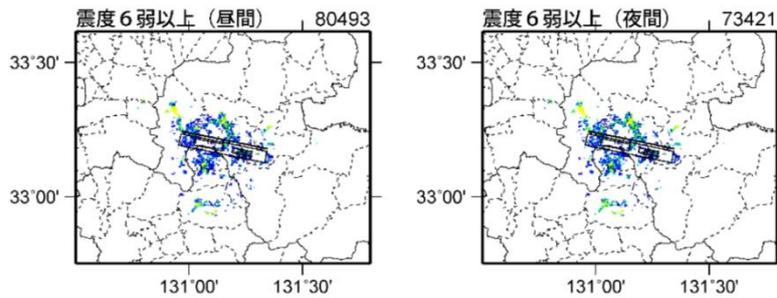
簡便法

地表震度分布





詳細法ケース 1



詳細法ケース 2



(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

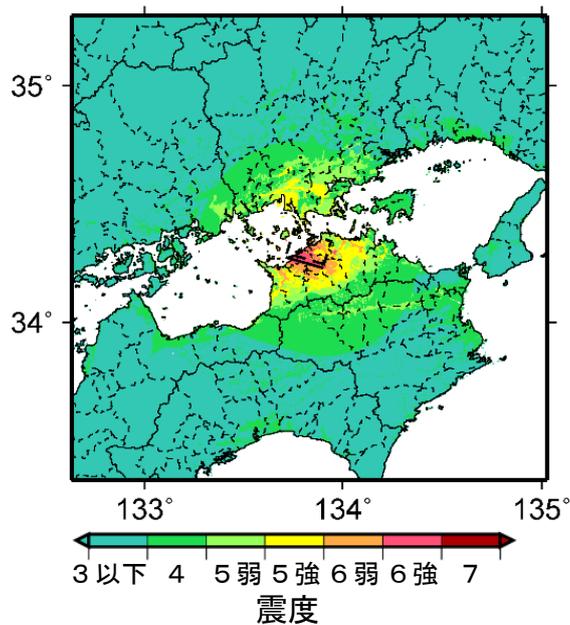
### 震度曝露人口分布の例

## 万年山一崩平山断層帯 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

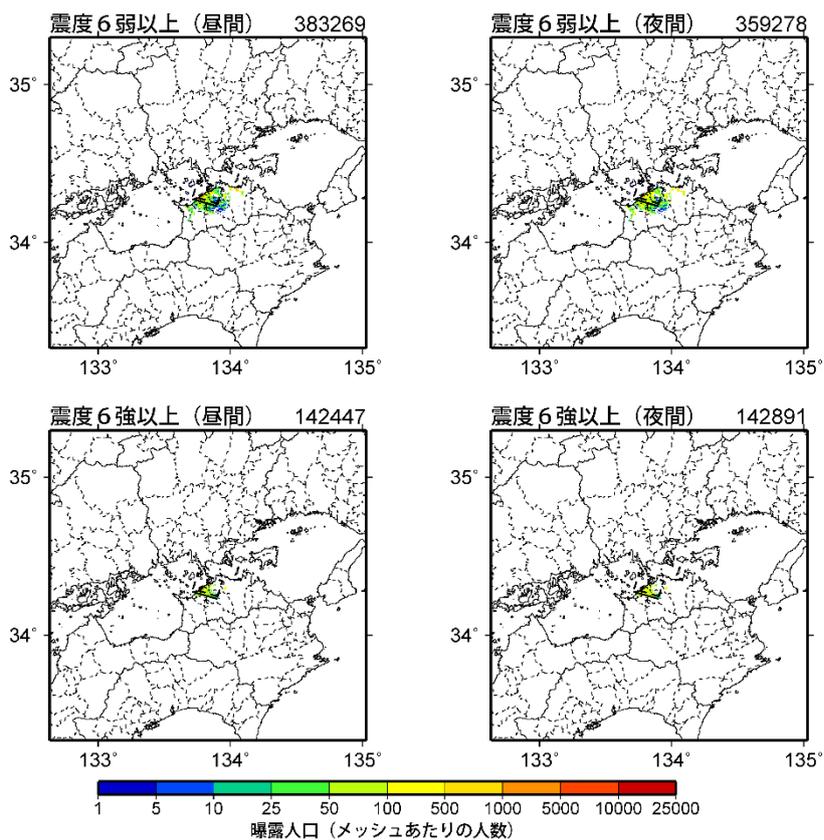
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）  
上法軍寺断層

上法軍寺断層（F022231）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	
断層長さ $L$ [km]	5
地震規模 $M$	6.8
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]	2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]	15
設定手順	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]	4.66E+18
モーメントマグニチュード $M_w$	6.4
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]	289
走向 $\theta$ [度]	286.8
傾斜角 $\delta$ [度]	45
断層モデル原点緯度 [°N]	34.2473
断層モデル原点経度 [°E]	133.9063
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]	2
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]	17
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]	17



簡便法  
地表震度分布



簡便法

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

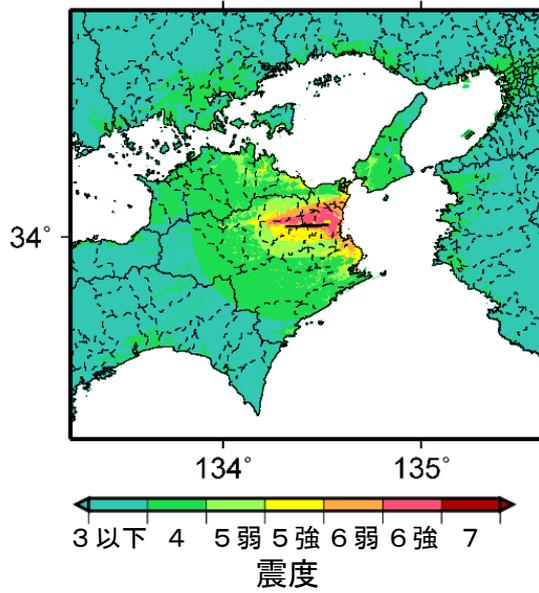
上法軍寺断層

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

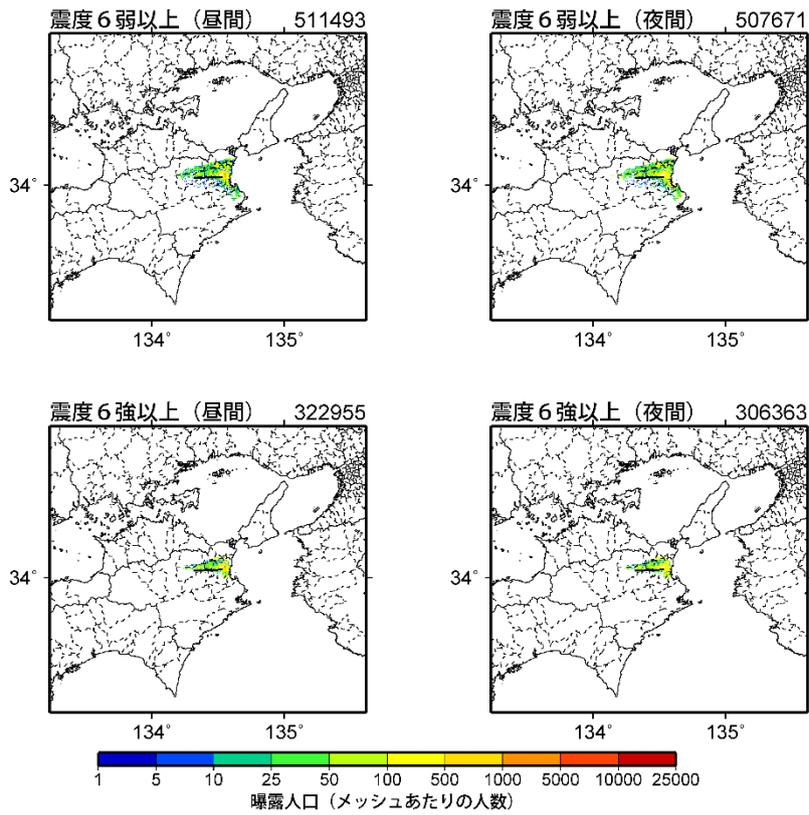
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）  
上浦－西月ノ宮断層

上浦－西月ノ宮断層（F022331）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	
断層長さ $L$ [km]	10
地震規模 $M$	6.8
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]	2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]	15
設定手順	
(イ)	
地震モーメント $M_0$ [Nm]	4.66E+18
モーメントマグニチュード $M_w$	6.4
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]	285
走向 $\theta$ [度]	267.9
傾斜角 $\delta$ [度]	90
断層モデル原点緯度 [°N]	34.0500
断層モデル原点経度 [°E]	134.4783
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]	2
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]	15
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]	19



簡便法  
地表震度分布



簡便法

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

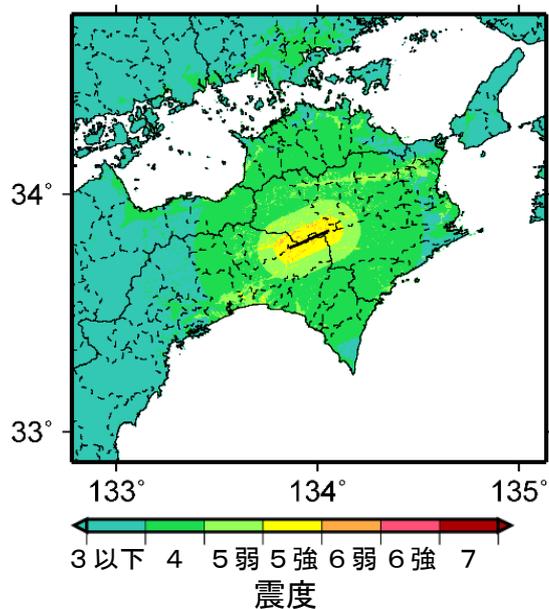
上浦－西月ノ宮断層

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

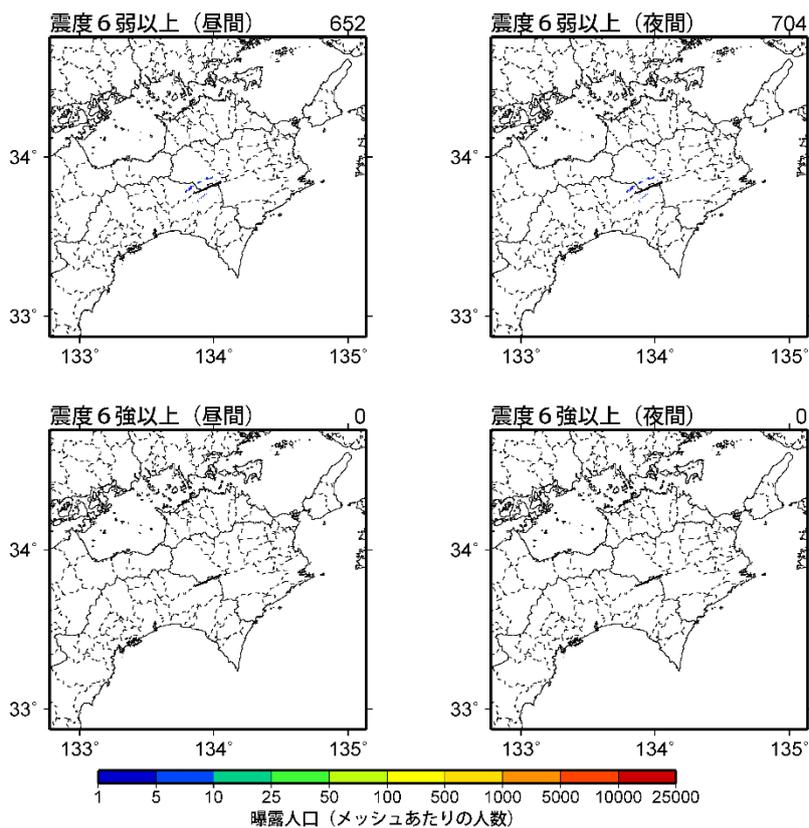
震源断層を特定した地震動予測地図（シナリオ地震動予測地図）  
網附森断層

網附森断層（F022431）の震源パラメータ

巨視的震源パラメータ	
断層長さ $L$ [km]	14
地震規模 $M$	6.8
地震発生層上限深さ $H_s$ [km]	2
地震発生層下限深さ $H_d$ [km]	15
設定手順	(イ)
地震モーメント $M_0$ [Nm]	4.66E+18
モーメントマグニチュード $M_w$	6.4
断層モデル面積 $S_{\text{model}}$ [km <sup>2</sup> ]	285
走向 $\theta$ [度]	245.8
傾斜角 $\delta$ [度]	90
断層モデル原点緯度 [°N]	33.8367
断層モデル原点経度 [°E]	134.0283
断層モデル上端深さ $D_{\text{top}}$ [km]	2
断層モデル長さ $L_{\text{model}}$ [km]	15
断層モデル幅 $W_{\text{model}}$ [km]	19



簡便法  
地表震度分布



簡便法

(各図右肩数字は図域内の曝露人口総数)

震度曝露人口分布の例

網附森断層

震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)